

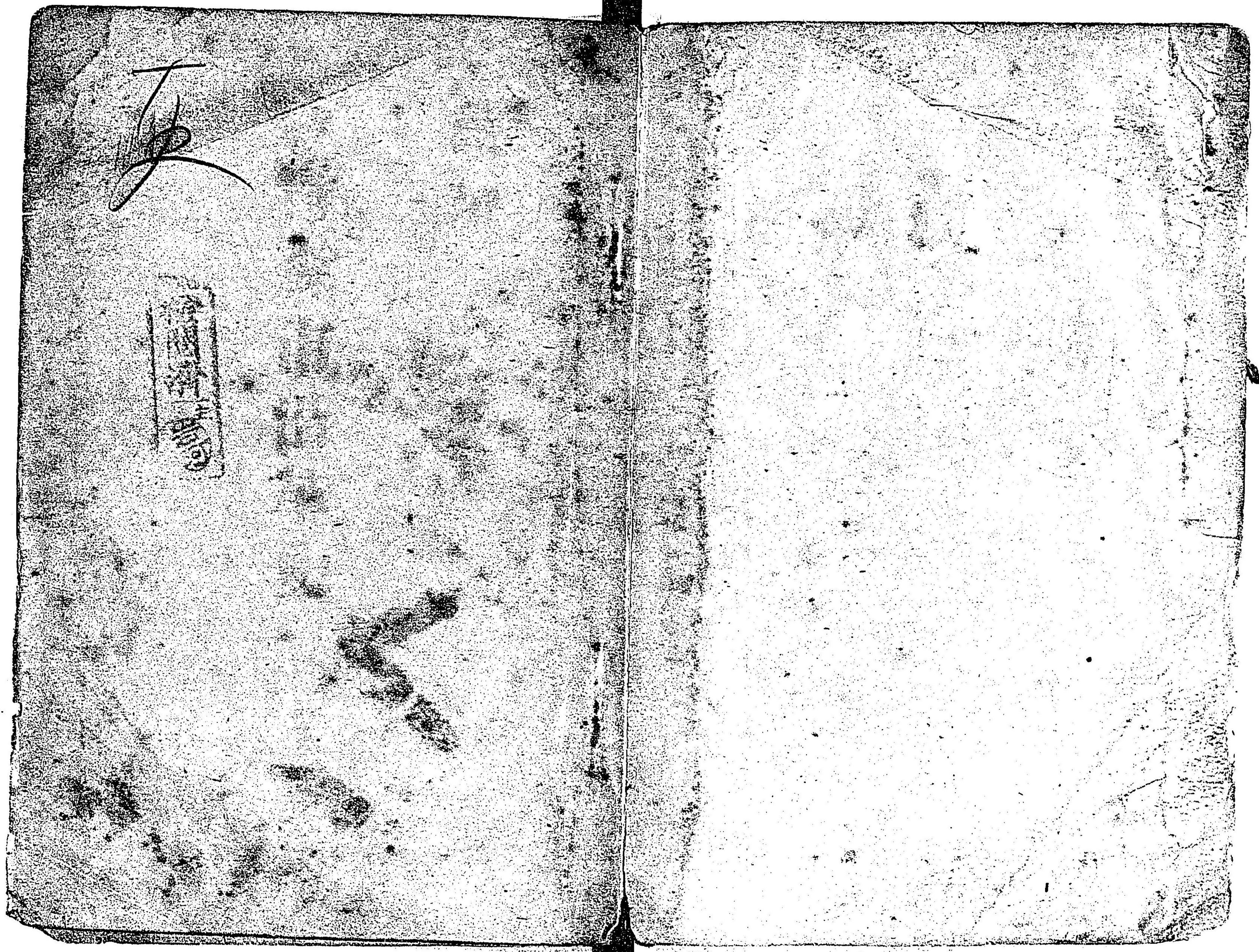
3/6  
110

M

青森市沿革史

中卷







青森市沿革史

中  
卷

明治  
42 11 5  
東京



# 青森市沿革史

## 目次

第二十七章	自天保元十四年 至同四年	一
第二十八章	自弘化元四年 至同六年	二一六
第二十九章	自嘉永元六年 至同六年	二五七
第三十章	自安政元六年 至同六年	三一六
第三十一章	萬延元年	三七七
第三十二章	自文久元三年 至同三年	三九〇
第三十三章	元治元年	四五二



第三十四章

自慶應元年  
至同三年

第三十五章

自明治元年  
至同二十五年

青森市沿革史中卷

第二十七章

信順公六年

〔綱〕天保元年庚寅十二月、大雷鳴あり十六日

〔目〕夜四ツ時過大雷鳴あり寒中雷鳴とは前代未聞と人々申唱候稻妻もまきまじく有之候梯崎日記

〔綱〕青森町奉行所火を失ふ二十日

〔目〕青森町奉行申出候一昨日夜五ツ時前同所町奉行所勝手口自出火に而當番町同心共早速相防候得共折節西風烈敷猶又當番之夜食替り差懸手不足て防方手に餘不得止事大火に相成役所一圓火勢強追々町年寄初町役之者並組之者は勿論詰合諸役方驅付人夫共制道之上取防候得共難相及役所不殘燒失仕り漸四ツ時頃取鎖申候尤門並土藏名主會所共別條無御座候旨達之御日記  
夜五ツ時頃町奉行所出火燒失御用物不少燒失致候詰合町奉行は工藤源左衛門殿なり梯崎日記

〔綱〕新戸は漫よ設立すべからず日誌

〔目〕町在浦々之者共新竈立御停止之義に付明和安永御觸出有之處去卯年大凶作に而



民家過半相減候に付御容赦之上新竈立被仰付來候處此節に至り戸數相増田畑も右に準莫大打開候に付買求力無之者竈立致候而者難澁に及候得共兎角是迄之振合に而百姓は勿論小者に至迄聊所持之田畑分け竈立致候故別宅後本別諸潰に及候もの間々有之猶又商家諸職人逆も手薄之身分自別宅致候得者是又同様而甚以不勘禁之至に候米穀下直之節者如何體にも相凌可申候得共高直に相成候砌者妻子離散に及必竟新竈立獲に相成候處自彼是御扱に相成候者多相生候依之前々御觸出之通新竈立御停止被仰付候乍併二男三男之者父兄之家業方力盡し成立之形相願候者並無據子細有之者之儀ハ格別之儀に付町役村役自其譯申立候者支配頭而與得吟味之上是迄之通申出候様猶又重立之者而も獲に新竈立願不申候様急度相心得候様被仰付候村井舊記

〔綱〕天保二年辛卯正月、醜錢青森町奉行所の新築を請ふ 日 欽

〔目〕青森町奉行所舊臘燒失に而新規取建入目之義中家以上之者共自上納致候に付御取建被仰付度旨青森作事役積書並圖式共相添申出町々之者共自入目上納致候之旨奇特之申出乍去別紙圖式之表に候得者有來より坪増に相成近年に至り御物入増に付何れ建坪並建具敷物迄有來之通にて取建被仰付候間引受町役手にて出來方被仰付候村井舊記

〔綱〕二月、大工町火を失ふ 十 日

〔目〕青森町奉行申出候去る十日朝五ツ時前大工町出火類燒壹軒人馬怪我無之火元申松儀慎申付候旨達之 御 日 記

〔綱〕四月、安方町和次郎孝夫婦篤く褒賞を賜はる 九 日

〔目〕青森安方町和次郎と申者養母多年病身之所夫婦共看病いたし艱難を不服孝行致候旨相聞得奇特之者共付爲御褒美鳥目貳貫文夫婦之者被下置候同所錢屋五左衛門儀右孝心を感じ手當遣候旨奇特に付町奉行に而賞置候様可被申付之旨青森町奉行申遣之 御 日 記

〔綱〕六月、廣田宮杉畑遷る 五 日

〔目〕廣田の宮は今度繰替地の杉畑に御遷宮に相成候村井舊記  
〔編者曰く〕村井所藏青森舊圖に據れば夷の宮即ち廣田四社明宮は今の香取神社舊毘沙門社頭にありて庄兵衛觀音堂と毘沙門堂喪道を隔て對峙せり乃ち知る本文杉畑遷宮とあるハ右毘沙門社頭より現在柳町通神明新社地に移りしものなるべく明治三十年に至るの廣田社地是れかり偶本社縁起書を田川氏に得たれば左に掲ぐ

夷神廣田四社明神宮

一本社 大神宮

一左社 蛭子

一右社 大國主神



事代主神

一磯崎社中將實方公 後に相殿になる

御詠歌

なかもやる雲井の空はいかならん

さぞ身にしむ外濱風

毎年

五月五日

御蔭祭

十月二十日

忌籠祭

抑外濱貝森村夷之宮之由來を尋るに中將實方公之草創にして蝦夷鎮護の御神也  
別而田畑を守り給ふゆへに廣田之神と祭りける

一夷社 一丈四面葦葺 一字

一長床 三間四面葦葺

一鳥居 三ヶ所 橋壹一ヶ所

古來草創年號不詳寛永二乙丑年三月引移被仰付候奉行森山藏之助取扱に而御座候

一末社春日大明神 一字

承應三甲午年五月新建

惣町中

追記

夷之社五月五日御蔭祭と申唱前濱にて假屋取建遷座いたし農漁其外旅泊の船人迄群集夜籠有り繁榮之舊社に候所明暦二申年凶作の砌衰微仕り元祿八亥年大凶作以來祭祀永く絶轉と相成宮居も追年零落に及既に絶轉可成申所に津輕大藏様御下濱の節御參詣にて由來御尋に候間新東庫太夫委細に申上候處に於て舊社絶轉と及候義御厭の旨御意有之て本社一丈四面葦葺長床三間四面葦葺鳥居橋等迄御再興被仰付候御知行之内深澤大野村に於て田方二十二入役御寄附に相成候万歳々々

元祿十一寅年五月

神主 重太夫

(編者曰く該縁起に寛永二年三月引越被仰付と有るも他の舊記に一の類徴をべきもの無ければ眞に疑信の間に置かざるべからず夫れ毘沙門堂創立は寛永十八年の八月にして對峙左方の觀音堂は正保二年の勸請なり推するに本社之貝森村より遷座せしは觀音堂と時を同ふし正保に非ざれば承應年間なるべし末社春日社の勸請は承應三年にあればなり又毘沙門堂賽道を挿みて相對するよりこれを觀るも毘沙門堂ありて然後兩堂を勸請せしは誰れも疑を其間に容れざるべし然りと雖勸請年代遲速は姑らく之れを置き本社は農漁渴仰追縁起の由緒を有するのみならず或は故の中將實方靈を祭るの一説も有り又進藤庄兵衛夫妻塑像の末社に安置し有るより



観るも青森養報者固より勢きに非らざるべく五社の中に列するも亦宜なり  
〔綱〕八月、青森鍛用鐵の專賣を廢せらる 二十二日

〔目〕三奉行申出候青森鍛冶共申出候今泉鐵山鍛出賣弘方に付弘前より取扱方立置佗領  
鐵御締方被仰付猶又同所之義者西澤屋善兵衛伊藤屋新五兵衛の御國産鐵小賣所一  
手扱被仰付罷在候而時々小賣等致候者難義之旨尤右兩人一手扱に被仰付候得共佐  
藤新五兵衛方に而者于今鐵賣買も不致善兵衛方に而賣買致逆も一手扱に而者賣買  
不融通に而大勢之鍛冶共難義に付是迄之通弘賣買相成候様被仰付度旨猶又南部鐵  
之義者一手取扱無之以前者大數錢百匁ニ付目形拾四貫目餘に相調候得共一手扱に  
相成候後鐵善惡不拘箇賣目方拾貳貫目小賣目形拾貫五百目買より賣拂不申渡世方  
相成不申其上拾四貫目買之鐵に而も農具在方の之貨附分百姓高直之由申唱代錢不  
勘定之もの多有之彌以難儀に相成殊に御國産鐵からひ南部鐵に而者薄もの細工に  
相成兼長割鐵に相用得細工等之節者昨年中仲間に而長割鐵錢百匁に付目形拾三貫  
目に注文の處當年積下瀝上之處鐵扱方に而立合吟味之上大坂仕切表の三步之口錢  
相懸不申候得者陸上無之自分注文の品迄口錢等相懸格別高直に相當渡世方往々相  
止候外無御坐候段扱又岩城屋吉右衛門方の庄内之長左衛門儀船に而長割鐵拾三箇  
積來候仲立之者相調吳候様觸參百目に付目形拾壹貫五百目買に約定之所鐵扱方よ  
り船手者勿論問屋手先に而賣買爲致候義難相成趣に付買入破談に相成右之所自鍛

治共難儀に付入鐵員數御改者是迄通弘く賣買被仰付度旨申出候

一御國産鐵之義者鐵性宜候得共しあめ方處未に候歟至而堅く而薄物細工に用立不  
申候よ付山元職人の鍛方被仰付候者上品に相成可申旨青森之儀者南部松前漁場鐵  
刺共外注文細工よて渡世方相營候所鐵性不宜其上高直に而手際も思はしく出來不  
申往々注文先破談に相成家業相止候外無御座に付是迄之通弘く商人手に而賣買に  
相成候様被仰付度旨申出に付在方並弘前鍛冶共會議之處申出之趣も薄物出來難相  
成多減候に付渡世方難相成旨申出候然所香具屋吉右衛門並金木屋治三郎申出書付  
御渡被仰付右申出に者前書兩人自買調候者共半分通者御國鐵宜旨半分通者南部鉄宜  
旨申唱候に付山元に而鍛方會議仕候得者薄物出來方相成不申歟之旨申出候得共賣  
買之者相定居候而者不辨理其上御國鉄拂底之所より追々御用細工並農道具出來方  
差支之儀も難計左候而者御扱向相生可申歟與奉存候間以來弘前並兩濱一手扱御止  
め以前之通佗領入勝手次第賣買致候様左候者何れ之湊口船揚に而も是迄之通御定  
御役錢上納被仰付候様右之趣鯨ヶ澤深浦碓ヶ關青森野内町奉行に被仰付候様御日記

〔綱〕八月、公海防巡察として來る 二十三日

〔目〕屋形様今日夜四ツ時頃御着御本陣は濱町藤林屋源吉海岸御固所御見分なり御目  
見町人之族堤町の東側に而御目見相濟先例に而御目見族自献上物有之  
二十四日安方臺場御見分大筒試打町同心警固鈴木定助勤之夫自漁船にて御本陣に



御歸

二十六日御召船の御乗船

二十七日妙見宮の御參詣夫より入内牧場御見分

二十八日善知鳥宮、毘沙門堂、諏訪宮の御參詣御通り懸け町奉行所の御立寄あり

九月二日漁船の御乗船より相成る漁事被遊候

五日今日四ツ時過上磯の御發駕被成御陣屋の御立寄有之村井新助記

〔綱〕大町兼松屋甚左衛門の孝養よして且一家雍睦なるを篤く褒賞せらる十二日

〔目〕青森大町兼松屋甚左衛門と申者常々實體年來養母の孝行之上家業方相勵家内和合致候旨相達奇特之者に付爲御褒美鳥目貳貫文被下置候村井新助記

〔綱〕十月、青森町奉行所新築成る町年寄村井新助以下七名賞賜あり十四日

〔目〕青森町年寄村井新助、佐藤理左衛門儀同所町奉行所御取立町手を以出來方被仰付候所諸事心を入骨折出精相勤候に付爲御賞目録之通南條三片宛被下置候  
錢屋五左衛門、清野屋卯兵衛、長内屋覺兵衛、奥村屋吉左衛門、米澤屋莊右衛門、右同様に付於青森町奉行所五左衛門、卯兵衛儀は壹人前五百文積覺兵衛、吉左衛門、庄右衛門儀は三百文積を以御酒御肴被下置之御日記

〔綱〕十一月、町年寄村井新助以下二十二人に賞賜あり二日

〔目〕先頃御固所爲御見分御出被仰出候節、青森町藤林屋源吉儀御本陣被仰付候所諸事

行届御用取扱其外別紙之者共御用取扱向格別出精相勤候に付爲御賞頭書之通被下置候此旨可被申渡之旨、青森町奉行の申遣之

於青森町奉行所三百文積を以御酒御肴被下置

- |            |        |           |         |
|------------|--------|-----------|---------|
| 金百疋つゝ      | 藤林屋源吉  | 長内屋覺兵衛    | 河南屋茂右衛門 |
| 鳥目六百文      | 村井新助   | 佐藤理左衛門    | 村井新助    |
| 鳥目三百文宛     | 關源藏    |           |         |
| 同二百文宛      | 佐山左次兵衛 | 鈴木定吉      | 松澤藤吉    |
|            | 砂田喜兵衛  | 幸林吉藏      | 小笠原勝彌   |
|            | 山田可吉   | 鎌田金左衛門    | 秋元勇次郎   |
| 貳百文積を以御酒御肴 |        |           |         |
| 鳥目貳百文宛     |        | 町々名主八人之者共 |         |
| 以          |        | 八人之者共     |         |
| 上御日記       |        |           |         |

〔綱〕十二月、町役醫安達勇三年首拜謁を許さる二十日

〔目〕青森町役醫安達勇三儀數年來病養出精相勤候旨相達候間年頭御目見被仰付候

〔綱〕高齢町女よ壽錢を賜ふ二十九日

〔目〕其方共儀高年之段達御聞御満足に思召候依之爲御酒代鳥目壹貫文宛下置之

同上



大町	和田春庵叔母	大町	惣次郎家守長兵衛母
同	利三郎借屋宇八母	同	孫十郎後家親類一人
煙草町	萬次郎祖母	米二町	庄兵衛借屋喜兵衛
大町	徳左衛門家守長次郎	濱町	磯右衛門祖母
新町	半之丞祖母	新町	松屋和助母
同	寺屋七左衛門祖母	博勞町	永五郎同居金十郎祖母
堤町	三左衛門母	松森町	辰次郎母
安方町	福松母	鍛冶町	太左衛門母
鍛冶町	廣船徳次郎	同	長太郎祖母
同	治左衛門母御日記		

〔綱〕大赦を行はる追放理兵衛以下本所徘徊を許さる 日誌

〔目〕去七月格段之御沙汰を以非常之大赦被仰付候に付別紙之者共右御慈悲を以何れも不埒御容赦之上本所徘徊御免被仰付候者共左之通

覺

青森町上新町勝三郎事理兵衛  
 酒田屋太治兵衛抱子 紅  
 澤屋庄兵衛抱子 七岡  
 松葉屋酒藏抱子花妻 音羽

〔綱〕天保三年壬辰二月、長内屋覺兵衛長崎俵物方取扱役を命せらる 十日

〔目〕青森町奉行申出候同所船問屋竹野屋權四郎と申もの不如意に相成候に付右家業當年より拾ヶ年之内同町長内屋覺兵衛悉皆引擔取世話致候上名目之義は辰巳屋儀兵衛と切替申度旨尤長崎俵物方扱之義者是迄之通權四郎名前を以覺兵衛取扱世話之上取扱仕候得者俵物扱方手續宜旨共申出之通御開届被仰付候様左候は御沙汰相成候舊借並外に諸取引共是迄之通權四郎名前を以悉皆覺兵衛世話致決而御扱向等相成不申候様附紙之通申付候 御日記

〔綱〕四月、博勞町金五郎祖母かん稀なる高齢を以て弘前に於て厚き壽錢を賜はる 十八日

〔目〕青森博勞町永五郎同居金五郎祖母かん御用有之早速弘前へ罷上り候様被仰付候尤途中随分勞候様とも被仰付候弘前逗留中は御賄料百五拾匁宛被下置候 覺

稀成高年、付爲御賞鳥目貳貫文被下置候 御日記  
 九十二歳 永五郎同居 金五郎祖母かん

〔綱〕五月、行商安方町利助及五軒組合之者過料金に處せらる 十四日

〔目〕右者去十二月上磯邊の木綿品々並右解分其外かな糸等隠賣致候所大泊村由兵衛方 青森安方町 利助



に而海岸取締下役御持鎗春吉見當諸品七拾壹品取押候に付内濟爲額合金子三步貳朱差遣候儀相違無之旨申出然者木綿類脊負觸賣之義者兼而嚴重被仰付も有之候處右體之致方不埒に付諸品並金子共不殘御取上之上爲過料錢百目日數三十日之内急度致上納候様同所五軒組合覺十郎權左衛門長助三太郎儀吟味方等閑之所自右體有之不埒に付爲過料錢貳拾五文目つゝ同様上納被仰付候様沙汰之通申付候御日記

綱七月、老公凶報至る 八日

目侍從様去月二十日丑の中刻江戸御屋敷に於て御逝去被遊候に付左に

鳴物停止今日自日數五十日

普請作事 二十一日

渡世の殺生 三日

獄の殺生 五十日村井番記

綱九月、金價復舊す 日缺

目昨卯年閏九月十四日雨かへ百四匁立通用被仰付候處當月に至り元直段百拾貳匁立通用被仰候得共昨年之御直下と違ひ商家迷惑にも不相成穩に取引致候柿崎番記

綱十月、中村屋善助、山内屋文次郎佩刀を許さる 八日

目青森町奉行申出候同所旅人見聞方中村屋善助山内屋文次郎儀旅人吟味方格別心を入實貞出精相勤町中御締に相成候ものに御座候間御用先帶刀御免被仰付度尤旅

人吟味方の義は多分諸浪人懸合等有之候間並町人にては御締合に相拘候義も有之候に付格段御沙汰を以御用先帶刀御免被仰付度儀願之通申付候御日記

綱十一月、竹野屋權四郎負債は長内屋覺兵衛に負擔辨償を命せらる 十二日

青森町 竹野屋權四郎

長内屋覺兵衛

權四郎親類とも

並に濱町名主 加賀屋善兵衛

右者權四郎儀尾上村西屋理三郎與取引之義に付以前重御扱に相成去丑年夫々御仕分被仰付候上者期月急度返金可致處無其義處より理三郎義度々御扱申出候事に相成甚不届之者に有之候然に其方共内覺兵衛儀者權四郎名目切替長崎俵物あらひ御印代不納分其外御沙汰を以御仕分被仰付居候取引之分共當五月引擔被仰付候間權四郎調達不相成候者早速覺兵衛より返金可致處無其儀何れも不届に付加判之者まて一同御引上御糺明可被仰付候處此度者御用捨被仰付候間覺兵衛儀者別而相辨一同熟談之上是迄之滯金來る二十五日迄無間遠理三郎は相渡候は、其旨申出候様尤殘金以來期月渡方延引いたし御扱相成候節者御用捨おく一同御引上御糺明可被仰付候間其旨差心得候様御日記

綱十二月、新町倉廩雇人直次郎厚き褒賞を賜はる 二十一日



〔目〕青森御機掛頭直次郎儀數年來實貞出精相勤殊に御藏扱宜御締方も行届卷之者共迄和順致候旨相達格別奇特之者に付爲御賞鳥目五貫文被下置候同 上

〔綱〕守隨坐權衡の巡檢あり 月日缺

〔目〕此度弘前表秤坐の守隨役人罷下御郡中諸秤目形不同無之様相改候に付諸秤之義古來自守隨彦太郎役人相廻相改候處近年者私事之様に心得候歟諸秤數多所持致候もの秤少々出し見せ不宜秤者隱置或者所持不致旨を申改不請者も有之趣相聞得候前以相觸候通守隨方自役人相廻候節諸秤隱不置不殘出し改請候様可致候尤紛敷秤者取上候筈に候間文政四年被仰付候通心得違無之様此旨可被申付候同 上  
弘前表より秤坐役人改之爲來濱見苦敷の不殘御取上新秤買入致候逗留中割合大家よて九拾匁 柿崎日記

〔綱〕時疫大に猖獗せり

〔目〕閏十一月自十二月中風邪大流行家毎に人數丈皆寢臥候事にて一時何れも難儀致候同 上

〔綱〕米價騰る

〔目〕當年不順氣に而稻かゝみ早敢取不申所自不作に成夫に松前南部入米不口之由小船三四艘入津御印黒米十月未八匁に被仰付夫自段々直上り二十五匁迄に相成酒御印六匁立米屋共思ふ様津出難相成日増米直段も引上酒屋方に而者酒筈三ヶ一御封

印室釜も御封印被仰付へく由之所酒屋中自願出漸々御免に相成小賣白米八合五勺に成る同 上

〔綱〕天保四年癸巳正月、港内結氷せり 十四日朝

〔目〕正月十四日之朝前濱之海懸り船之所迄氷張候前代未聞之事と申唱候同 上

〔綱〕二月、濱町鹽屋惣左衛門弟永作三十鞭十里追放に處せらる 十二日

〔目〕青森濱町鹽屋惣左衛門弟

牢舎之内 永作

我儀一昨年四月松前様御下向之節同所足輕田村達右衛門紛失之箇物質入致候義に付吟味之處悉皆申譯難相立儀者込箇物紛込差札無之共達右衛門荷物與薄々相分候者早速可送届處無其義繰合之ため逆箇物解質入いたし剩惣品數之内拾八品去春達右衛門へ相送候節代金迄受取可申與僞申遣候段共甚以不届之者に付急度可被仰付候處御慈悲を以て格段之御沙汰被下置度旨達右衛門自願出猶隣國之故を以同所役人自も委細申來候趣有之候間此度者格別之御沙汰を以青森町引廻之上鞭刑三十鞭被行十里四方追放大場並外ヶ濱四ヶ組御掛被仰付候

青森大町近江屋文吉支配人 伊助

右者一昨年四月松前様足輕田村達右衛門紛失品之義に付吟味之處取質無之旨申出然に右紛失品鹽屋惣左衛門弟永作儀荷物切解諸品之内文吉店に質入いたし候



趣相願段々取糺候所惣左衛門儀者通帳を以置質致候に付右體之品に者有之間敷  
與存居候旨也文吉儀者八ヶ年以前自江戸表に罷有猶右取質有無御會議之折支配  
人新七病氣に而子供取扱候に付不埒出來恐入候旨委細申出候得共元來通帳之取  
質に有之共御吟味之節不穿鑿いたし勿論通帳之外にも取質紛失品々有之上者申  
譯難相立殊に新七病氣に有之共文吉留守跡之儀者友々念入可取扱處無其儀佗領  
に相拘候義を等閑に致甚以不埒に付家業方取放之上日數三十日戸へ被仰付候

青森濱町名主

加賀屋善兵衛

右者配下菴屋惣左衛門弟永作不屈之義有之に付前書同様不締に付日數十日戸へ  
被仰付候御日記

〔綱〕五月、舊長崎倭物方竹野屋權四郎押込ある十七日

青森 竹野屋權四郎

右者去卯年長崎倭物方自於青森表南部宮古和泉屋民左衛門の渡金之内百兩横取  
いたし候旨相聞得吟味之處右金子民左衛門の則秋返濟之筈挨拶いたし利金も遣候に  
付横取に無之段委細申出候得共申譯難相立義者當年迄三ヶ年之間金子差送不申民  
左衛門自倭物下役の相達下役自去七月迄に差送候様被申付候由に候得共夫成り差  
置候旨然者公邊の拘候金子右體之不埒殊に身代潰に及重き御扱に可相成身分漸々  
覺兵衛取世話に而昨年倭物買入御用被相勤覺兵衛を相取過分金高爲差出候故覺兵

衛も扱難相成御免之儀申出其外取引不實而已多度々御扱に相成不埒至極之者に付  
急度可被仰付所町奉行申出も有之候間此度者格段御沙汰を以永押入被仰付家業方  
は梓雄吉儀幼年より付生長迄の内親類之内自後見申付倭物扱之義は覺兵衛是迄之通  
取扱被仰付候間此未決而家業方の取請不申候様同上

〔綱〕六月、米商長内屋覺兵衛、柿崎屋忠兵衛救恤小賣米の補助賣を特命せらる日誌

〔目〕六月末頃難澁之者共の自分持合米之内小賣致候様被仰付上通は長内屋覺兵衛下  
通は柿崎忠兵衛にて壹人前四合積を以壹匁より白米七合五勺直段にて忠兵衛持場は  
博勢町堤町下堤町松森町煙草町蛭貝町大工町菴町八町通數百軒餘人數五百人餘  
白米二十七八俵拂候處御蔵米御拂被仰付に付此方賣米延引別段賣場は名主各會所  
に被仰付候御日記

〔綱〕貳番船入る售れ日誌

〔目〕當年は凶作と相極候に付貳番數艘入津致候得共木綿其外共一切買手なし菴計賣  
れ餘之荷物は積戻なる同上

〔綱〕八月、米價頗る騰る佐藤準藏、河南屋勘六窮民の結黨を鎮定せり二十四日

〔目〕青森御蔵元自弘前表に附上米同所之者と母大勢徒黨之上附上方差支上を不恐致  
方且佗領の響候而者御威光薄く御外聞之至畢竟其方共手緩之扱に相聞得猶右に付  
却而下々の因循致不似之儀申聞置候趣相聞得下々は是迄之姿に而者又候附上之節如



何體不法有之も難計候間此度者深職掌を盡し何れ不法之者共早速取靜急度御申譯相立候様尤其方とも素自諭之趣意も可有之候得共猶心得別紙相下候間早々不屈之者共に相諭前非を悔候者向後前書之如き無調法不仕所之証札を取其段晝夜を不分早々遠使を以申出候様尤一件頭取控之者四五人同所町同心手に而召捕引上候様申付候 御日記

本年季候不順にて八月七日頃より日々五匁七匁つゝ米價引上げ壹俵六拾匁より百貳拾匁に相成り小賣米は日々行届不申是迄二百俵三百俵と四度迄御拂濟に相成るも必至と小賣差支より市中大騒となり殊に弘前御扶持渡差支候より青森より附上方被仰付と承知致し十四日より十五日之夜に至り新町御藏前竹鎗鋤鎌などを携へ重立へ焚出を申付強訴之事に立至るも町年寄佐藤準藏米町名主河南屋勘六之盡力にて漸く鎮定十七箇條之願書を差出せり村林書記

〔網〕二合賣の人別米初まる 二十四日

〔目〕青森町奉行申出候町々小賣米壹人に付壹合五匁宛賣拂候之様被仰付候に付申付候處在方與違ひ町々小者之儀者山澤之助情も無御座海濱魚鹽杯之利も無御座在方者山海之外與申候ても高無小者は多少に不限田畑も相耕候義に御座候得者凌方も相成可申敷に候得共町方之義は右體之潤茂無御座日雇一通之儀に御座候得者逆も壹合五匁に而者凌方相成兼候間今二十日計之間壹人前二合宛賣拂候様被仰付度義

申出之通申付 御日記

一當町貯穀並蒸米小賣被仰付候は極難之者計は二段に通表仕分御拂  
極難之者 貳合積 壹升壹匁五分  
中位之者 貳合積 壹升壹匁八分 自貳匁迄柿崎日記

〔網〕禁伐林は開放となる 二十五日

〔目〕當年格別不熟作に付在町一統難澁之旨相聞得端々小者に至り雪中焚用にも迫可申に付格段之以御憐愍當年限所々開山之義先頃委細御觸出被仰付通御停止木伐取不申様尙又二葉松之義も御停止木に付是又伐取不申候様被仰付候 御日記

〔網〕味噌醬油の輸出を禁ず 日誌

〔目〕味噌並醬油津出之義御差留被仰付候 同上

〔網〕鱒網の典物は特却を命ぜらる 日誌

〔目〕青森町奉行申出候漁師共質入に致し候鱒網之義漁事之時節に至候得者質返同様にも申付漁事相勵候様取計可申旨申出之趣御聞届被仰付候様 同上

〔網〕十一月、奥村吉左衛門以下十人用達加擔を命ぜらる 二十六日

奥村吉左衛門 錢屋五左衛門 村林平左衛門  
上村屋兵左衛門 柿崎忠兵衛 奥野屋庄藏



澤屋藤兵衛 金澤屋忠左衛門 吹田屋次五兵衛  
和田屋仁左衛門

此度諸廉御用在町重立のもの共引請取扱被仰付候に付其方共儀も御國恩を一同  
難有仕合奉存右御用加擔相勤候之様被仰付之

〔綱〕用達加擔錢屋五右衛門以下九人に厚き褒賜あり 三十日

上田稿壹反宛並壹汁五菜菓子  
錢屋五左衛門 柿崎忠兵衛 村林平左衛門  
綿細壹反宛壹汁三菜菓子  
奥村屋吉左衛門 奥野屋庄藏 和田屋仁左衛門  
右 同

〔綱〕十二月、長内屋覺兵衛酒膳を賜はる 二十二日  
此度御用向被仰付候處早速御請申出奇特之者に付頭書之通被下置之 御日記

〔目〕長内屋覺兵衛儀町貯粉買入方及小者共は手當等差出度々細々取世話致候之旨相  
達奇特之者に付青森町奉行所に於而鳥目五百文積を以御酒御吸物被下置候 同上

〔綱〕奥村吉左衛門年首拜謁を許され徽章麻上下を賜はる

〔目〕奥村吉左衛門義常々支配取扱向宜殊當年柄格別心を用候處自町内一統歸服いた

し其上佗邦買入米取組方差働自分失費を不願御場合柄を相辨候致方奇特に付格段  
之御沙汰を以年頭御目見被仰付御遣御紋御上下被下置之 同上

〔綱〕柿崎忠兵衛大に救恤を務む

〔目〕自分限出入者並煙草町下堤町は手當致候手當之控

- 一 蒸米貳斗 蓮心寺運得寺 一 蒸米壹斗 泰元坊
- 一 白米五升 淨光坊 一 そば貳斗 柿崎伯耆
- 一 蒸米貳斗 内山彦八 一 蒸米貳斗 車屋清七
- 一 蒸米貳斗 柿崎喜兵衛 一 そば貳斗 柿崎彌兵衛
- 一 そば貳斗 近藤平四郎 一 蒸米壹斗 濱田屋六左衛門
- 一 蒸米壹俵 越前屋源右衛門 一 蒸米五升雜穀壹俵 米澤屋左兵衛
- 一 蒸米貳斗 い勢屋久兵衛 一 そば壹斗五升 坂本勝次郎
- 一 蒸米八升 京屋助五郎 一 稗壹斗 柿崎藤兵衛
- 一 稗一斗 健屋善七 一 稗貳斗 い勢屋長左衛門
- 一 蒸米七升雜穀壹俵 名主米澤屋金十郎 一 煙草太
- 一 米壹斗 一 米薪味噌品々 一 米搗大助
- 一 米壹斗五升 一 米壹斗五升蒸米七升雜穀壹俵
- 一 米五升 一 米五升 一 米三升宛 一 米三升宛



外に貳匁宛十三軒

一蒸米四升宛をば四升宛下堤町拾壹軒

外に貳匁宛拾壹軒

一古手壹枚米五升解分壹枚

横町吉田庄助子供四人

一金壹歩

一拾匁

町田喜左衛門

米貳俵貳斗代

補助割合

貳百拾匁

同

此外五分自四分迄手當四百五拾六匁

右者手當補助之人別如斯

其外町々難澁者の補助致方に付兩度割合被仰付上様に而者町御貯自度々御救米被仰候尙又杉畑之松木切取端々難澁之者の割合御手當被仰付候楠崎日記

(編者)曰く世に苟も得るを喜んで與ふるを首肯せざるもの有りこれを吝嗇と謂ふ小商に身を起すもの多くは然りと爲す舊記を閲するに奥村吉左衛門長内屋覺兵衛は否な知らず癸巳の凶歉に際し奉行役人の諭達あるにも拘はらず大に窮民に救恤せしは青森豪富中孰れか忠兵衛の右に出づるものぞ積んで能く散する君子と看做せも豈不可ならんや

〔網〕博勞町は加賀の丸屋某と買越米を豫約せり 日録

〔目〕當町限明年小賣米用意に加賀之丸屋與申船に米貳千石買越額合手付金年内五百

兩相渡候筈三百兩に八百兩兩度に渡す

一當町小賣米之代錢楠崎忠兵衛和田仁左衛門淺野屋某(字兵衛)小嶋庄三郎四軒と御預被仰付楠崎日記

〔網〕錢屋五右衛門以下酒膳を賜ふ 十五日

〔目〕青森町奉行申出候同所町重立之者並中家之者と母組合に而當七月自端々小者共は補助差出猶又前書之者錢屋五左衛門以下は割合申付六貫目餘出錢之上端々小者極究之者四百軒程は補助差出せ申候其外銘々出入小者共に自分に而多分手當等も差出候由相聞得右重立並中家之者共御時合勘辨いたし甚奇特之者共に付私共限に而賞置候様被仰付度左候は此末外々一統勵合にも可相成旨申出之通申付之御日記

〔網〕近江屋善五郎澤屋藤兵衛も亦救恤を務む

〔目〕善五郎は大町の酒屋にして慈善の聞え有りし人あり巳年の凶歲に施惠し貧民の其徳に感せし者抄からず最後の手段として施すべき種の盡きし際には兼て貯へ置きし小糠數百俵を貧民に給與し飢渴を免がるもの儘これあり頗る人々の尊崇を得て敢て陰言なりとも呼び棄にせるもの無く必ず善五郎様と稱せりと云ふ後世誤りて瀧屋善五郎と認し有るも當時善五郎様の稱は全く近江屋善五郎なりと或老人は語りき相原彦太郎筆記

天保巳年の凶歉は天明巳年と何に擇はん若し佐藤準藏河南屋勘六等の徹せり殆ん



と天明の貳の舞を演せしものなるべし一日亡父重兵衛の祖母が早朝に茶屋町へ麴米を買とて行きけるに一婦人の幼き兒を脊負ひて堤大橋の上を往きつ返しつ人の無きを窺ふ體ありしか俄然さんぶと其幼な子を川に投げ逸足出して逃げ去れり人の親の子を思ふ程墓無きことはあらざるに哀れと謂ふも餘り有りけりと又亡父の學校に日々通ひけるに道に横わる行き倒れを跳ね踰へて行くを常とせり又毎戸の人々朝の吾れ先にと早く起き先つ我か小店前の行き倒れを隣りの方に棒もて推しやるを例とせり役人臨檢のうるさきを避くる爲なり如此の習ひも常となれば吾も人も死人の累々たるを見るも恐しとの念慮は絶へて無きものとして當時の慘狀は想像して餘り有るべしと語られき同上

巳年の飢饉は毎朝各町の番小屋前に死人貳三人つゝありその時は我等は死人の顔を撫て遊ひ戯れ習ふて以て常とせり

門前の死人を取り運ひ料は穢多々四匁つゝを給せり

婦人の嬰兒を負ふて途に倒れ死せるに背にある嬰兒は笑ひたる儘穢多々運ひ去らるゝものも有りき古川權藏直話

豪商澤屋藤兵衛は宅前に大なる釜を居へ日を定めて粥を施せり一人壹椀と限る額上に墨を抹して既食の記しとせり中には既に嘔り終り額の墨を消して再び乞ふあり或は半ば消して乞ふものあり偶には一嘔し其儘絶命するものもありしと 柏原筆記

網天保五年甲午正月、村林平兵衛貿易料粕酒五百樽の輸出を請ふ許さる 二日

目青森町奉行申出候同所之村林平兵衛糧昆布並魚油爲交易粕酒五百樽津出被仰付度旨申出候間被仰付候様附紙之通右津出之儀に付御縁合相立候様 御日記

(編者曰く糧昆布とは何ぞ粗悪昆布にしてこれを薄粥に雜へ煮て食ふ飢民當年の一食料にして平兵衛の發明に係る粕酒とは何ぞ所謂もろみ酒の一名と聞く其實は濁酒あり青森人今に皆謂ふ青森造酒家の衰頹せる寛政幕府の松前直轄に原因せりと余會て其非を駁せり蓋し直轄とありしは敢て影響を及さざるに非ず而して售れざるものは津輕醸造悪の自ら招きし禍なり今本條を讀むに及んで彌其原因を乞に求めざるべからし何を以てこれを謂ふ天保の寛政を距る五十有餘年後に非せや津輕釀の立脚地を失ひしより既に幾歳月ぞや然りと雖進みて售らるべきの道を求むればもろみ濁酒すら猶其道あり然らば則ち上等社會は固より其價を問はず丹釀大山をこれ食ふも上等社會は數人のみ下等社會は固より廉價を喜ぶもの夥多なるの本條五百樽に徴し知るべき焉耳五百樽は姑らくこれを置く御縁合相立候様の勘定奉行會議書を翫味するも五百樽は眞の口味のみ五千も五萬も弘前藩の望を屬して誤らざるもの有るは必せることにして平兵衛の何等の豪傑ぞ注目する尋常ならず惜らざるは舊記缺乏し其顛末を審にするに足るもの無きを吾故に曰く青森酒戸の衰敗は第一商業不熱心よして進んで販路を求めざるなり第二は徒に怨望を丹釀大山に



屬して自ら改良を圖らざるなり正徳六十二戸の醸造家をして先づ一方は濫悪酒の販路を求め一方には逐次伊丹大山様の改良を断行せしならば松前を擧げて永遠に我が指願の間に立たしむべし何ぞ今日唯二三戸の委徴振はざる酒戸を觀るの惨劇を演ぜるこれ有らんや一言以てこれを評せん青森醸造家は案山子なりと幸に其無禮を尤むる勿れ

〔綱〕二月、町大野の窮民に恩赦あり二日

〔目〕青森町奉行申出候同所住居大野村農業之者共野の謂ひにして明治以前にありはて新町南側を通して町大野と寛政年中貯糶被仰付是迄數年上納仕來罷在候所去作不熟に附し莊屋之を支配せり付此節極究之者共在方並合貯糶之内六ヶ一御救米被仰付度旨委細申出候間在方並合之通御救被仰付候様左候者右之趣郡奉行にも被仰付候様附紙之通申付之御日記

〔綱〕竹野屋權四郎半舎を命せらるる十二日

〔目〕三奉行申出候青森竹野屋權四郎不屈に寄家業方之内長崎俵物御用取扱御取放之上長内屋覺兵衛に取扱被仰付度一條不得止事相聞候間夫々申出之通申付候尤權四郎家屋敷並懸屋敷御取上覺兵衛に被下置度申出候得共家屋敷之義者享和年中與大兵衛代御取上被仰付を長崎根証文に書入に相成居候故を以當分御預相成居候得者覺兵衛に被下置賣拂坏之儀難被仰付候得者是迄之通根証文に書入置儀に者矢張是迄之形を以覺兵衛に御預可被仰付候

一覺兵衛に御預被仰付候逆權四郎家内住所引立候儀に而者外に住所無之候間問屋家業方差支客船扱之受料薄き所自借財返済方滯自然佗領銀主とも騒立可申に付是迄之通住居致せ置候様

一享保年中權四郎親追放に相成右跡親類之内傳右衛門取扱に相成候節者長尾忠左衛門詰合に而長崎御役人其地の着之折右傳右衛門に取扱可被仰付歟又者別人可被仰付歟之儀紙面を以て懸合し及候趣に候得者初者向方の伺せ候形にも相聞得候其節之返書役筋之者差出候様申來候に付町年寄村井新次郎差出候儀も有之又御差圖に寄平田武十郎傳右衛門の後見爲致候儀も有之候得者此度長崎御役人の申入候之節御沙汰を以被仰付候所之御威光一遍に而氣請如何様之程も難圖候間右等之所深く心得差心得取扱候之様

一俵物取扱向權四郎段々不埒し寄御取放被仰付候譯雄吉並後見傳右衛門其外惣親類共にも元來之事務委く諭置不申候而者佗領銀主共者内々如何様之儀申觸御扱出來候も難計候素自覺兵衛儀大金取替有之歟者乍申右之内相對に而貸遣候分も有之又四拾貫目餘を取替有之旨是等者別而相對之舊借惣而町家身上償に及分散等之節者右體之分諸銀主一同之割合に入候部然者覺兵衛儀も權四郎の前書之貸方有之所自權四郎より懸屋敷並俵物扱御取放覺兵衛に被下置候譯に相成候而者雄吉並親類共其外自然に自佗銀主とも不服に候間右等之心得も有之候様



一右夫々申付候處に而長崎御役人其他に到着候不相待覺兵衛向地の渡海致せ候上  
右等之一條其方共自俵物懸之方始末申遣候與歟之義者享和年中之振合深く穿  
鑿之上手落之扱無之様

一尾張様御領美濃之商人にも權四郎所持之懸屋敷書入に相成居候趣相聞得候然者  
雄吉儀問屋家業扱受料而已者年々返濟違約之節者自分書入之家屋敷等引扱之御  
扱可申出候者可相渡屋敷地無之所自如何體之御扱相生候も難計仍而何も前後能  
々相辨取扱候様

一權四郎儀者其方共申出之通入牢申付候間町同心手を以引上牢奉行の相渡候様  
右之趣夫々青森町奉行の被仰付候様尤以前竹野屋與次兵衛跡の親類之傳右衛門取  
扱に相成候節江戸表に而右之趣公邊の御届之儀御留守居に被仰付其筋の内々打合  
候之所右に不及旨追々御留守居申出御坐候間右等之儀者何れ共不申上候旨汰沙之  
通申付之同上

〔網〕護摩密法を毘沙門堂に於て初めて舉行せり 七日

〔目〕青森毘沙門堂堂守地福院申出候職道爲冥加御買越米海上安全御祈禱修行二月十  
六日詰願に付同十七日自御國家安全五穀豐饒火難消除時疾退散漁事充綱之御祈禱  
並毎月三日護摩供脩法密言唱町中相廻候儀申出別而差障之儀相見得不申候間申出  
之通被仰付候様附紙之通申付之同上

〔網〕近江屋利助竹野屋雄吉の後見となる 十三日

〔目〕青森町竹野屋權四郎儀不届之儀有之此度入牢被仰付所忝雄吉未だ幼年に而家事  
取扱方難相成候間舊家を被思召格段之御沙汰を以同町近江屋利助儀雄吉盛長迄之  
内家事見繼被仰付候間厚差合此末御取扱之儀不申出候様此旨可被仰付旨青森町奉  
行の申遣之同上

〔網〕廣居茂三郎座主とあり寺町に於て演劇場を開く 十四日

〔目〕青森町奉行申出候廣居茂三郎於青森表歌舞伎芝居興行之儀當午年中弘前表並青  
森表に興行被仰付罷有候間書面申出之趣御聞届被仰付候様附紙之通申付之同上

〔網〕水主糶米税は輸出米に準ずべし 二十七日

〔目〕青森港目付申出候同所船々糧米御役錢之儀申出候得共右之儀頃日申通置候通當  
時一切食類津出御差留之儀、付米津出御役相塙無御座候間四斗入壹俵に付御役貳  
拾匁之積を以割合取立候様被仰付候様附紙之通申付之同上

〔網〕長内屋覺兵衛酒膳を賜はる 同上

〔目〕青森町長内屋覺兵衛儀在方極究之者共補助差出奇特に付鳥目五百文積を以於  
同所町奉行所御酒御吸物御肴被下置候 同上

〔網〕三月、長内屋覺兵衛又々酒膳を賜はる 十六日



〔目〕青森町長内屋覺兵衛與申者浦町組村々の稗袋百俵補助差出候旨相聞得奇特に付爲御賞於同所奉行所御酒御吸物引肴貳種被下置候 同上

〔綱〕近江屋理助は竹野屋權四郎の看守人を命せらる 二十九日

〔目〕青森町奉行申出候長崎儀物取扱竹野屋權四郎儀數年來不埒之取扱相重不納金千百兩餘に相成既重御扱に相成可申儀出來仕候去五月永押込被仰付罷在候者に御座候處不愼其上家事彌増不取締客船荷物等迄取潰色々悪工等も仕候者に付入牢之義申立之通被仰付罷在候處此度長崎御役人御取調之儀に付出牢申上候然處右御用相濟候所に而長崎御役人御頼に寄委細先日申上候通不得止事親類近江屋理助に預置今以同心町役附添せ罷在申候長崎御役人入牢に無之取扱吳候様厚挨拶も御座候間此末入牢之儀者御免被仰付右理助方の嚴重一間所出來之上相愼之様可被仰付歟之儀伺之通 同上

〔綱〕丸屋傳右衛門船は終身港出入の水主税を免せらる金圓の賞賜あり

〔目〕青森町奉行申出候同所買越米積下候加州丸屋傳右衛門同傳四郎手船沖船頭嘉左衛門伊兵衛與申者買越穀心配罷下候に付御賞被下方之儀申出候然者右約定に付左秋御賞向も一通被仰付候此度代金等時宜之懸引に隨ひ取延にも至候者厚御賞向も可申上候得共夫々代金相渡候上者別に御賞向之儀者難申上外船々約定之分者去秋御賞被下方無御座候所自頃日申上候に付申出之趣難被仰付候乍去買穀六ヶ敷所心

配差働候趣申出候間爲御賞嘉左衛門伊兵衛生涯水主税御免之上爲御酒代壹艘に金七百疋つゝ被下置度船主の者別に被下方に及申間敷與奉存候左候者水主税御免之儀浦々町奉行湊目付勤番目付にも被仰付候様別段役の者私共自可申付旨附紙之通申付之 同上

〔綱〕四月、高屋治助用鍛冶を命ぜられ且酒錢の褒賜あり 十五日

〔目〕郡奉行申出候青森町住居鍛冶治助と申者年々浦町横内兩組村々の野道具細工貸いたし居候所去秋不熟に而取立方一切相成不申候所自難澁之者御座候共是迄之通不相替細工貸致農事差支不申候様仕度旨然處青森町住居に而町並合之諸役並船具細工等有之農具運成耕作手に相成候者儘御座候由隨而右治助儀並合町諸役御免之上御賞被仰付外々濱四ヶ組村々農道具一通細工いたし候様被仰付度旨申出候得共是迄浦町横内兩組細工貸之處此末外ヶ濱四ヶ組村々の細工に御座候得者細工増にも相成且者銘々諸工業に付町並諸役御免被仰付而者外御用諸工之者差障之筋御座候間町並諸役之儀者御免難被仰付奉存候乍去々作不熟に而取立方難相成候得共不相替是迄之通細工貸之儀農事差支不申義者奇特之者に御座候間此末爲勵合爲御酒代申出之内鳥目壹貫五百文被下置御用鍛冶被仰付候様猶又外ヶ濱四ヶ組農事出精に相働候様被仰付候様 同上

〔綱〕油魚の輸出は特許ある 二十日



〔目〕青森町奉行申出候同所名主共申出候當一番船積下蓋不足に付在町差支に相成可申候得共此節同所不融通に而蓋積下船入津に而も買入可申體無御座候に付市内中穿鑿之所魚燈油相應之持合に付右之内三百挺船手の相渡穀物並鹽爲交易津出之儀頃日申出候得共魚燈油之義も當種油不足可致候に付舊冬同所村林平兵衛紺屋町綿屋宇三郎願出に寄り津出難相成醬油粕酒等津出交易之上に而孕に相成候魚燈油之義に付津出難相成旨相濟候處又々書面之通申出之趣難默止相聞得申候殊に前書魚燈油備方之義者當秋迄之内急度買入相備可申旨共委細申出候間此度限格段之御沙汰を以て申出之通三百挺入御役之振合を以て四斗入壹挺貳匁宛上納之上津出被仰付候様左候得者右之趣同所湊目付勤番目付に被仰付候儀者大目付に被仰付候様別段役の者私共自可申付旨附紙之通 同上

〔網〕加賀の米商と買越米の約束成る 二十三日

〔目〕青森町年寄申出候同所表小賣米當秋迄之所不足に付此度加州表え六百五拾石貳番下約定取究候旨申出之趣御聞届被仰付候様附紙之通申付之 同上

〔網〕五月、藩公坐乗船進水式を舉行す 八日

〔目〕青森御乗船早速臺下いたし候様被仰付候此旨可被申付旨青森町奉行に申遣之同上

〔網〕町年寄佐藤理左衛門以下八人に賞賜あり

〔目〕青森町年寄佐藤理左衛門儀數年來御用向格別出精相勤誠實之扱向自町中一統歸服いたし殊に兼々存寄を以重立申合貯糶等致置候處自此節柄一統靜謐に罷在候之旨相聞得尙又理左衛門家柄之義者青森町草創之舊家にも有之候間格別之以御憐愍本知五拾石に被召直候地方舊記にて百石に作る説り也

一青森町年寄村井新助儀此節柄色々臨時御用向も有之處出精相勤殊に小者共救方等迄行届骨折相勤候處自町内一統安心いたし居候旨相達候に付爲御賞御遣御紋御上下被下置候

一青森米町名主近江屋理助濱町名主金澤屋忠左衛門安方町名主錢屋五左衛門儀此節柄町内取扱向宜一統歸服致猶又町内極究之者共之補助等差出候旨相達候間年頭御目見被仰付候

一博勞町名主米澤屋金十郎大工町名主河南屋勘六儀右同様に付御通懸御目見被仰付候  
一新町名主寺屋源司蛭貝町名主木下屋友次郎儀右同様に付爲御賞於青森町奉行所御酒御吸物被下置候

但島目五百文積を以被下置候 同上

〔網〕六月、公來る淹留數日

〔目〕屋形様當年三度御下濱にて就中七月には爲御馳走惣町自七夕祭並盆踊御覽に入



御目見之族自献上物等有之町割合も不少大迷惑致候よしあり権時日記

〔綱〕大町善次郎、鹽町勘兵衛両遺孤貳人口を賜はる 二十七日

〔目〕大町善次郎、鹽町勘兵衛子親病死後日々食用に相迫まり難澁之旨達御聽御不便に被爲思召格別以御慈悲之御尊慮成長迄之内貳人扶持宛被下置漁師與七の御預被仰付與七親子には三人扶持被下置候村井書記

〔綱〕八月、堤橋成る渡初の式を擧ぐ 十七日

〔目〕今日堤町大橋渡始、付諸役人尙又高年之者共左之通

- 安達 勇 三十五歳 同人 妻つね七十歳
- 佐山 佐次兵衛 七十六歳 同人 妻め、七十七歳
- 白取 仁 介 七十四歳 同人 妻のへ七十二歳
- 嶋屋 長兵衛 七十七歳 同人 妻よし七十二歳
- 米町 七右衛門 同人 妻のふ七十一歳
- 蛭貝町 富五郎 七十五歳 同人 妻とよ七十二歳

右六夫婦其外作事吟味役菊池武助同受拂役工藤新助棟梁福田久太郎脇棟梁木立傳吉大工共鍛冶石工懸合之もの共罷出盡九ツ時棟上式相濟候事

頭衆並拙者共待受所に而作事方自神酒二樽備餅二通被進候内壹樽一通り高年之者被下尙又鳥目壹貫文末廣登對添被下候事爲御祝儀重五重小豆餅被進名主共

自爲祝儀五重一組砂鉢二枚吸物一度強飯差上酒宴之事

- 頭衆御待受宿 八田屋六右衛門
- 高年待受宿 稻見屋九郎兵衛

御頭黒淵常作殿御供先拂貳人先步行三人若黨貳人乘馬壹疋鎧狹箱沓籠草履取先徒之儀は黒縮緬羽織袴若黨役付帷子袴

〔綱〕九月、丸屋成約米釀の輸出は特許となる 二十八日

〔目〕青森町奉行申出候同所町小賣米不足之見込に而當五月加州丸屋手船の米六百五拾石約定いたじ候處上方筋米價引上り買入方六ヶ敷追々買入手配之上當月二十一日右米着岸に相成候然者此節豊作に相治同所小賣所も引拂之場合に付右米不用に付遲着之趣を以返替之懸合にも可及候得共手附金も貳百兩差遣置候義其上當春自米買入方之儀に付段々取世話にも相成候儀理合も相立不申旨書面之通申出候然る處松前表酒拂底に付右米陸上同所酒屋六軒にて造酒仕込酒貳斗入貳千五百樽松前表の津出被仰付度旨申出之通被仰付候様奉存候御印代之儀孕米に而者決而仕込不申之様附紙之通申付候御日記

〔綱〕十一月、船問屋岩城屋吉郎左衛門母押込を命せらる 十六日

〔目〕右者去十月大坂之長左衛門船の米隠積致し候趣相聞得吟味之處懸合之趣不得止

青森濱町船問屋 岩城屋吉郎左衛門母の



事白米拾三俵買入方吉郎左衛門口添致し積入候儀相違無之旨及白狀然者昨年之儀者一同之不作喰料手配方下々難儀之場合も不辨右體之いたし方甚以不屈之者に付急度御刑法可被仰付候處去冬大赦被行候以前之儀に付右以御憐愍日數五十日押込被仰付候

青森町 鍵屋 善七

三國屋 九左衛門  
能登作 左衛門

親類岩城屋吉郎左衛門隠津出一行に付吟味中出奔いたし候に付家業方御取放も可被仰付候之處此度者格段之以御憐愍妻子に被下置候間其方共時々見聞相加へ以來不埒之儀無之様被仰付 同上

〔綱〕十二月、奥村吉左衛門修身三人口を賜はる 二日

〔目〕青森町奉行申出候同所大町名主奥村屋吉左衛門儀當年同所小者共に補助等差出し殊に買越取組方心を入格別出精相勤候に付生涯之内三人扶持被下置旨申遣之

同上

〔綱〕年頭松飾式は五日間たるへし 二日

〔目〕年頭御松飾是迄三日之内に而四日御引松之處以來五日迄御松飾六日朝納候様被仰付候間三御關所並浦々町奉行所とも五日之内御松飾被仰付候 村井舊記

〔綱〕村井新助以下藤林源吉に至る十四人酒膳を賜はる 十九日

〔目〕青森町奉行申出候御通行之節出精相勤候に付御賞向被仰付度儀

青森町年寄 村井新助 佐藤理右衛門 村井新藏

右三人壹人五百文積を以於町奉行所御酒御吸物引肴貳種被下置候様

同所名主

大町 奥村吉左衛門 米町 近江屋理助 濱町 金澤屋忠左衛門  
安方町 錢屋五左衛門 博勢町 米澤屋金十郎 大工町 河南屋勘六  
新町 寺屋源司 蛭貝町 木下屋友次郎

右八人壹人五百文積を以於町奉行所御酒御吸物引肴貳種被下置候様

御本陣

長内屋 覺兵衛 村林平兵衛 米澤屋庄左衛門 藤林屋源吉

右同斷被下置候様

右之通御賞方被仰付候様附紙之通申付之 御日記

〔綱〕奥村吉左衛門以下の豪商散樂を弘前に拜觀す 日 快

〔目〕當年は不存寄豊熟にて昨年以來重立之者救恤に盡力致候爲御賞御能拜見被仰付候弘前の不罷上ものは赤飯並御菓子頂戴と相成る 柿崎舊記

〔綱〕商況振はれ



〔目〕當年豊作に相成候得共町人米一切沖出不被仰付御藏米者直段に寄り津出に相成候に付新米出先自極月迄段々下直に相成勘定方も埒明不申必竟は津出差留入金無之故米價引下殊に入米調も有酒屋中の者御借付米被仰付候故引米直段引下に相成候

八月中今摺米六拾四五匁より四拾匁まで

新米四拾四五匁より三十匁まで

九月より十一月まで日増段々下落三十匁より二十貳匁迄になる

當年熟作には有之候も去當年町方入米調方嚴重に被仰付米問屋之者共入口に而日々數壹俵壹分宛調子料取米屋並町方より毎月二十九日拂先一々出入書記問屋上締長内屋覺兵衛方の差出に付在町一統之迷惑に相成候 柿崎日記

〔編者〕曰く余市史を編んで本條に至り甚た有司の拙劣にして小民と些利を争ふを慨く也國君は民を堵に安するもの也米商も青森の市民あり其生活し堵に安するを得るものは米價低昂一厘一毛些利を争ふの間にあるのみ夫れ彼れを禁じ已れを利することは賤丈夫も猶屑とせざるものに非ずや柿崎舊記に町人米へ一切沖出不被仰付御藏米は直段に寄り津出に相成新米段々下落に相成るとは彼れを禁じ已れを利するに非ずして何ぞ又酒屋中の者御借米被仰付候故引米直段引下に相成り入米調嚴重にて一統之迷惑に相成るとは是亦彼れを禁じ已れを利するの一手段に非らず

や此三條に徴し當日小米商の窮縮伸る能はざるの情況は知るべきのみ試にこれと思へ青森藏米は假りに拾貳三萬俵と看做すも十にして七八は江戸大坂の廻漕米となる其餘も所は幾干ぞ二三萬俵のみ藩公は大名あり米商は青森細民あり二三萬俵れざるの故を以て何必すしも月懸相違の小民と拮抗し彼れを斃し已れを利するをこれ圖るべけんや有司の舉措は一々民を病ますにあるのみ米商たるものにして當時柿崎を首とし怨言有るが如き必ずしも尤むからざるに似たり況んや入米調は密輸出を防ぐ荒政當日の一策のみ豊稔を見るも何ぞ猶繼續るをこれ要せんや天保午年は今に至るまで人々其大に年有るを稱するなるに何を苦んで猶荒政策を講じ人をして在町一統之迷惑すとの言をなさしむるや勘定奉行の小器あるより遂に累ひを我公よ及ぼす焉んぞ其罪を遁るゝを得乎哉

〔綱〕天保六年乙未正月、東風暴 四日

〔目〕青森渡目付申出候松前之市之助船去る四日之朝大時化に而破船に相成右船柄沖館村前沖に漂着同十三日漁船差向陸上致船具者船頭と相渡候旨申遣之 御日記

〔綱〕二月、葺屋材料輸入税は特免とある 十四日

〔目〕山奉行申出候佗領入榎木舞之儀者先達而より度々申上候通御山爲補入御役御免之上荷止被仰付候様



佗領入柁木舞之儀御山盛山迄當分之内申出之通被仰付候様右之趣青森町奉行  
被仰付候様 同上

〔綱〕四月、嘉祥丸は近江屋理助に拂下となる 七日

〔目〕青森町奉行申出候青森造酒家業近江屋理助と申者近年不如意に相成造酒仕込方  
行届兼難澁に付御手船嘉祥丸御拂渡被仰付度旨左候得者手入之上乗廻右助勢を以  
相續致度趣共委細私共迄申出候然者右御船之儀此頃申上候通望人有之次第御拂向  
之義御聞届被仰付罷有候に付永々差置候而者痛み損増に相成直段下落之程難計奉  
存候間理助願出之通御拂被仰付候様尤代金四百兩之内百兩者只今上納跡六ヶ年賦  
申出候得共被仰付方難申上候何れ右高之内百五拾兩正金即納被仰付残り貳百五拾  
兩之儀者來申年より亥年迄四ヶ年割上納被仰付候様左候者年割上納金之儀者年々  
無缺目上納候様被仰付候様右之趣青森町奉行に被仰付方之儀夫々私共より可申通  
旨附紙之通申付之 同上

〔綱〕五月、常夜燈臺成る 十七日

〔目〕御目付伴勇藏申出候青森湊常燈新規取建被仰付候に付右入用諸品渡之儀申出穿  
鑿仕候所元來同所御定渡し之儀者一ヶ月燈油六合六勺六才附木燈眞之儀者小に而  
壹把二步宛之積に而相渡申候然者此度申出入用高過分に相見得候間申出之内假名  
糸之儀者三ヶ一渡附木之儀者小に而貳把宛渡方可被仰付哉之儀申出明油之儀者一

ヶ月三升宛假名糸之儀者一月五把宛渡方に相成候旨附紙之通申付之 同上

〔編者曰く常夜燈臺遺址は上濱町今の病院西側海岸通りの西直側にあり今は某の宅  
地となり櫓作にして船舶の目標とせり當時は中濱町海岸湊役所の屋上に結構せ  
しに其後早晚遺址に移築せしものにて其移築と消燃料茂合錢納め來りしの月日は  
舊記に見る所無し蓋し移築は天保七八年以後のことにして茂合出錢も其時に定り  
たるものなるべし本十月船舶請願の條參看せし

〔綱〕五月、廣田神社夜籠廢典を擧げんことを請ふ 二日

〔目〕青森町奉行申出候青森夷之社廣田大明神往古五月五日祭事之節御旅と申唱年々  
前濱に假殿相立遷座仕夜籠等御座候節の漁事も相應之由御座候得共近年永相廢候  
に付已年舊例之祭事再興願之趣差障之義無御座候間願之通被仰付候之様附紙之通  
申付之 御日記

〔綱〕六月、仙臺買越米遠州の與三郎船入る 十一日

〔目〕勘定奉行申出候昨年仙臺様は御頼入相成候御米千俵此度請取方に付江戸詰合御  
勝手方小頭丸瀬門彌罷下同所石之巻に而請取遠州與三郎船は積入差下候處昨十一  
日青森湊に入津之旨申出候間右御米之儀者青森御藏納被仰付候様申出之通申付之  
同上

〔綱〕七月、村林平兵衛に公債半額を賜ふ 二日



四二

〔目〕青森間屋村林平兵衛申出候一昨年凶作に付御國民食料補に可相成品平兵衛心附に而押目昆布取組被仰付在町に賣弘候處兎角不捌に而取組先見合罷有候處去春農業之時節も至在方食料不足にも可有之に付右昆布差支無之様手配方申付候之様御演説も御座候に付取組方先申遣附上に相成候に付在町に賣渡せ候處兎角不向に而小分之捌方相成殘五百俵近年色々物入續に而内通不手操之處は右昆布代錢貳拾貫目損分に相成候而者身上潰に及外無御座候旨委細書面之通申出御座候得共右取組之儀者自分取組に而損益御取揚可相成部に者無御座候得共御演説之趣も御座候殊御國益相辨へ取組候儀奇特にも相聞得候に付御場合柄には御座候得共眼前身上潰に及候義其儘も難差置奉存候間格外之御沙汰を以同人に御貸付米代上納錢殘拾五貫目餘御座候間損分御救爲御手當右之内八貫目被下置候之様左候者七貫目餘之分早速上納相立此未決而御取扱之義不申出様猶又昆布之義者同人勝手次第賣捌候様附紙之通申付之 同 上

〔編者〕曰く難矣哉商賈の道たるや彼に贏ちて此に輸す一贏一輸は固より之れを一局棋上に決まべからざるものゝ有る有ればあり村林平兵衛は青森商の奕秋也曩者津輕惡酒を以て糧昆布に易へ深澤方面の飢民を救ひ已れも亦巨利を博するのみならず將さに又津輕地酒の倒瀾を回さんとす圖らざりき再度産を破り家を傾け君父に哀號するに至るは解すべからざるの甚しきと謂はざるべからず夫棋を喜くする者

四三

は先づ局面烏鷺倚伏の勢を精察し勝算を胸中に立て然して後手を下す故に前む所敵無き所以なり平兵衛曩者には深澤方面飢餓の狀を察し噉食物の慣習を知る又松前地方下等社會の好む所の酒の善惡ならずして價の廉を喜ぶをも知る故に容易に粕酒に易ふるに糧昆布を以てし其販路を深澤に求む巨利を博する偶然に非ざる也今は即ち全然之れを反し粕酒と易へずして正金錢を以てし深澤に求めずしてこれを岡在に求む糧昆布は深澤漁農雜居に可にして岡在蔬菜常食の民に適せず平兵衛再度の舉措は有司の令を奉ずるを重する如くなるも先づ勝算を胸中に立つるものと謂ふべからず烏鷺倚伏の大勢を察するは其れ焉くに在るや正金錢を以てこれを買はずして若し我が粕酒を以て易ふとせば假令好勝算の立たざるにもせよ品物交易中には多少の利子を含有するものなり豈脆く失敗するの如此の甚きに至らんや況んや售られざる粕酒を以てこれに易ふとすれば售られざる糧昆布も僅かに手數を要せしのみ大害を直に我に加ふる者には非ざるあり正金錢は粕酒と異なり恐るべきの利子はこれに隨ふ既に利子の隨ふ金錢を以て售れざるの昆布を買はば二重の利子に攻撃する所とある固より其所なり平兵衛の奕秋にして若き贏輸に苦しむ一にこゝに至るや吾故に曰く數也天也平兵衛とは謂はざるなり英商傑買の末路これに類する皆是なり何必すしも獨り平兵衛に於てこれを尤めんや村林家の式微はこゝに朕兆せるものなり或は曰く平左衛門の代に至り今を距る四十年忠僕を盜



賦と誤殺せしに因るを其然り豈其然乎哉

〔綱〕米留白付を淺蟲村に置く 五日

〔目〕勘定奉行申出候平内領米價之儀青森米直段と不釣合に而白米壹俵四拾貳文目立米壹俵參拾八文目位仕候間右等之處より小者共難澁に付青森並横内組村々より米穩買致御締合に相成不申候間右之趣黒石役人の被仰付候様猶又右爲御締方淺蟲村入口海手之方在家御借上之上米留爲勤番足輕目付より壹人當分之内居方被仰付候左候得者淺蟲村煤川番人右勤番に屬し相勤候之様申出之通申付之 御日記

〔綱〕孟蘭盆會及該貸借授受は延期すべからず 十日

〔目〕青森町奉行申出候當年柄今よ青田に付盆會並取引共閏七月に取延被仰付候哉之儀委細町奉行添書を以て申出書付被成御渡沙汰仕り候様御演説に而被仰付候に付打寄評議仕候處當年柄今に青田之儀は必竟季候後れ閏月も有之故に候先年文政六年時節も格別後れ不申年柄に而七月過迄も晝拾着用位之薄暑に而勿論盆中青田よ御坐候處其後殘暑宜豐熟に相成候儀も御坐候得者當年柄格別薄暑と申にも無御座候時節後れ故之儀に御座候處青田之故を以盆中並取引共閏月の取延候而者却而世上人氣を動搖融通向猶更閉塞にも可相成哉に奉存候閏月の取延之儀者難申上旨三奉行申出之通申付之 同上

〔綱〕農具用鍛冶高屋治助租税を特免せらる 二十八日

〔目〕勘定奉行申出候青森町鍛冶町高屋治助儀數年來外ヶ濱四ヶ組百姓共の農具貸附いたし候儀に付一昨年御賞之上農具御用鍛冶被仰付候に付彌以手配方相働貸附處一昨年之不作にて代錢三十貫目餘之貸附に相成候内六貫目位ならで返濟無御座内通至極迷惑之由御座候得共當春も又々無差支貸附農事手配宜百姓共之爲筋不少自然御益筋にも相成可申格別奇特之者に付代々二人扶持被下置度旨申出候に付評議仕候處數年來貸付候旨申出候得共右之儀に付一昨年申出御賞之上農具御用鍛冶被仰付候而より過分年數も相立不申殊に外諸工方に而農具細工相止治助一人に限り過分細工方に御坐候得者貸附之分只今寄集不申共追々に者義理合も相立可申猶又一昨年御賞向被仰付候而より年數も相立不申御扶持方等之儀者先例も無御座候猶又御用諸工之者差障之筋御座候間申出之趣難被仰付奉存候乍去外ヶ濱四ヶ組百姓共爲方にも相成奇特之者に付此の上爲勵合居下御物成之外農具御用鍛冶相勤候間町並諸郷役計御免被仰付候様左候者右之趣青森町奉行にも被仰付様申出之通申付之 同上

〔綱〕閏七月、町住農の貯糶は町奉行主權たるべきの令達あり 十日

〔目〕郡奉行申出候在方貯糶之儀九浦之内農業差働候もの有之儀者御代官一手取扱之上若後年渡方等有之節者御藏百姓同様是又御代官に而相渡候様被仰付度旨先頃申上候處御開届被仰付其段申付候處九浦之内農業之者共御代官手の百姓並合上納相



立町方も貯差出候者重取立に相成難澁之旨相聞得候に付右之分者不殘町奉行手に而取立向之町奉行御代官郡所役立合目付合封印之上町藏に引入置自然鼠喰滅並土藏手入之儀と母町奉行に而取扱萬一凶作等之節者昨年之例を以向之町奉行に而引受耕作等迄引控取扱候様被仰付度旨左候得者浦々住居農業之者共重取立にも相成不申至極氣向宜旨共御代官より申出候間申出之通被仰付度奉存候左候者高反別ならひ人別に而取立候分勘定帳仕分之上差出是迄之振合を以私共並勘定奉行兩開届請候様右之趣向々町奉行に被仰付候之様附紙之通申付之 同上

〔綱〕售られざる酒の精査あり 十四日

〔目〕例年新酒仕込之時節に者候得共在町造酒屋共古酒不捌よ而持越酒多分有之趣にも相聞得候間銘々持越酒石數並何月頃迄賣續可申趣共精々取調申出候様申遣之同上

〔綱〕石坂屋榮助漆の子買收取扱を命せらる 二十日

〔目〕青森町奉行申出候同町米町石坂屋榮助と申者山里漆實買入蠟々立方之心得も御座候に付右買入取扱被仰付度旨申出御國產方穿鑿仕候處山漆五斗入壹俵に付代錢拾七文目壹分實々目に付代錢拾七文目里漆實前同斷に付代錢拾五文目立蠟壹斤に付三文目六分直段に而御買入被仰付候間右之直段に而買入之上立蠟よ而上納候様猶又買入俵數取調申出候様共御國產方申出之通被仰付候様附紙之通申付之 同上

〔綱〕十月、新町六之亟稻露積を燒く謹慎を命せらる 四日

〔目〕青森町奉行申出候去月二十八日晚青森上新町之六之亟と申もの脊戸稻乳に失火御座候而近所之もの共早速驅付取鎮候旨尤近所相騒せ候儀に付慎申付置候旨共申出之趣承届之 同上

〔編者曰く舊時にありて青森豪商の類々其跡を歛むるものは一々これを火災に歸せざるべからざるは既に略論せり火の由りて起る所を問ふ曰く佛壇線香なり燭や提燈を庫中に遺せしなり然らざれば竈徑に燃料を委棄せしよりなるなりと一として没字漢と無心經の老婆の所爲よあらざるは無く凶歌を除くの外は所謂怪し火なるものは有る甚た稀にして一々自火と認めざるべからず舊記を閲するに春よ及べば年々弘前より吏人の特撰派遣しこれを火之元廻りと稱す而して火警訓示も毎々頗る丁寧あり隨て失火者を處分するも甚嚴峻なるものあり今我が脊戸の露積を燒く六之亟之如きさへ屏居謹慎を命せらるゝにても知るべき也況んや延焼許多に及ばしものは即夜菩提寺に奔り憐れを主僧に乞ふて蟄居し其罪を謝するを常とせり俗にこれを寺落と云ふ然り而して火災は常に跡を絶たず青森名物を問へば火事也と人々をして嘲罵せしむるに至る丁寧訓示も寺落謹慎も眞に無功と謂はざるべからず吾故に曰く青森の火災は訓示の丁寧ならざるに非ず處分の嚴しからざるに非ず詮する所は無學文盲悞然の致を所これを如何ともすること能はざるもの有り消防方



法は兒戯なり家屋構造は燃料あり海に瀕すれば火勢猛烈となる此三不可を具する  
青森なれば時ありて兩三戸止まるものは天幸と謂はざるべからず露積を焼くの  
六之亟に謹慎を命ずるも何の益か有らん何ぞ思はざるの甚きや

〔網〕濁酒醸賣を禁ず 九日

〔目〕勘定奉行申出候當年御郡内不熟に付在町浦々造酒仕込方于今被仰付も無御座候  
所在町之内に而濁酒仕込商賣致候者も有之趣粗相聞得申候間嚴重御差留被仰付候  
様見聞方等も申付置候間若心得違之者有之候得共急度御糺明可被仰付候様申出之  
通申付之 御日記

〔網〕雜穀糶及び味噌醬油の輸出を禁ず 十二日

〔目〕勘定奉行申出候當作體格別劣作に付來出穀迄之内雜穀類糶共私とも差圖無之津  
出之儀者堅御差留被仰付候様尙味噌醬油之儀者壹斗入登樽迄者是迄之通其餘津出  
御差止被仰付候様申出之通申付之 同上

〔網〕常夜燈税を上つるを請ふ許されず 二十五日

〔目〕青森町奉行申出候同所湊常燈去年中御取建被仰付候所船々一統難有存候に付鱈  
ヶ澤深浦兩湊振合を以て問屋共客船水主一人に付常燈料貳拾文宛上納仕度旨なら  
ひ右常燈料取扱之義同所御印書之者へ申付度旨共申出候得共御取建之常燈へ船々  
より出錢申付候儀者御聞届之儀難申上奉存候乍去問屋共を以船々より願出之儀も

尤に奉存候得共湊御番所上に常燈有之候而者見惡事も可有之與奉存候間海岸之内  
遠沖より見切宜處へ取建直之上に而常燈料取立候様被仰付候附紙申出之常燈取建  
直之儀者此節之御場合に付見合候様其外之儀者餘ヶ澤深浦並合之通明り之儀者入  
念見當に相成候様可被申付旨申遣之 同上

〔網〕入米調査を又々嚴命せらる 二十六日

〔目〕海岸御用照勘定奉行申出候海岸御締方之儀前以嚴重被仰付も御坐候所青森町御  
取立後同所限米問屋家業之者被差立日々入米調被仰付候場所に御座候得共御締合  
相緩み候節者米問屋入米調方無何與廢御締合に相拘候儀有之に付去る丑年海岸御  
締方嚴重被仰付候節前々之通米問屋五人被差立日々入米調被仰付月々右調書同所  
別段役より勘定所へ差出候得共右入米拂先不分明に而者御締に相立不申候に付一  
昨年改而長内屋覺兵衛上締り被仰付同人より月々拂先取調同所町年寄村井新助吟  
味之上月々勘定所へ調査差出候様被仰付候得共兎角調方遲滯いたし差支候も付御  
締方に相拘候儀御座候間此未入米拂調之儀者同所町奉行へ被仰付町奉行吟味相濟  
候所に而青森詰合御目付へ差出前月之調翌月六日御用便を以御目付より御用所へ  
差上候様被仰付候様左候得者入米有之場所一體に無之候而者御締合に相拘候間云  
々申出之通申付之 同上

〔網〕村林平兵衛造酒を特許せられ廩米を貸し下ぐる千俵 二十七日



目 勘定奉行申出候當年劣作に付造酒御差留被仰付候所青森町村林平兵衛儀年來御用柄も相勤候ものに付御米拜借之上造酒被仰付度之旨尙又右上納向者同所町奉行引受急度上納相立候旨共申出候然者右平兵衛儀此節手薄之趣にも相聞候得共御附米代同所町奉行引受急度上納相立候尤御用達共へ被仰付候振合を以御米千俵拜借之上造酒被仰付候様申出之通申付之 同 上

綱 十一月、釀濁酒又々嚴禁となる 三 日

目 郡奉行申出候當作體格別劣作より而出穀不足之處在町浦々に而濁酒仕込米不少潰穀に相成可申與奉存候左候而者來出穀迄之内御國民食糧萬々一行届兼候而者御太切之儀に付左之通在町並浦々へ被仰付候様御郡中濁酒家業之者は勿論自分飲用たり共濁酒仕込候儀來秋迄堅差留申候者心得違より而造込候者有之節者町役村役共迄御糺明被仰付候間決而不埒無之様申出之通申付之 同 上

綱 長内屋覺兵衛謹慎を命ぜらる 二十八日

目 青森町奉行申出候同所長内屋覺兵衛儀入米調緩怠之儀御座候間爲締合慎申付置候旨承届之 同 上

綱 十二月、貿易目的を以て廣く輸出せんことを請ふ許さる 七日

目 青森町奉行申出候同所醬油家業之者共前賈不捌より而相續方難儀に付松前並中國邊に爲交易醬油貳斗入貳千樽津出被仰付度旨然者當年劣作に付糶並雜穀類味噌醬

油酒精酢迄私共差圖無之分者津出御差留之儀當十月被仰付居候より付書面願出に御座候右様品一切津出留被仰付候而者融通向にも相拘可申殊に段々願出之趣難默止相聞得候間願出之通貳斗入千樽御定役一樽に付貳文目宛上納之上津出被仰付候様附紙之通申付之 同 上

綱 入米調査板橋屋新吉以下勤中租税を半免せらる 十四日

目 海岸御用懸勘定奉行申出候青森表入米調方に付同所入口五ヶ所町家五軒借上米問屋とも出張之上相調罷在候之處右家賃年中壹軒に付四拾八文目之割合に而出人夫諸公事役も右に準町方に而昨年より當二月中相許罷有候處翌三月より渡方無御座候に付右家賃米問屋共より而差出候儀難澁に付以前之通町方より渡方被仰付度旨委細米屋共より申出候候得共米問屋共入米調締方壹通之儀に付以前之通差出方之儀私共より町奉行に難申遣奉存候段々穿鑿仕候處米問屋とも之儀者居下諸郷役とも一ヶ年貳百六拾目位も差出候趣に相聞得候間右之内半役御免被仰付候者右半役を以前書家賃拂方申付度奉存候間米問屋とも入米調扱中居下物成並諸郷役共半役御免被仰付候様左候者右米問屋共四軒之内近江屋權四郎儀者堤町御用地拜借住居罷在候間右之外參人之者共板橋屋新吉福士屋彌治兵衛竹屋孫兵衛右之者共居下諸郷役之内半役御免之儀者同所町奉行に被仰付候様附紙之通申付之 同 上

綱 村林平兵衛貿易味噌は港税を減削し輸出特許ある四千九百六樽 二十八日



〔目〕青森町奉行申出候同所村林平兵衛儀松前表の味噌取組仕罷在候處一昨已年米大豆高直殊味噌貳斗入壹樽御役錢三文目御役増被仰付取組引合不申及破談候而者難澁至極に付壹樽壹文目之御役に而五千樽津出之儀私共迄申出近來御繰合方御用向出精相勤過分出銀等に而當時身上手薄に相成難澁之旨相聞得不得止事爲手當格段之御沙汰を以申出之通御役錢五貫目上納之上津出致候様相濟罷在候尤御役錢五貫目爰許に而上納相立候然處右之内貳千五百四拾樽津出相濟殘貳千四百六拾樽津留に相成罷居候分此節津出被仰付度旨書面之通段々願出之趣難默止相聞得候間格段之御沙汰を以此節味噌御役五文目被仰付罷在候得共爲合銀貳文目宛増し都合三文目之御役立を以願出之内三ヶ一八百貳樽此節より正月中限津出被仰付候様左候得者兼而上納濟五貫目分津出濟に相成申候附紙之通申付之 同上

〔編者〕曰く平兵衛は商人の豪傑也其功勞も亦尠しとせず故に舊藩のこれを待つ厚くこれを扶植するの至れる遺す所無しと謂はざるべからず曩者に平兵衛の糧昆布に失敗するや貸付米辨償中の大枚金を割て惠與せられたり凶欺にして醸酒を禁せれば奥村吉右衛門の舊功を以てさら猶首肯せられざるも平兵衛にハ青森町奉行は保証人として千俵の藏米を貸與し全市の酒權を一家に屬せしに非ずや味噌津出を禁じたる以上は金澤瀬屋の客船關係特許あるも少きは百樽のみ多くして三百樽に過ぎも獨り平兵衛には港税を減削し六千樽以上の輸出を許さる夫れ平兵衛は豪傑

の資を以て丁寧如斯の扶植輔翼を得て猶日に衰頽に瀕するか如し所謂命に非ずや數に非ずや豪傑も其れ命數を如何せんや

〔綱〕天保七年丙申正月、港内又々結氷せり

〔目〕正月頃前濱の水張り候已年正月も同様にて凶作に有之 梅崎日記

〔綱〕二月、能登屋作左衛門甥福松鞭刑追放に處せらる

〔目〕於青森町端御徒目付申渡之覺 三

能登屋作左衛門甥 揚屋入之内 福 松

我儀青森町奉行所並所々自盜致候旨相聞得證議之所同所町奉行所自篋筒盜取金子四兩壹歩錢拾八匁者同類之武助並仁三と配分致其外數ヶ所自品々盜取候之儀に付被召捕繩付之上預中兩度逃去野内間道忍出通他國致し又々御國元ハ立戻盜致候儀共相違無之旨及白狀甚々不屈之者に付鞭刑二十一鞭に被行三里四方居町御搦被仰付之

〔綱〕酢醬油營業者又々輸出の特許となる 四百樽 五日

〔目〕青森町奉行申出候青森酢家業之者共申出候去秋自造置候酢持合罷在候處舊冬自津出御差留被仰付罷有候に付此節小賣計に而渡世方難澁に付八升入六百樽津出被仰付度旨委細書面之通申出之趣無餘儀相聞得候間申出之内四百樽津出被仰付候様尤御役錢之儀者貳斗入壹樽に付壹匁五分之御役錢上納候様紙附之通申付之 御日記



同所醬油家業之者共申出候是迄松前表交易等に而家内相續仕來候間舊臘醬油津出願出之儀千樽津出被仰付候處津出濟に相成此節向地鯉漁時に候得共交易も相成兼難澁に付仲間共四軒の醬油式斗入貳千樽津出被仰付度尤店賣等之儀者決而差支不申旨共委細願之趣不得止事相聞得候間願申出之内千貳百樽御定役上納之上三月中限津出被仰付様附紙之通申付之 同上

〔網〕野澤屋善藏濁酒を密造し戸へ申付らる 十日

青森町 野澤屋善藏

右者濁酒造込候旨相聞得役向に而吟味之處相違無之其段僉議之處難澁之處自被仰付に相反候申譯も無之恐入候旨委細申出不埒に付造込之濁酒不殘御取上之上日數三十日戸へ被仰付候沙汰之通申付之 同上

〔網〕船問屋瀧屋善五郎以下三人味噌輸出を特許せらる二千二百樽

〔目〕青森町奉行申出候同所船問屋瀧屋善五郎、金澤屋忠兵衛、竹野屋雄吉右三人之者共客船爲取組味噌津出被仰付度旨願出之趣難黙止相聞得申候間願書之通式斗入に而善五郎の千樽忠兵衛の七百樽雄吉の五百樽津出被仰付候様尤も御役錢之儀者壹樽五文目積を以て此節弘前表に上納之上右手形湊方に差出候之處に而津出候様附紙之通申付之 同上

〔網〕三月、毘沙門天開帳あり 三日

〔目〕毘沙門天御開帳にて百味献供御祈禱あり 柿崎日記

〔網〕目明の長藏龜三郎と喧嘩致し且負傷せしめたるを以て鞭刑に處せらる 二十五日

〔目〕我儀去五月大坂出生龜三郎與喧嘩致し双方手疵を得候旨ならび博奕打合候旨共相聞得段々僉議之處龜三郎儀女房に申付自分與付候疵に而我儀付候覺無之旨に而色々相違を申出段々僉議を詰候處間違又者合違に有之旨並疵之儀者求而付候覺無之候得共組合之節障付候儀も難計其外博奕之儀も覺無之旨一途に押募打合連中之者委細申出申開無之處に至打合候相違無之旨及白狀重々御扱に相成甚以不届之者に付目明取放之上鞭刑九鞭被仰付町徘徊是迄之通仰付之 御日記

〔網〕米町小中屋小右衛門子源次郎博奕を以て鞭刑に處せらる 同上

青森米町小中屋小右衛門子

他出差留親類見繼之者

源次郎

我儀去る午年五月青森芝居樂屋に於て同所目明長藏並大坂出生龜三郎等與博奕打合候旨相聞得僉議之處相違無之旨及白狀不届之者に付鞭刑三鞭被行居町徘徊是迄之通被仰付之 同上

〔網〕四月、調達金を命せらる 二十八日



〔目〕青森町中にて四百五拾兩之調達被仰付四月自八月迄月割にて上納 柿崎日記  
〔綱〕六月、南部惣右衛門船は津輕領諸港出入を禁せらる 十二日

青森船問屋八戸覺兵衛客船

南部 惣右衛門

右者當四月二十七日荷積之上出帆致度旨船問屋申出候諸役出會相改候處米並粟隱積有之候儀に付吟味之處面體見知らぬ女自度々買取候旨委細申出其外粟之儀者國元自持參之旨候得共入津之節斷も無之御領法を相犯右體之致方不屈に付急度可被仰付候得共格段之御沙汰を以隠積致候米粟者御取上其外積入品改を受候分者代錢に而船並船具沖糧米共御返之上以來御當領に入津御差留被仰付候間其旨差心得其向改を請早速出帆致候様 御日記

〔綱〕河南屋長藏、高嶋屋嘉兵衛戸を命せらる 十五日

青森町 河南屋長藏 高嶋屋嘉兵衛

右者當三月野内間道忍通候者兩人有之其筋に而召捕吟味之處其方共の致借屋居候又吉文太と申者に有之旨其段詮儀之處長職儀者又吉を寄留爲致嘉兵衛儀者時々宿賃候儀に付全借家に不差置旨委細申出候趣も有之候得共申和鮮難相立儀者假令寄留等之者に候共其筋の斷も無之殊に又吉文太最初申出之趣も有之上者内々借家に

相違無之不婚に付日數五十日宛戸へ被仰付候様 同上

〔綱〕平内領山口村文藏弟又吉鞭刑に處せられ野内口より送り返しとある 十五日

〔目〕於青森町端御徒目付申渡之覺

青森町河南屋長藏の寄留罷有候平内領山口村文藏弟

腰纏付之上宿長藏並五軒組合見纏之者

又 吉

我儀當三月十二日夜玉煙草脊負野内御關所間道忍通候一件吟味之處青森大町河南屋長藏方の内々致寄留居當三月十日淺蟲の湯見舞に罷越同所に而米町之文太與相談之上南部野邊地の罷越煙草買調致持參御役錢を相厭御關所間道忍通候義相違無之旨及白狀甚以不屈之者に付鞭刑十二鞭被行野内御關所口自送返被仰付之 同上

〔綱〕八月、廩米を賤賣せらる 十五日

〔目〕青森町奉行申出候同所小者共小賣米取續不申候而者飢渴に及候體に付御米貳千俵御拂之儀委細願出申不得止事相聞得候得共御米貳六ヶ敷御場合申出之趣逆も難被仰付奉存候乍去小賣米差支旨其儘難被差置候様奉存候間青森御藏自貳百五拾俵御拂被仰付候様尤代錢之義者小賣之儀に付南部釜石表御拂直段に而三ヶ一引下ヶ四拾六文目立に而御拂被仰付候様附紙之通申付之 同上

〔綱〕暴風 十五日



〔目〕昨夜大東風よて金澤屋忠兵衛宿紀州之良助船其外都合大小七艘難破船致候なり

村井舊記

〔綱〕九月、總名主以下百二十八人酒膳等の賞賜あり

〔目〕

青森町名主八人

其方共儀當年不作に付米手配並小者共取續方等諸事行届盡夜格別骨折出精相勤候に付爲御賞御酒御吸物被下置

重立中家九十一人

其方共儀當町困究之者明春雪消迄救方之儀示談に及候處早速承引致し夫々相談取究候旨相聞得奇特に付於當町奉行所御酒御吸物被下置

南 了 益

其方儀當年劣作に付困究之者病者等有之節施藥致度旨申出前以奇特に付御酒御吸物被下置之

上林兵左衛門 南 了 益 河南屋平次

此度米金御用にて御借上被仰付候所御場合勘辨致し割付米金兩様爲加冥差上度申出早速上納致し奇特に付爲御賞御料理被下置之

中嶋屋太右衛門 八田屋六右衛門 竹野屋 雄 吉  
松屋 權十郎 猿賀屋三郎兵衛 石場屋甚五兵衛

中村屋 喜兵衛	寺屋 源 司	近江屋 文 吉
米澤 庄右衛門	稻南屋與右衛門	村田屋太郎兵衛
河南屋 勘 六	小濱屋 儀 助	甲屋 六右衛門
村田屋 又兵衛	瀧屋 藤次郎	能登屋勝右衛門
京 屋 十兵衛	高嶋屋 喜 助	仁岸屋 與兵衛
伊勢屋 八十郎	藤林屋源右衛門	能登屋 惣兵衛
伊 勢 善 藏		
吉 屋 忠兵衛	村 林 平兵衛	澤 屋 藤兵衛
和田屋仁左衛門	瀧 屋 兵 衛	河南屋 平 司
近江屋 茂 吉		

其方共儀已年以來一統無商賣同様に而其上打續不熟作之所自大勢之家内相續方他出入小者等養育彼是難澁之旨相聞得候得共廉分調達金被仰付以來御用金其外當町小者救方之義に付出錢出米等割合之度々深御時合勘辨致し格別苦心之上御扱にも不相成奇特至極に付爲御賞於當町奉行所御酒御吸物蒸菓子被下置之

からげ頭 兩人

其方共儀當作體不熟に而用心向も不宜候所支配からけ之者共當町夜廻り出精相勤候而町内一同安心之旨相聞得必竟其方共平日申諭方行届奇特に付於當町奉行



所御酒御吸物被下置之

錢屋五左衛門

右五左衛門儀親五左衛門自安方町名主相勤罷在困究之者に手當致し取扱向宜處  
自市中一同歸服之相聞得奇特に付調達殘分は御免被仰付候間彌市中手傳之上實  
體出精相勤候様被仰付候

鍛冶職 高屋 治助

青森町鍛冶職當年柄窮民共疍鎌手配難相成者共は貸附いたし深御場合致勘辨候  
旨相達奇特之者に付於青森町奉行所御酒御吸物被下置之

奥村吉左衛門

青森町大町名主奥村吉左衛門儀御用金調達被仰付候度々御扱に相成不申上納濟  
殊に同人支配中の平日論方宜敷所自調達金度々何れも出精上納相立奇特之者に  
付於青森町奉行所御酒御吸物引肴被下置之 同上

〔綱〕養内精算成る

目六月より九月に至る

養内

- 一六拾匁 千葉三郎右衛門殿渡四五六七八九右六ヶ月分
- 一三百匁 物書又兵衛渡右同斷
- 一一百五十匁 同理左衛門渡六七八九右四ヶ月分

一 一百貳拾匁

濱長屋附人四五六七八九右六ヶ月分

一 同

御勤番付人同上六ヶ月分

一 同

御作事方付人同上六ヶ月分

一 拾匁

右同人月々渡し殘但壹ヶ月二十匁宛相渡に付如此

一 三百匁

三郷久七右同斷

一 貳百匁

小使庄助右同斷

一 一百五拾匁

用心廻り高助右同斷

一 同

用心廻り長左衛門右同斷

一 貳百拾匁

漁船御勤番所諸色入用並壹ヶ月拾匁宛宿賃共右六ヶ月分

但諸色入用並宿賃共壹ヶ月三拾五匁宛

一 壹貫八百九拾目

一 壹貫五拾五匁六分

御役所行焚炭三百七拾俵壹匁貳匁八分三月朔日より八月晦日まで

一 一百二十八匁八分

御假屋行焚炭四拾六俵七月二十三日より八月晦日まで

一 壹貫百八拾四匁四分

一 八拾七匁

御役所行薪八拾七本四月朔日より同二十九日まで

一 七拾六匁五分

御役所行九拾本五月朔日より同晦日まで

一 七拾貳匁

御役所行九拾本六月朔日より同口口まで



一 五拾壹匁八分 御同所行七拾四本七月朔日より同二十九日まで  
 一 四拾貳匁 御同所行九拾本八月朔日より同晦日まで  
 一 五拾四匁 御同所行九拾本九月朔日より同二十九日まで  
 但此分代錢米申出無之候得共九月中迄之割合に付大都積を以書出申候過不之義重而之養内差引可申候

〆三百八拾三匁三分  
 一 貳百九拾七匁九分 御假屋行新三百九拾本六ヶ月分四月朔日より二十九日まで  
 一 六拾貳匁壹分 御両家様筆墨紙四月より九月まで  
 一 貳百拾匁九分九厘 關源右衛門との右同斷  
 一 百四拾三匁八分七厘 物書又兵衛右同斷  
 一 三匁 同行  
 〆四百拾九匁九分六厘  
 一 百五拾貳匁四分壹厘 御役所行油壹斗四升八合五勺燈心附木共  
 一 貳拾貳匁七分 御假屋行油三升附木灯心共  
 〆百七拾五匁壹分壹厘  
 一 四匁 御役所水風呂拵賃  
 一 五匁五分五厘 御同所行桶輪替賃

一 貳匁三分五厘 御同所口口ふき代  
 一 五匁 御役所引移御祝儀酒貳升  
 一 四匁 御同所やくわん鑄掛ちん  
 一 拾九匁五厘 手桶壹ツ柄杓二本盃壹一ツ貳升入樽壹ツすり鉢一枚飯櫃壹砂鉢貳枚下皿  
 貳枚龜一さいばん壹ツ

〆四拾貳匁七分  
 一 四拾匁 善知鳥宮御神樂料四月分  
 一 八拾匁 神明宮右同斷五月九月分  
 一 八拾匁 廣田宮右同斷五月九月分  
 一 四拾匁 諏訪宮同斷七月分  
 一 三拾匁 觀音堂同斷  
 一 四拾匁 善知鳥宮同斷九月分  
 〆三百拾文目  
 一 七拾匁 御奉行様兩人御交代御駄賃  
 一 二十五匁七分五厘 須藤半三郎様御下り之節御賄料  
 一 三拾九匁 御同人様上下御駄賃  
 〆百三拾四匁七分五厘



- 一 四百匁
  - 一 六百七拾匁
  - 一 九匁
  - 一 二十匁貳分
  - 一 六文目
  - 一 貳拾目
  - 一 壹文目八分
  - 一 六文目
  - 一 八文目
  - 一 四文目貳分
  - 一 三拾匁
  - 一 六拾匁
  - 一 三拾匁
  - 一 拾匁五五分
  - 一 拾文目
  - 一 三拾匁
  - 一 壹匁五分
- 時鐘料
- 御傳馬料五月渡分
  - 毘沙門橋板五板繩一房作料共
  - 御藏一紙之節入用
  - 古川境橋入用
  - 堤川上橋修葺入用
  - 堤大橋取繕入用
  - 萬助方の狂人預候節入用
  - 大工町松森町境橋取繕入用
  - 夜廻札系代共
  - 關源左衛門殿御親父病死之節手傳
  - 湊三分一上納錢不足之由御差圖に而渡
  - 三郷久七渡半紙六束六ヶ月分
  - 右同人貳束半一ヶ月壹束渡之外壹ヶ月五帖宛四五六七八右五ヶ月
  - 小使庄兵衛病死之節合力當春養内へ付落
  - 松前様御荷物相捕船にて相廻候右運賃當月
  - 御下向之節松前様御見送所入用

- 一 貳拾貳匁
  - 一 拾四匁六分
  - 一 壹貫三百七拾壹匁八分
  - 惣ノ六貫三百貳拾九匁九分二厘
- 御役瀬戸物代
- 拾貳匁九分
  - 四百二十四軒
  - 五町本家
- 堤大橋御普請之節入用之内當春養内付落
- 一 拾四匁六分
  - 一 壹貫三百七拾壹匁八分
  - 惣ノ六貫三百貳拾九匁九分二厘
- 内
- 拾貳匁九分
  - 四百二十四軒
  - 五町本家
- 但高四百二拾六匁之内海原屋恒吉屋敷松森町迄通りにて貳軒御免引如此
- 八匁九分
  - 一六拾九軒
  - 三町本家
- 此錢六百拾八匁五分五厘
- 貳匁五分
  - 一百軒
  - 八町借屋
- 此錢貳百五十目
- 三口ノ六貫三百三拾八匁壹分五厘
- 差引殘而八匁貳分三厘過上
- 右之通御座候

申 九 月

總 名 主

(編者)曰く養内ハ今の市税なれども其性たる公私を混淆し純然たる正當の賦課に非



す官尊民卑の時代にありて、素より免かるゝ能はざるものと看做さるべからず然れども米壹俵凶歉ならざる以上は賤きは拾二三匁貴きも二十四五匁強弱の間あるにも拘らず居下物成即地租を除き養内納一季四ヶ月合計銀高六貫三百二十九匁九分二厘とすれば本半借三家の負擔としては輕々よ看過すべからざるものあり況んや豪商には時として又調達金用金上納米等のこれ有るをや津輕の制は六公四民其實は四公六民強なりと謂ふと雖苟も如此あれば何れの世にありても下民は負擔は容易ならざるもの有り路に當るもの、宜しく猛省すべきものならずや又曰く正租は年々決して異動無きも養内茂合の如きは多少其額に低昂無き能はざるものあれば仔細にこれを舊記に求めんとして今や散逸し收め易からず僅に此一款を得しのみこれを遺憾とあす

〔綱〕越前屋久助戸ノを命せらる 二十四日

〔目〕青森町奉行申出候青森町越前屋久助儀平日不人情非道の仕振多町役共申諭方も不相用其上火元不締之儀有之町内之者共致心配候旨相聞得不屈至極に付戸ノ二十日申付候 御日記

〔綱〕十月、青森廩米を又々賤賣せらる 二日

〔目〕青森町奉行申出候同所孕米不足之所此節に至り在方自爲少分とも賣米出無御座小賣米差支難澁に付新穀賣出迄之内青森御藏米之内二千俵御拂被仰付度旨委細申

出候然者同所御米賦に相成候に付御拂之儀者難申上候得共在方自一切賣出米無御座候而者外に入米之趣意も有御座間敷段々申出之趣不得止事相聞申候間百五拾俵一俵に付六拾匁立に而御拂被仰付様其餘者追々御米賦に隨多少御拂も可被仰付候間何れも差略之上小賣米差支無御座候様被仰付候尤青森米相場は壹俵七拾文目と被定候得共特別六拾匁に被仰付候様附紙之通申付之 同上

〔綱〕町中孕米缺乏貧民大に苦しむ 五日

〔目〕當年存外凶作に相成孕米無之小賣米差支付度々藏改廻り必竟入米調子嚴敷故町方米持合なし米調子大差障一統人氣不宜候 柿崎齋記

青森町奉行申出候同所孕米不足に相成候儀者米調被仰付候故之儀に付當分之内御免被仰付度旨申出候然者右調方之儀者委細頃日申上候通拔米御締方隨一之儀に而當年柄御郡中一統米穀拂底之場合萬一拔米等有之候而者民食行足申間敷御太切之御時合且米調被仰付候通買入方規數定之通被仰付候儀にも無御座候左候得者別而不自由差支可申筋無御座候之間申出之趣難被仰付候様奉存候扱又二三俵乃至四五俵之米夜中通相成兼難澁に付王餘魚澤新城別段御引拂之儀申出然者是迄所々別段役居置候故は手段米取巧夜中等忍通拔米有之處自爲御締居置候儀晝夜に不拘通手形持參致候得者何れ通不自由之筋無御座必竟手段取巧手筈不使用之所自右様我儘之申出に御座候乍去此節之儀格別之變作一統米拂底銘々喰料之義差迫候體に



付頃日委細沙汰仕申上候通王餘魚澤御引拂新城之儀者通改方御止被仰付罷在候間  
米穀之儀勝手次第買入候様被仰付御締向之儀町奉行に而能々申付候様附之紙通申  
付之 御日記

(編者曰く甚矣哉有司の上を愚にするや節は十月に入り王餘魚澤改所は引拂はさら  
んと欲するも得べけんや雪中往復すへからざるの崎嶇山間なればあり新城通手形  
改御止被仰付と曰と雖其改所を廢せざる以上は誰れか容易に馬に駄して其門前を  
過くるを欲するものこれ有らんや夜叉は人の忌み憚る所なり手形改御止被仰付と  
は夜叉の唯其手を拱まるのみ儼乎として猶其中に立つなり苟も佗國拔米を防かん  
とならば一に青森湊口を嚴にするあるのみ何必すしも其入口に改所を置くの要あ  
らんや入米欲乏すれば小賣所自ら癢を青森小民飢餓に苦しむは柿崎日記云々に徴  
すべし柿崎は米商あり入米調子厳しく故に町米持合無しと知るべし孕米の欲乏せ  
しを孕米欲乏すれば小賣米所自癢せざるを得ず小賣所を癢もれば貧民は飢餓に苦  
しむより佗無かるべし宜く其拂下を乞ふに當り十分の支給を爲すべきに二千は百  
五十と減じ僅に貧民一團結四五日の食料にも過ぎざるに若し入米の少しくも躊躇  
するならばこれを如何に饑へざるを欲するも得んや小人窮すればこゝに亂を杉畑  
藏前の貳の舞を演せざるものは或は支梧左右を許多あるに因るなるべけれとも  
畢竟市民たるもの、恭順の至りと稱すへきあり

〔綱〕諸士待遇は手輕に諸勸化錢は暫らく免せられんことを請ふ 十三日

〔目〕青森町奉行申出候同町追年衰微に罷成巳年以來別而難澁に相成諸茂合等も取立  
兼罷有候處近年諸役人下り方多御賄増月々壹貫六七百目或ハ貳貫目に相當り増錢  
出銅之重立中家之者共追々身上潰に相成迎も是迄振合に而者月々割合行届兼候に  
付前々被仰付も御座候通諸役人御賄諸事手輕取扱仕度旨猶又諸寺社勸化等之儀も  
當分成立迄御免被仰付度旨共段々申出之趣難默止奉存候云々 御日記

〔綱〕蔬菜類の輸出は特許となる 二十五日

〔目〕青森町奉行申出候同町船問屋共自申出候松前表自多少魚類積下之節不殘正錢買  
入而は近年不融通之處自商方難儀に付御差留品之内冬葱、午旁、胡蘿蔔、芹、菓子類並梅  
干、玉子津出被仰付度旨申出に付在方詮議之處惣組御代官申出も御座候得共魚類與  
交易之義に付申出之内冬葱、芹、梅干計津出被仰付候様尤御國用飲に不相成候様考量  
之上津出致候様共被仰付候様左候得者以來右様御差留品之義者御扱向不申出候様  
被仰付候様 同 上

〔綱〕十一月、村林平兵衛製粕酒買賣は特許ある 二十四日

〔目〕青森町奉行申出候同町村林平兵衛持合酒粕に而粕酒相製商賣方之儀申出難被仰  
付旨被仰付候に付端々小者共は者勝手に相成押目昆布並醬油之質補助差出候之旨  
漁師共儀沖合之働爲凌粕酒相製賣拂吳候様頼合に付仕込賣拂申度旨申出御締合に



相拘猶又類例差際に相成候、付難被仰付筋御座候得共再三申出青森並上磯下磯  
 漁最中に候得共食料も不足に而遠沖働方難澁に付願出之通被仰付度旨町奉行申出  
 之趣無據相聞得申候間願出之通相製賣拂被仰付候様附紙之通申付之 同 上

〔綱〕凶歎柿崎忠兵衛又々救恤を務む  
 〔目〕重立十四軒、町方補助割合被仰付一軒、付米四俵三斗七升六合、柿崎忠兵衛右割  
 合之外自分手當補助左之通り

- |            |   |          |               |
|------------|---|----------|---------------|
| 稗貳斗        | 蓮 心 寺   | 稗貳斗      | 泰 元 坊         |
| 米壹斗稗貳斗並米壹斗 | 蓮 得 寺   | 米壹斗五升稗貳斗 | 柿 崎 大 炊       |
| 稗貳斗        | 村 井 新 助   | 稗四斗      | い 勢 屋 長 左 衛 門 |
| 稗貳斗        | 柿 崎 喜 兵 衛   | 米壹斗稗貳斗   | 柿 崎 彌 兵 衛     |
| 稗貳斗        | 近 藤 弟 四 郎   | 稗壹斗      | 越 前 屋 源 右 衛 門 |
| 稗壹斗        | 坂 元 勝 三 郎   | 稗壹斗      | い 勢 屋 久 兵 衛   |
| 稗壹斗        | 寅   | 稗壹斗      | 出 入 左 助       |
| 稗貳斗        | 佐 藤 忠 吉   | 稗壹斗      | 米 澤 屋 佐 兵 衛   |
| 稗壹斗        | 能 登 屋 專 七   | 稗壹俵      | 堤 太 郎         |
| 錢四百拾壹匁     | 博 勢 町 下 堤 町 川 上 松 森 町 煙 草 町 極 難 之 者 へ 戸 數 表 壹 人 に 付 壹 匁 宛 人 數 |          |               |
|            | 四百五十人外に町々極究之者、五分壹匁之手當致候                                       |          |               |

本年季候甚不宜暑氣甚薄し八月三四日迄は米直段壹俵四拾匁位之處追々氣配にし  
 て十月頃には百貳參拾匁位も致し大難澁申計あし右に付助情之爲札米と唱へ八月  
 上旬より賣場三ヶ所に取立小者一人に付立米三合當にし十月頃には壹人に付貳合  
 當に相改人別取調之上通帳を以相渡し上中下と段取致し通毎に左之印を附④印立  
 米壹升三匁貳分④貳匁八分⑤貳匁五分右を拂受者大凡七千人此助情賣一日に三拾  
 五俵位つ、壹ヶ月千俵つ、此損分月に貳拾三貫匁餘つ、是は當町中重立中家にて  
 割合に相成る

相對相場は白米壹升三匁五分即壹俵百四拾匁あり  
 十二月十五日には通米四段となる

- |    |            |             |
|----|------------|-------------|
| ④印 | 中米町        | 近 江 屋 彌 三 郎 |
| ④  |            | 高 嶋 屋 嘉 兵 衛 |
| ⑤  | 中大町        | 本 屋 九 郎 兵 衛 |
| ⑦  | 右四口人數六千五百人 | 米拾石七升五合     |

此損合六百六拾匁六分三厘つ、  
 一ヶ月拾九貫八百拾八匁九分重立中家にて割合月々出銅爲致候  
 青森表行孕米無之小賣米差支に付度々藏改廻り必竟入米調子殿敷故町方米持合  
 し米調子大差障一統人氣不宜候



當年は造酒なり濁酒あり造方嚴重御差留食料に可成品沖留被仰付下り品も來春迄荷揚御差留と相成る 以上補時日記

綱天保八年丁酉二月、火警の嚴達あり

目 覺

此節御用心向不宜最早雪消之時節に相成別而火之元御締向不宜候旨相聞得候間銘々屋敷々々之内無油斷見廻火之元御締相立候様此旨可被申觸候以上 御日記  
當年から火之元締方精々申合せ嚴重に可仕之趣名主とも御奉行所に御呼上に相成御達しに相成候不作續にて兎角火之用心等不宜事よ有之候 村井舊記

綱貿易米豫約味噌龜田岩井傳八郎船輸出は特許となる二千樽 十七日

目 青森町奉行申出候同所小賣米差支候に付去秋以來重立中家之者々度々米金錢割合是迄手配致せ候得共不遠差支に及候、付買越米之儀色々評議申付候得共早速正金取立方出來不申買越手配は勿論只今入用小賣米も買入方漸々之體罷有候處舊冬より松前表味噌不足に而直段引立候之由に付同所有合之内貳千樽津出被仰付旨又々書面之通羽州龜田之岩井傳八郎船沖船頭三月中旬頃迄米三百石目位無相違積入着可申之旨に付當時受取候分者貳百樽位右者唯今正金取引跡約定爲手金三拾兩も預ヶ置可申趣意も内々爲取替致置候旨尤味噌之義者當熟作迄決而小賣差支不申旨尙又味噌津出被仰付候得者佗邦聞得も宜多少米積船も入津可致に付同所御救被爲

思召格段御沙汰被仰付度旨共段々申出之趣難默止相聞得申候間此度者格段御沙汰を以願之内貳百樽貳斗入壹樽に付御役五匁宛上納之上津出被仰付様右約定米船着申出之所に而跡津出御沙汰被仰付様附紙之通申付之 御日記

綱調達米金を命せらる 十七日

目 金千百兩 米千百俵 青森町

演 說

近年打續違作之御勝手向御差迫昨年者格別之凶作に而御收藏過分之御減石に相成此節御米金兩様御差支御太切御公務初當御下向御入用御家中渡並難差延御當用向必至と御差支加之當耕作方種粗自夫喰米に至迄存外之不足夥敷廢田も可有之御太事至極之御場合に被爲至恐入候事候隨而此節柄申達候筋にも無之殊近來度々調達金も被仰付一統難澁之處深被爲御厭候得共前條之御場合被爲至候、付無御據今度在町並九浦之者共より米金兩様御借上被仰付候間一統難澁に者可有之候得共此節之御難場何れも厚差合別紙割合高之通調達之上御都合致候様尙此節者何方も孕米不足に可有之に付買越米手配之上納相立候様若し金子手順相成候者金子に而上納致候様御返之義者當新穀を以御返辨被仰付べく候尤銘々精功に寄格段厚御沙汰之上子孫に至迄不被捨置規模相立候様可被仰付候間此節之御難場御國恩之程深相辨へ一同打込出精相働吳候様銘々呼上之上可申達儀に有之



候得共左候而者此節柄遠路往反却而難儀之趣も相聞得候間右之趣其方共より能々申達候様若時合柄不勘辨に而心得違之者於有之者急度御糺之上嚴重可被仰付候間合違等無之候様與得申諭出精相勵候様可申達候

二月 御 用 人

參 考

金七百兩米七百俵 饅ヶ澤町 金五拾兩 深ヶ浦町 金五拾兩 十三町 金拾五兩 碓ヶ關町 金八兩 大間越町 金七兩 野内町 金貳拾兩 今別町 以上同上

〔綱〕三月、町年寄佐藤理左衛門徽章の麻上下を賜はる 朔日

〔目〕青森町年寄佐藤理左衛門儀御登品取扱出精殊に鹽手配行届格別骨折候旨相達候に付格段御沙汰を以爲御賞御遣御紋御上下被下置之 同上

〔綱〕上林兵左衛門以下弘前に於て厚き恩命あり 十三日

〔目〕於御鑑之間御椽土門八郎申渡之覺

青森町奉行一人出席

上林兵左衛門  
南 了 益  
河南屋平司

上林兵左衛門南了益河南屋平司儀此度御用に付米金御借上被仰付候處御場合勘辨致割付高米金兩様爲冥加差上度旨申出早速致上納奇特に付爲御賞御料理被下置之

青森町年寄格上林兵左衛門儀此度御用に付米金御借上被仰付候處割合高米金兩様爲冥加差上奇特に付諸郷役一代御免宿賄出錢之儀者是迄之通相勤候様被仰付候

年頭御目見青森町役醫南了益儀右同様に付帶刀御免被仰付候 同上

〔綱〕佗邦釀は寄托贈遺品を除くの外一切嚴禁せらる 二十八日

〔目〕青森町奉行饅ヶ澤町奉行深浦町奉行申出候右三湊に而他領酒船上之義再應出願之趣旅人入込場所酒無之候而者問屋共茶屋家業之者共饗應差働入金交易融通之取計穩に出來兼用事差塞小者に至迄渡世方一統難溢至極殊に當年柄食料迄不自由之義に付問屋共別而差働不申候而者諸色共荷上難相成却而御不益之義も御座候而去る午年之通御役上納之上荷上被仰付度旨申出候得共當御場合之義に付差扣罷有申候然所又々書面之通願出候得共當時柄酒荷上之義者難被仰付奉存候乍去預酒土産酒等之義者船手願出有之分過分之義にも無之候者去る午年振合を以貳斗入壹樽に付御役錢六文目積り上納之上荷揚致候様被仰付候様附紙之通申付之 同上

〔綱〕四月、奥村吉左衛門、瀧屋善五郎、大坂船頭讚岐屋孫兵衛は酒膳を賜はり孫兵



衛は水主税を免せらる。十ヶ年 二十日

大坂船頭 讚岐屋孫兵衛

水主役當酉年自來る午年迄十ヶ年御免被仰付御酒御料理被下置之

汁 三菜 御酒 御吸物 引肴二種 干菓子

右之通金壹步貳朱積を以被下置

壹人六百積を以御酒

御吸物被下置候

大町名主 奥村屋 吉左衛門  
船問屋 瀧屋 善五郎

青森町奉行申出候青森町瀧屋善五郎客船大阪之孫兵衛筑後米四百俵積下候に付新  
罎御登せ餘分積入方之儀並右御差障之節者船手望之品何に而も當秋津出可被仰付  
旨仕向前書積下り米陸上仕候旨隨而者約定信義を失ひ不申候様被仰付度旨尙又船  
頭孫兵衛儀御救方御爲筋差合米代當秋迄延金致厚志之者に付御賞被仰付度旨申出  
格別奇特之者に付夫々申出之通被仰付候様左候者被下方之儀並水主役御免之儀共  
御内意書に内点羽之通被仰付候様

右に付奥村吉左衛門瀧屋善五郎儀骨折相勤候に付御酒御吸物被下置度旨御時合柄  
外に響合にも相成候儀に御坐候間是亦御内意書に点羽之通被仰付候様右之趣夫々  
申渡之儀青森町奉行に被仰付候様 同上

綱 壹朱判使行初まる 二十四日

目 公儀御書付之寫

壹朱判之義御年貢並諸向上納金者勿論諸問屋拂諸家爲替納且遠國爲替等之義も壹  
朱判取交可申候尤皆壹朱判に而も勝手次第に候間彌世上通用差滞申間敷候 村井登記

綱 五月、古戸障子疊及家屋組織材は輸出特許となる 四日

目 青森町奉行申出候右建具並疊類積出願出有之一時之凌合に相聞得候得共暫時必  
用之儀故孕せ置申度津出差留置候旨申出候得共當年柄津出品不足不融通之趣相聞  
得候間古建具疊類其外御差留に無之品々之分は湊目付勤番目付に而吟味之上積出  
せ候様被仰付候様附紙之通申付之 御日記

青森町奉行申出候青森町金澤屋忠兵衛申出に者御定役上納之上切組家出來松前表  
に積送願之儀山奉行申出之通被仰付候 同上

綱 七月、久保太助、瀧屋永八略曆を發賣せり 一日

目 青森町久保太助瀧屋永八手に而略曆彫刻致賣弘罷有候旨相聞得候間僉議之上申  
出候様 同上

綱 典物典權は十三ヶ月、二十ヶ月の両様と定めらる 二十八日

目 青森町奉行申出候青森惣質屋共申出には質品之儀御家中勤務要用之品無之候に  
付十三ヶ月切流品に被仰付度旨申出候得共全く勤務品計も不拘御家中一統爲御  
救格段に被仰付儀に御座候得者弘前質屋同様尙又去六月御觸出後に質入之分ハ十



三ヶ月委細去々十二月自度々御觸出有之に付御家中勤務旁々等に不拘二十ヶ月十三ヶ月兩様相返候様被仰付候様御元々沙汰之通被仰付之同上

〔綱〕八月、大風 十四日

〔目〕青森町奉行申立候青森湊に而十四日夕七時半頃より東風強大時化浪高に相成詰合諸役共人夫召運制道致候得共夜中に及彌浪高に相成辨財船十五人乗り千六百石積紀州之良助船より圖合船四人乗今別之長之丈船迄九艘於前濱破船之旨尤船中乗合水主共別條無之分共委細書面申出之趣御開届被仰付候様同上

〔綱〕十月、村林平兵衛青森味噌製造取扱長内屋覺兵衛は小賣米上締取扱を命せらる 二十一日

〔目〕御元々申出候

青森町 村林平兵衛

右同人儀江戸御登味噌並地拂沖拂共仕込方取扱被仰付候様

青森町 長内屋覺兵衛

右同人儀小賣米家業被仰付右家業之者共爲吟味上締取扱候之様被仰付候様同上

〔綱〕豪商履歴の提出を命せらる 日 缺

〔目〕青森町舊功御尋書上調

近江屋善五郎

年	號	米	金	錢	履歴
元文 五申年より 安政 七戌年まで			貳千六百拾四兩壹分貳朱		天明四甲辰年舊功御尋之節寶曆年前
寛保 元子年より 明和 六丑年まで		四千百八十五俵			之御答奉申上候私儀御速送加摺被仰付於千歳山御目見被仰付御紋形御上
寶曆八寅年まで		貳千貳百五拾俵			付於千歳山御目見被仰付御紋形御上
天明 四甲辰年 七月				貳貫目	下並御料理頂戴冥加至極奉存候猶又
天明六年六月			參兩	貳貫貳百目	卯年類焼之砌赤米五拾俵御見舞被下
同 八申年三月				壹貫五百目	置候
寛政 七申年			五七兩		
文政十一子年			爲冥加貳拾兩		
		六千四百三拾五俵	貳千七百拾七兩壹步貳朱	七貫七百目	
外に貳拾兩に拾兩午春町方買越米割合申十二月小賣米損分割合					
近江屋文吉					
延享二乙丑年		百貳拾俵	三拾九兩		寶曆年中御運送方加摺被仰付於千年
寛延二巳巳年			貳拾二兩二步		山御目見被仰付御紋形御盃頂戴其外







同 十一子年		五	兩		
天保 七申年		五	兩		
同 八酉年	千三百七拾九俵餘	五	兩	貳拾六貫五拾目餘 壹貫目御冥加	
	三千九拾六兩貳步 七十兩二朱				
	外二十兩午年町方 買越米割合				
	拾八兩申年小賣米 損割合				
西澤屋善兵衛					
享保十三戌申年		貳拾	兩		
延享二乙丑年	貳千貳百千俵				
寬延四辛未年	三百俵				
寶曆三癸酉年		百	兩	貳貫三百三匁七分	
同 八戌寅年		百七拾八兩		九貫六百二拾匁八分	
安永四乙未年		貳拾	兩		
同 七戌戌年				壹貫五百匁	

天 明 二寅年				壹貫七百匁	
同 五乙巳年正月		拾五	兩	三貫匁	
同 年二月				貳貫匁	
同 年三月				壹貫匁	
同 六年六月		貳兩貳步		貳貫五百目	
寬政三辛亥年		七拾	兩		
文政七甲申年		三拾五	兩		
同 十一戊子年		四拾	兩		
	三千四百俵	四百八拾兩貳分		拾五貫五百匁餘	
		外二兩午春 町方買越米割合			
		三兩申年小賣損料 割合			
藤林屋源右衛門					
元祿十七申年		貳百	兩		
寶永六丑年				貳貫五百二十匁六分三厘	



寶永 六丑年			壹貫七百二十二匁二分三厘	
正徳 三巳年		五 兩		
元文 二巳年			六百六拾七匁七分九厘	
延享 二丑年	百貳拾俵	三拾九兩		
寛延 二巳年		八兩貳步		
安永 四未年		貳拾兩		
天明 五巳年		拾兩		
寛政 三辛亥年		七拾兩		
文政 七申年		三拾兩		
天保 七申年		五兩		
同 八酉年	五 俵	五 兩		
	百二十五俵	貳百九拾四兩貳步	四貫九百拾匁	
		外に拾兩午年町方割合		
		拾兩申年十二月町方割合		

近江屋 理助			
享保 二壬戌年より 享保 申 年まで	貳千六百六十俵	古金八拾壹兩 千百九拾三兩壹分	八貫八百三拾八匁八分
	内五拾俵冥加	二米 内七拾兩冥加	
竹野屋 雄吉			
安永 四未年より 安永 四巳年まで		七百七拾五兩 内五 御冥加	九拾九貫五匁
米澤屋 庄右衛門			
延寶 六午年より 文政 十一子年まで	千貳百拾八俵	百拾七 壹步 内三兩御冥加	二十八貫百七拾五匁餘
村田屋 太郎兵衛			
正徳 三癸巳年より 天保 七丙申年まで	七俵 貳斗	百五拾三兩貳步 内拾五兩御冥加	拾九貫九百九拾匁餘
河南屋 平兵衛			
安永 四未年より 天保 酉 年まで	四百六拾五俵	貳千二百二十五兩 内二百兩爲御冥加上納	九貫七百三十五匁
		外に巳年小者共の相應の補助差出七拾兩申年町方割合	
		御運送方被仰付帶刀御免於千歲山御目見被仰付御時服兩度御上下白銀御料理度々頂戴被仰付候	
		年頭御目見被仰付	
		御通懸御目見被仰付	
		年頭御目見勘定小頭格俵子五拾俵被下置御紋形御上下御料理物被下置御綵合方御免願之通被仰付候後は三人扶持被下置候	



長内屋覺兵衛

寛政三亥年より 四拾俵 三百拾五兩

百壹貫目  
為御冥加上納  
外に巳年在町へ補  
助出ず

年頭御目見勘定小頭格被仰付俵子五  
拾俵被下置御紋形御上下兩度迄被下  
置御線合御免之節は三人扶持被下置  
候

澤屋藤兵衛

天明二壬寅年より 六拾五俵 千二百二十八兩三歩

内五百七拾兩為御  
冥加  
外に五拾兩午年町  
方割合

御線合方御用勘定小頭格被仰付俵子  
五拾俵被下置御紋形御上下兩度頂戴  
御線合方御免之節は三人扶持被下置  
候

奥野屋庄右衛門

安永四乙未年より 六拾五俵 五百拾七兩三歩

外に五拾兩午年町  
方割合  
七拾兩申年十二月  
町方割合

帶刀苗字御免被仰付年頭御目見被仰  
付御用加擔被仰付反物御料理頂戴

瀧尾善五郎

安永四乙未年より 七百九拾五俵 八百三拾兩

外に貳拾兩午の春  
町方割合  
四拾兩申年十二月  
町方割合

年頭御目見被仰付御紋形御上下頂戴

吹田屋次五兵衛

寛政の頃より 四百貳兩

内貳拾兩  
御加冥  
外に三十三兩午年春  
町方割合

年頭御目見被仰付

小濱屋儀助

安永四乙未年より 百八拾五兩 壹貫目

外に四拾八兩貳歩  
午の春町方割合

南了益

天文政八十一千  
四年より 貳拾俵 百七拾兩

外に貳拾俵申年町  
方割合

年頭御目見被仰付天保四巳年時疫流  
行に付施藥願之通被仰付同七年同上  
願之通御料理頂戴帶刀御免被仰付

奥村吉左衛門



天文政八 酉年より 酉年まで	六拾五俵	三百兩	御用加擔被仰付御料理端物頂戴年頭
天文政八 巳年より 酉年まで	六拾五俵	四百六拾八兩	御目見被仰付
		外に五拾兩午の春 町方割合八拾四	
		申十二月割合	
和田屋仁左衛門			
天文政八 酉年より 酉年まで	六拾五俵	四百貳拾八兩	年頭御目見御料理反物被下置
		外に五拾兩午の春 町方割合八十三兩	
		申年町方割合	
錢屋五左衛門			
天文政八 酉年より 酉年まで	四拾俵	四百五拾兩	年頭御目見反物御料理被下置
		外に三十兩午の春 町方割合貳拾兩申	

の年町方割合			
金澤屋忠兵衛			
天文政七 申年より 酉年まで	六拾五俵	貳百拾五兩	年頭御目見生涯三人扶持被下置帷子
		外に十兩午の春町 方割合五兩申の	地三度頂戴
		年町方割合	
淺野屋宇兵衛			
寶永八 未年より 酉年まで	四拾俵	貳百三拾兩	年頭御目見被仰付
		外に三拾兩午の春 町方割合五拾七兩	
		申の年町方割合	
近江屋太作			
天文政八 巳年より 酉年まで	四拾俵	貳百貳兩	年頭御目見被仰付
		外に四拾五兩申の 町方割合	
小嶋屋庄三郎			







年號不明 寅二月廿五日 より文政七年迄	能登屋勝右衛門	貳百俵	百八拾七兩	三貫十九匁五分	右之外御用金御殿 文十枚餘所持罷有 候得共明和大地震 にて焼失仕候	年始御目見被仰付
天明二 寅年より 文化七 申年まで	窪田屋傳右衛門	内拾兩御冥加	百六拾七兩貳分	八貫四百目		
正徳三 巳年より 寶曆 寅年まで	伊勢屋善藏	八拾五俵貳斗	百八兩三步 古金六拾三兩二步	壹貫八百七拾七匁 五分貳貫百五拾匁		
延享元 于年より 天明元 于年まで	寺屋源治	米 八百俵 大豆 七斗四升	四 百 兩	貳貫五百三拾匁餘		
延享元 申年まで	仁岸屋與兵衛	百 俵	百四拾九兩			

百兩以下人々

猿賀屋三郎兵衛

河南屋 勘六 瀧屋 宇兵衛 豊田 太左衛門  
 笹森 善兵衛 阿波屋 清藏 木村 福松  
 住吉屋 幸兵衛 三國屋 忠吉 岩屋 和助  
 久保屋 久七 西澤屋 伊兵衛 前田屋 弟五郎  
 瀧屋 勘兵衛 岸田屋 傳吉 伊東屋 權太郎  
 岸田屋 多助 佐藤屋 新五兵衛 伊勢 太次兵衛  
 西澤屋 藤七 三上 與左衛門 石坂屋 榮助  
 高屋 治助 升野屋 莊藏 近江屋 市左衛門  
 吉屋 忠左衛門 甲屋 六左衛門 村田屋 又兵衛  
 能登屋 惣兵衛 近江屋 新七 伊勢屋 清太郎  
 高嶋屋 嘉助 播磨屋 治三郎 伊勢屋 八十郎  
 石戸屋 勘太郎 藤屋 源右衛門 米屋 吉藏  
 京屋 重兵衛 大正寺屋 善吉 柳屋 孫左衛門  
 辰巳屋 七之丞 紙屋 幸右衛門 村井 齋記

元禄十七申年より  
保禄十三年まで

千貳百四拾三兩壹  
步

三拾四貫八百目餘

元禄三年江戸御屋敷御園元御仕送御  
用被仰付御目見被仰付御時服頂戴蟹  
田御手山取扱被仰付御時服頂戴



〔綱〕米穀專買所を置く日 缺

〔目〕御元へ申出候御買へ米之義に付上中下位附御買上へ而者百姓共兎角相辨不申旨相聞得必竟夫故賣出米も無之哉隨而格段之御沙汰を以位付無通用米片斗四盃に而御買へ被仰付候様猶拂底之品々直段向下直之處自賣出も有之間敷候に付考量仕左に但通用米に而三拾匁直段

- 一大豆 拾八文目
- 一小豆 貳拾五文目
- 一菜種 三拾五文目
- 一粒油 三拾目

但右四口直段引上御買上被仰付候様

- 一米並雜穀共以來位付無御買上被仰付候様
- 一前書四口直段之外に先日申上候之通弘前定價に被仰付候様
- 一兩濱之分前々自弘前表自直段引立候場所に御座候處御郡内之者も有之間敷儀與奉存候以來左之通
- 一青森表之義は弘前直段拾文目以上へ壹文目増貳拾目白三拾目餘迄之分者貳文目増御上買被仰付候様
- 一兩濱に而賣拂候節者矢張先日申上候通米穀家業之者扱料増御拂被仰付候様

点羽直段向之儀

米 壹俵

大豆壹俵

大麥壹俵

蕎麥壹俵

弘前三拾目

縹ヶ澤三拾壹文目

青森三拾貳文目

弘前拾八文目

縹ヶ澤拾八文目五分

青森拾九文目

弘前拾三文目五分

縹ヶ澤拾四文目

青森拾四文目五分

弘前拾壹文目

縹ヶ澤拾壹文目五分

青森拾貳文目

外雜穀共右に準兩濱に而御買上之上御賣拂被仰付候様

右之通被仰付候得者下々も難儀不相成候様相聞得且者賣出者も可有之候間右定價被仰付候様左候者直段向も引立候趣百姓共は能々申諭早速賣出方之儀郡奉行に被仰付候様

御買入場所

安方町口通用番







一ヶ月分 三千七百五拾俵  
 一ヶ年 四萬五千俵

一店賣白米  
 一 玄米壹俵三拾夕積中勘上白四升減三拾三夕三分三厘搗貸貽共壹俵に付壹夕五分位丁持錢壹俵に付貳分位

一 參拾五夕三厘

一 中白壹俵に付中勘三升減三拾貳夕四分五厘搗貸貽共壹夕位丁持錢貳分位

一 參拾三夕六分五厘

一 船手糶米之義俵數難量奉存候

但搗上り方壹俵に付六升減

一 玄米三拾夕積に而壹俵に付三拾五夕三分外搗貸貽貳夕丁持錢貳分位

一 參拾七夕五分

右糶米之儀者仲間惣持に仕扱所一軒相立申候

一通米之外臨時入用米穀賣方之儀者仲間惣持に仕通用番に而賣拂申候 村井壽記

〔綱〕米穀占買所廢せらる 日 缺

〔目〕御元へ申出候御買へ所二ヶ所被居置候分壹ヶ所御引上被仰付候様申出之通申付之 御日記

〔綱〕別段を設置す

〔目〕 覺

近年不作續に隨穀類直段之義御郡中重立共銘々勝手に相定賣買之處自格別高直に而一統之難澁別而小百姓共端々小者共凌合難相成趣被及御聽格段之以御仁政以來爲御救當年自穀類直段定被仰付御買へ被仰出賣出米無之内者上損下益之以思召御藏米直段引下之上御拂被仰付御養被遊候然處元來當年も不作に而當出穀大都考量之上道分之御減石にも相成候之間弘前並兩濱海岸通之御買へ所者當分御見合被仰付候左之通別段所被差立候

青森 安方町 新町 大野口 堤口

〔綱〕青森町奉行所へ豫備米を置く 二十二日

〔目〕青森町奉行申出候御買へ所御引拂相對買被仰付候處差當買入難相成萬々一小賣米取績不申者共動搖仕候而者恐入候間御米御預被仰付度旨委細申出難被仰付筋に御座候得共追々申出之趣難止相聞得候間百五十俵拜借被仰付候様左候は、右之分者萬一動搖之姿に相成候は、小賣米に差出候尤町奉行所へ而精々取計前書御藏出丈は二月中上米に而急度無間違上納相立候様被仰付候様右之趣御藏奉行には私共より可申通旨附紙之申付之 御日記

〔綱〕通帳小賣米初まる



〔目〕十一月十日より御觸にて各米屋に小賣方被仰付貧民は通帳にて家々人数に應し賣らしめらる一人は付立米五合白米は四合五勺尤白米壹升九分壹合賣壹分一升より壹合迄各自之需用に應す十一月二十七日焼餅米通帳にて賣方被仰付候 柿崎日記

〔綱〕天保九年戊戌正月、廩米拂下及低税の輸出酒は村林平兵衛に特許なる 元 日

〔目〕御元へ申出候江戸御登せ米之内御差繰之上青森御藏米貳千五百俵御拂米爲手配御元方小頭三上藤藏相下ヶ候處此節米價過分引下其上船々望人無之御急速御登せ金御都合及兼罷有候は付御藏米壹俵五拾六文目立に而御拂被仰付度旨並壹俵八拾五文目立に而造酒米五百俵御拂被仰付度酒に而貳斗入千樽無役に而津出被仰付度儀共村林平兵衛自奉願候旨委細藤藏申出之趣尤に相聞得候間下直には御座候得共外に御入金之道も差當り無御座候間五拾六文目立に而五百俵八拾五文目立に而五百俵都合千俵御拂被仰付候様左候得者兩様に而代金六百三十兩平均壹俵七拾目五分に相當申候扱又酒千樽無役津出之儀者差障之儀御座候間難被仰付候様しかしながら格別差働候に付格段御沙汰を以此度限壹樽壹文目五分之御役上納候様被仰付候様申出之通申付之 御日記

〔綱〕庖厨用魚類は弘前に脚送を命せらる 八 日

〔目〕御側方申出候御上り方御着日市出合無御座御差支之體に付當分之内別紙之通々之人夫を以附上方之儀委細申出之通向々町奉行に被仰付候様云々附紙之通申付之

別紙左に

- 一 正月十二日自上納
- 夫自二日置
- 一 正月十三日自上納
- 夫自二日置
- 一 正月十四日自上納
- 夫自二日置

以上

〔綱〕人別小賣米は貳合賣なる 二十七日

〔目〕今日より店小賣米一人に付貳合賣に被仰付候右御掛役人

- |        |         |         |
|--------|---------|---------|
| 須藤 傳 彌 | 須藤 永 藏  | 福 士 銳 八 |
| 米屋上締   | 長内屋 覺兵衛 |         |
| 米屋通用番  | 能登屋 惣兵衛 | 京屋重兵衛   |
|        | 中嶋 太右衛門 | 竹野屋雄吉   |
|        |         | 高嶋屋 嘉助  |
|        |         | 石塙屋甚五兵衛 |

〔綱〕二月、廩米の恩貸あり 三 日

〔目〕青森町奉行申出候同町小賣米差支候は付御米千俵無御減御拂下被仰付度右難被仰付候は、何れ共精略之上上納相立候に付拜借被仰付度旨委細同所町奉行添書共書面之通申出候得共先頭も申上候通御收納米過分御減石に付迎も此末御拂也拜借



等之儀者難被仰付儀と奉存候乍去段々申出之趣不得止事相聞得候間格段御沙汰を以申出之内三百俵拜借可被仰付候哉左候は、買越米いたし候而も當四月中同所町奉行引擔之上急度上納相立候様被仰付候様附紙之通申付之 御日記

〔綱〕米屋武助以下三人無罪放免とある 二十三日

〔目〕三奉行申出候牢舎之内青森町米屋武助加賀屋清八天内屋福松右之者共儀青森町岩城屋吉左衛門方は米隠賣致候儀に付入牢被仰付吟味之處米穀相對に而買買不相成儀被仰付候者去十月初旬に而賣場御取立賣買被仰付候者十一月十日頃之事に御座候然に町役共自右賣場相立候迄如何共致町方一統飯料差支に相成不申候様賣拂可申旨申付も有之處自五升三升與在方自出米買溜賣拂候得共隠賣致候儀は無之旨同所奉行問合候處十一月十日賣場へ米御渡被仰付迄飯料差支候而者町方動搖可致旨町役共自不得止事申出付御元へ掛合は示談之上賣拂方申付は相違無之旨委細別紙之通に而前書之者共別に子細も無之候間申出之趣御聞届被仰付出牢被仰付候様沙汰之通被仰付之 同上

〔編者〕曰く舊藩時の牢舎あるものは即ち今の入監なり監獄は罪人の拘囚所なり故に武士道を貴ぶ藩時代にありては一度牢舎せるとすれば其情實如何を問はず概して是を惡黨と看做し人々齒するを耻つるの風習とすれば中には枉冤の禍に係る者あるも終身廢銅せらるゝを免れざるものなり武助以下三人者は固より青森町奉行の

命令を以て小民の飯料を辨給するの美事なるも拘らる却て執拘の辱かしめに遇ふ其責め焉にあるや青森町奉行は一市の父母あり日記を通讀するに町奉行は三人者就縛せられし所以を初より聞知せず三奉行の照會も及んで辨解を試しか如し謀叛大逆は此の限もあらざるも密買買米の如きは假令眞の犯罪なりとするも先づ其顛末を父母に具申せしめ其情を得て執拘するも事機を誤るの悔あるべからず凡そ此等不條理の舉措は當時所謂目明なるもの目明には非ずして其實は盲人のみ盲人のみの胡亂説を輕々しく採用するに出づるものなり慎まざるべけんや舊時冤枉往々これ有るは殆んどこれか爲あり豈獨り武助三人者に止まらんや

〔綱〕三月、覬貝町五人組長次郎五人組職を免じ戸を命せらる 二日

〔目〕去月二十一日之夜覬貝町の者共大勢名主友次郎方の罷越戸部打痛候旨相聞得候に付頭取僉議之處不意に寄集候儀に而頭取相分不申旨元來則日五人組長次郎と申者の大勢打寄候由必竟右之處自法外之儀に至長次郎儀不埒付五人組取放戸を申付候旨申出達之 御日記

〔綱〕町年寄村井新助以下三人弘前に於て厚き褒賞あり 三日、九日

〔目〕青森町問屋金澤屋忠兵衛儀御小納戸御用格別心を入實貞出精相勤候に付格段之思召を以爲御賞御遣御紋御上下被下置之尙又實貞出精相勤候様被仰之新助理左衛門弘前に登城申付られ於驚之間土門八郎申渡之覺



青森町奉行一人  
村井新助  
佐藤理左衛門

村井新助、佐藤理左衛門儀御小納戸御用向並常々勤方格別心を入實貞出精相勤候に付格段以思召御中小性格被仰付町年寄是迄之通相勤候様被仰付之 同上

〔綱〕庵厨用奥村酢は増價の恩支あり 十八日

〔目〕御側方申出候青森表御用酢屋奥村屋治兵衛儀近年内通不手繰り相成仕込高行届不申殊り米價高直に而造込候而も酢直段向引合不申然に持合之酢頓而御用立切に相成申候間御米拾五俵拜借之上仕込方被仰付度旨申出候得共此節御米賦等御六ヶ敷御場合より付申出之趣迎も難仰付奉存候乍去此節下賣米直段向過分高直之趣にも相聞得候に付右仕込米買調候直段向に寄御買上酢直段上げ被仰付候様附紙之通申付之 同上

〔編者〕曰く名産物の勢力は小ならざると爲すへし其名一たび遠近に播告するや他の種類も必もこれに随伴せざるを得ざるものにして土地権利の擴張も職としてこれに由る奥村酢は舊時にありては青森名産物の一也弘前には當時淺野酢の精品無きに非す而して臺所用の必もこれを青森奥村酢と指定せらるゝものは豈名産物なるを以てするの故より非すやこれに随伴するものは青森鮎なり青森白酒なり皆二の丸

妃嬪用とある土地権利の隨て擴張するの明證に非すや奥村酢其創製ハ何の年なるを詳にせざるも近年内通不手繰云々に徴すれば天保以前にありて既に已にこれを業とす來るは亦知るべし傳へて明治に至り猶人々の奥村酢と指稱せざる無きは我が親しく聞く所也惜ひ哉其招牌を下ろせしハ實に四五年前にあり世態變遷今はシヨ一サク酸なるもの得て名を專にせと雖土地名産物の終に湮滅に歸するは亦悲しまざるべからず奥村酢の跡を歛むるに至り鮎も白酒も命脈の絶へざる縷の如しと當業者果して何等の感覺を有するや

〔綱〕水主糧米税を特免せらる 十九日

〔目〕勘定奉行申出候近年打續き凶作に而舊穀孕無之處昨年冬減石に付當九月迄船々糧米之儀三ヶ一位御減之積を以積入方被仰付候様御廻船上方船、中國船、秋田、南部、松前地船當坐糧米共御減之上古來之通御役御免之上積入被仰付候様尤船中乗組人數實數自過積無之様又水主共之内病氣差合等に而宿上り或者他行船中に不居合分者當坐糧米差引相立積取せ候之様青森廻南部船壹人に付四升宛但南部船日々之様乘廻候者勝に付其時々糧米之分は積取せ不申候様尤出帆之日自五日過又々入津之節四升宛積取せ候様右之通向々に被仰付候様申出之通申付之 御日記

〔綱〕近江屋理助、河南屋平治造酒特許となる 二十二日

〔目〕御元々申出候青森町近江屋理助、河南屋平治方に而御小納戸御拂米を以貳百俵宛造



酒被仰付度旨先願書出候得共難被仰付旨被仰付候處又々書面之通上納向手配差支に付責而百俵宛造酒方被仰付度旨再應願出殊に御小納戸役來狀之趣も御座候間格段御沙汰を以此度限願出之通壹軒百俵宛造酒方被仰付候様左候は、右仕込中酒幣室釜諸道具入用分考量を以封印之上申出候様共被仰付候様附紙之通申付之同上

〔綱〕四月、農具鍛冶職治助終身貳人口を賜はる 十四日

〔目〕青森町鍛冶職治助儀御國恩冥加爲數年外ヶ濱四ヶ組村々は農具出精貸付罷有候所近來不熟作在方難澁に付貸付分皆捨之上新當春自貸付いたし候旨相達候間生涯貳人扶持被下置之 同上

〔綱〕調達金を命せらる 晦日

〔目〕今日郡奉行町奉行並九浦奉行御代官迄呼上相達候口達左之通

近年打續不熟作故御勝手向別而御差迫之處昨年も又々存外不作に而御收藏相減候に付御米金共過分之御不足補之道更に無之必至と御賦難相立御公務初御家中御扶助も難被爲行届無此上御大事至極之御場合被爲至候折節御巡見使御下向に付御米金共莫大之御入用御目當無之尤御巡見使一條之義者御國役隨一之御用柄萬々一等之儀有之候而者別而御太切御儀に付在町浦々に至迄右御入用分調達方昨年中御沙汰も可被仰出候處近年御用向も被仰付何れも疲勞之場合深被遊御厭右様之御沙汰者押而御見合之上別段御趣意被差立御郡内預手形を以通用之事被仰付候得共畢

竟者多少引替之道も無之候に付佗邦自買越品々追々拂底に相成候處自預手形殆與不融通に而却而諸人難澁之趣被爲及御聽是又御厭之處自預手形通用御當分之内御見合被仰付候且又昨年来穀御買所被差立候に付相對賣買者御差留故在町浦々共差當飯料數萬俵御藏米之内自夫々御拂被仰付候尤右御藏出丈者御買米を以埋合相立候筈之處昨年柄故歟何分御買取相成兼旁手順違に相成御米金共追々御不足増に付不被爲止事昨年御收藏減に隨ひ御家中渡此節より相當之歩引被仰付猶又南部御廻米之儀も當秋迄之御扶持米而已其餘者無地爲御登方御見合被仰付其外補道種々評議被仰付居候内最早御巡見使御下向御口合も無之處々御手入向及諸色御買入等片時も御猶豫難相成御入用並御參府御入用其外御當用御秘用之口々共押疊磁と御差支無御據此度別紙割合之通在町浦々は調達被仰付候間御時合柄與得勘辨之上友々精力を相盡分限に應し當時之盛衰者支配頭に而能々穿鑿之上疑惑無之様割合致御太切御入用柄御間欵に不相成候様被仰付候通急度上納相立候様尤當秋熟作之處に而御都合次第御返濟可被仰付候此旨申達候

四月

御家老

一金六千兩 弘前町  
一金千四百兩 青森町



一金九百兩

鱈ヶ澤町

以下略

右千四百兩高御調達金は當秋迄繰出可申旨にて奥村吉左衛門、金澤忠兵衛、和田屋仁左衛門、柿崎忠兵衛の四人に被仰付候 柿崎日記

〔綱〕宮崎標符を癩せらる 二十五日

〔目〕昨年御取立之御元々役田中勝衛御役被召放川原平村に押込被仰付右に付是迄通用被仰付宮崎八十吉名前之銀札通用御止に相成四月二十五日右銀札の爲下々殊之外難澁いたし候 同上

〔編者〕曰く標符の行はるゝ流水と何擇馬流水は唯其の源あり故に晝夜を捨てずして行く何ぞ梗塞するこれあらんや標符にして苟も金源有らしめは何ぞ行使の梗塞するこれあらんや漫に無源の標符を以て假令一時の乏絶を彌縫せんと欲するも管梗塞し行はざるのみならず其餘譽國を傾け家を亡されば止まざるなり故に善く標符を行使する者は百萬の標符に對し必百萬の實金を備へ一厘一毛と雖金と鈔との間に人をして疑ひを容るゝの隙無らしむ人々鈔の輕便を喜んで實貨携帶の不便を厭ひ幾歳月を涉り權衡を失ふの患ひ無きは十二分の保証して猶餘り有り乳井貢田中勝衛は舊津輕藩經濟士を以て名あり而して與に共に標符を以て商賈を苦しめ殆んど國に禍するもの佗無し無源の標符を以て窮乏を彌縫せんを欲まればなり然れども實は寶曆の餓飢を救ひ得て一時の名譽を博せるのみならず廢起一ならずし

に勝衛は議論器々を以て斃れて止む蓋し時勢潮流の然からしむるものあり豈已むを得ざるもの有るにや

〔綱〕閏四月、博勞町名主柿崎忠兵衛以下十四人褒賞せらる 二十七日

〔目〕年頭御目見青森町名主 柿崎忠兵衛

去已年不熟作之砌扱方不容易之處日夜骨折格別出精相勤其上御用金調達等被仰付候節是又出精相勤候に付格段以御沙汰御遣御紋御上下被下置之

御用懸御目見青森町名主 河南屋勘六

近年不熟作之處小者共は補助等差出其上度々調達出精相勤候に付格段之御沙汰を以年頭御目見被仰付之

年頭御目見青森町 長内屋覺兵衛伴榮太郎

去已申年遠作之砌自分家業も打捨町内難澁之者共凌方手配向行届殊々數年之間町内締方宜奇特に付格段之御沙汰を以年頭御目見被仰付之

青森町 河南屋平治

常々格別實體町内難澁之者に補助等差出殊に御用金度々差出猶又御借上米金被仰付候節も早速差出奇特に付格段御沙汰を以年頭御目見被仰付之

買物役格青森町御印書 關源藏

老年迄數年御締合宜格別實貞出精相勤候に付勤料之内壹人扶持御加増被下置之



青森町同心自御印書加勢 小笠原勝彌

青森町醫 南 了 淳

病用格別出精殊去已年以來難澁之者共の施藥差出候に付帶刀御免被仰付之

年頭御目見青森町 村 林 平 兵 衛

度々御用向出精町内小者共の補助等差出殊昨年植付之節別而骨折候に付帶刀御免被仰付之

年頭御目見青森町 長内屋 覺 兵 衛

近年町内難澁之處自分家業打捨小者共凌方手配向格別心を入猶又御締合宜奇特に付於青森町奉行所に御酒御吸物引肴干菓子被下置之

青森町名主 奥村 吉 左 衛 門

鏡屋 五 左 衛 門

木 下 屋 傳 吉

加賀屋 善 兵 衛

常々出精殊に町内難澁之處小者共凌合方手配向格別出精御締方宜奇特に付於青森町奉行所御酒御吸物被下置之 御日記

綱公來る淹留九日 二十六日

目屋形様御遠馬に而御出藤林源右衛門御本陣被仰付候 柿崎日記

綱七月、幕令を以て金銀粧飾用を嚴禁せらる 朔 日

目今日御元々並三奉行、九浦奉行の相達候公義御書付之寫左之通

覺

棉弁かんざし煙管又者煙草入紙入かなもの其他奇麗成既之品々金銀用候儀停止之旨前々相觸候趣も有之候處近來猥に金銀具相用並賣買致候者も有之由相聞如何之事に候以來百姓町人右體之品に金銀用候儀決而不相成主人或者出入屋敷等自貫請又は持傳おとに候とも金銀箸類一切持間敷候右に付而者武家要用之品者是迄之通其外も武家自誂候分格別都而金銀具相用候品内証に而拵置賣買致し間敷候只今商人共仕合候分は當年限賣買いたし來亥年より可爲停止候

閏四月

右之通可被相觸候 御日記

綱巡見使黒田五左衛門、中根傳七郎、岡田右近來る 同 上

亭主役 奥野屋 庄 兵 衛

脇 米澤屋 庄 右 衛 門

下知人 吹田屋 次 五 兵 衛

寺 屋 源 司

八田屋 六 右 衛 門

一の宿堤町



- 右御下宿 稻見屋 九郎兵衛
- 二の宿米町 亭主役 村 林 勘 六
- 右御下宿 村 林 屋 平 兵衛
- 右御下宿 澤 屋 藤 兵衛
- 三の宿米町 西 澤 屋 善 兵衛
- 右御下宿 西 澤 屋 伊 兵衛

松前自直渡り爰元御着岸に相成り翌二日之朝善知鳥宮に御参詣夫自平内は御出立に相成候

右御巡見使御下向ふ付當濱に於て新造船貳艘出来十三にて壹艘合船都而三艘五月二十日碇ケ關より弘前油川平館三厩にして二十七日三厩出帆七月朔日御歸帆御入津に相成る

御巡見使五月十九日碇ケ關御着之御つもりに而御船御扱役同月十七日三馬屋迄相詰候様被仰付候左に

- 能登屋吉郎兵衛 藤林源三郎 川内屋吉郎右衛門
- 米澤屋 百次郎 瀧屋理兵衛 稻見屋九郎兵衛
- 川内屋吉郎右衛門 藤林屋 源三郎 瀧屋理兵衛

乍恐口上之覺

御巡見使様松前表に御渡海之節御船中私共取扱仕向並諸事共委細以書奉申上候様被仰付奉畏候隨而左に奉申上候

一 五月十八日三厩に相詰候様尤御傳馬被仰付候に付駄賃帳を以相通候様泊所之義は郷賄被仰付候に付賄手形差出候様被仰付難有仕合奉存候尤御船中御取扱御物頭様弘前表十七日御出立被遊候様奉承知候に付私共儀被仰付候日限十八日青森表出立仕候即平館に止宿仕翌十九日三馬屋表に着仕候尤竹野屋豊三郎義不快に而相殘青森表自自分雇馬に而則日三馬屋に通しに着仕候

一 御召船御供船扱之者拾貳人召連候者共都合二十人増川村與四右衛門方に止宿被仰付罷有候御物頭様三馬屋御止宿

一 御船中私共取扱向之義者於三馬屋右御用懸御役方様自一々被仰付候に付御伺申上候様被仰付着日夜に入り候に付翌二十日未明罷出何角御下知を受申候

一 同二十一日御船馴被仰付御懸御役方様並私共迄乗船仕算用師沖迄御乗出御船揃相濟御船中御扱向夫々被仰渡候

一 右御舩馴相濟候に付御先例之通御召船三艘に爲御祝儀御樽肴可被仰付旨被仰付候隨而先例之通酒肴相揃差遣可申候處此節柄故過分高直に相當候間御伺之上爲御酒肴代五十疋宛被下置候

一 御船中御用に相成候御家具等夫々相調猶取扱方御下知受申候



一 同二十二日御物頭様於御城下表被仰蒙候御書付御乗合之御方様並御船頭私共迄被仰渡之上拜見被仰付候猶又諸事御太切に奉扱候様御精々被仰付候

一 御巡見使様御三方共二十四日八ッ時過に三馬屋被御着候

一 御用金貳百兩御預被仰付尤弘前表御町年寄松山彦左衛門様御同道之上御郡奉行様自御渡被仰付候に付手形差上申候

一 同日御召船並御供船御荷物御入用品御勘定方様自夫々受取手形差上申候

一 同二十七日未明順風之よし御船頭申出候隨而御船中御座之間其外共御掃除並御荷物取扱等も御座候に付早速乗船仕諸事手配仕候尤御船中者私共袴羽織に而相勤申候

一 御船中御乗合左奉申上候

一豊久丸

青森御船頭

白取 忠藏

介添三馬屋

田中伊之松

黒田五左衛門様

水主 貳拾人

御用人貳人

御給人貳人

御近習三人

御足輕四人

御附添

蝦名 彦藏

御醫者

三上道 周様

御茶道

木村 玄喜様

御料理人

石郷岡 定吉様

青森町人

川内屋 吉郎右衛門

青森町人家具方

稻見屋 九郎兵衛

板之間

壹人

町料理人

壹人

三馬屋夫之者

壹人

御供船

天神丸

船頭

重兵衛

水主

九人

御給人壹人

御近習壹人

御徒士四人

御足輕二人

御仲間二十人

御徒目付

相坂 文吾様

青森町人賄方

竹野屋 豊三郎

同家具方

小嶋屋 庄三郎

町料理人

壹人

三馬屋夫之者

壹人



御用船御荷物積八吉丸 船頭十三町 安右衛門

御宰領足輕壹人 栗原慶助様

三馬屋夫之者 壹人

町人召連候者 壹人

御先乗船 海老名彦藏様

御家來外に町人召連候者一人

二長運丸 青森御頭 白取忠六

介添三馬屋 板屋彌兵衛

中根傳七郎様

御用人貳人 御給人貳人

御中小性三人 御足輕貳人

御中間三人

御附添 櫻庭清八様

御醫者 松本道榮様

御茶道 中川龜泉様

御料理人 高田勇八様

青森町人賄方 藤林源三郎

同家具方 淺野屋宇兵衛

板之間 壹人

町料理人 壹人

三馬屋夫之者 壹人

船頭 油川村幸八人

水主 八人

御供船 八幡丸

御給人壹人 御中小性貳人

御徒士四人 御足輕御仲間二十人

御徒目付 鈴木吉郎次

青森町人賄方 木下友次郎

同家具方 久保屋久七

町料理人 壹人

板之間 壹人

三馬屋夫之者 壹人

御用船御荷物船三王丸 十三町 杵右衛門

水主 八人

御宰領御足輕貳人



御先乗船

三馬屋夫之者	壹	人
青森町人召連之者	壹	人
三馬屋の左之吉	水主	五人
櫻庭清	八様	
御家來衆		
御醫者	御家來	
御茶道	御家來	
青森町人召連候者	壹	人

三榮通丸

三馬屋御船頭	安保喜三治	
青森介添	野澤勘助	

岡田右近様

御用人貳人	御給人貳人
御近習三人	御足輕四人

御附添	間宮求馬様
御醫者	廣瀬玄琢様
御茶道	福士壽仙様
御料理人	福田宇平太様

御供船 長榮丸

御中小性貳人	御徒士以下二十七人
--------	-----------

御徒士目付	豊嶋定次郎様
-------	--------

青森町人賄方	能登屋長左衛門
同家具方	瀧屋紋藏

町料理人	壹人
三馬屋夫之者	壹人

御用船御荷物積明福丸	十三町	七三郎
水主	七	人

御宰領御足輕壹人	三馬屋夫之者	壹人
----------	--------	----

青森町人賄方	瀧屋理兵衛
同家具方	米澤屋百次郎

板之間	壹人
町料理人	壹人
三馬屋夫之者	壹人

十三町	新太郎
水主	九人



御先乘船萬寶丸

青森町人召連之者 壹

三馬屋 專

人 助

水主 五

人

間 宮 求 馬櫓

御懸御役人方様御家來衆

御飛脚三艘

一 御召船に御積入之品々若御手道具並御具足兩掛御簀篋御狹箱等御供船に者御長持御荷物共御積入竹馬之類御駕籠之義、荷重に相成に付御荷物船へ御積入に相成候其外御取扱之御方様御荷物並私共着替等者御先船へ積入申候

一 御坐之間御飾等者御茶道御仕立被置候尤先例御乘船前方御中小性衆御見分之上夫々置場等御究被成候趣に御坐候得共此度者其御義無御坐候御視箱御煙草盆之類御持せ之分に而相濟候由御具足並兩掛御簀篋等御近邊に被差置候様御狹箱は船底に積入候而も不苦候様被仰渡候

一 御乘船前御物頭様御船中御見分之上御乘船之義御伺御味へ御附添御乘船被成候御臺所御役人様御茶道様御取扱も御坐候事故御前へ御乘被成候

一 御乘船之節毛毘御渡無御座候相用不申橋船毛毘相用候

一 御乘船否御物頭様白御伺之上與斗被差上候御供攜之上御船歌相濟宇鏡沖に御出之

頃御茶並御菓子差上候御給人様白御挨拶有之御下被成候強而御物頭様白申上候得共御受不被成候に付又々御廻盛に而差上候所御受被成候御用人様にも別段御菓子差上候處右御同様に付矢張差崩差上申候

一 上宇鏡沖合に相成候頃御酒差上度御物頭様白御伺被成候處被召上候節者可被仰出候趣御給人様白御挨拶之由御扣被成候御役人衆中様にも可差上旨申上候所御同様御挨拶之由其後御膳可被差上旨御伺被成候得共御上様並御役人様方にも能頃御左右可被成旨に付是又御扣被下置候汐路に相成何れも御船心之由に而御酒御膳差上不申御供船も御同様に御座候尤彌御船氣に而御吐逆被成度方多御座候に付青森町奉行所より御渡被成候枕より可相成吐逆箱差上候所殊之外御賞翫被成候

一 汐路に相成候得者御船頭白申出之度々御物頭様白御伺被成候尙又汐路御乗越之節者同様被仰上候

一 白神沖迄松前白御引船相詰申候得共順風に而御引船不相用二十七日八ツ時頃松前表に御着船被爲成候御入船前船歌唄ひ申候尤御引船之數之義承候所百二十艘御用意之よし其外松前居合船自船橋二十艘餘被仰付候様申事に御座候

一 御召船豐久丸榮通丸御着岸に御座候得共長連丸之儀は風彈に乗せ少々後れ猶御船等御着不同に付御着船次第沖之口御役所に而御待合せ不殘御着岸之處より而御



供揃之上御願に御旅館に御出被爲成候尤松前自被差出候端船に而御物頭様並其外様共御上被成候  
 一御召船並御供船御荷物船共大松前と申處に間入仕候尤先例居合船並後に入船之分共外間の相廻候由に御坐候得共此度は御船間あられ候迄に而同間へ入船も居合せ申候  
 一松前御出迎之衆中

町奉行 遠藤文左衛門様  
 同 將 監様 蠣崎四郎左衛門様  
 町年寄 三輪八之丈様  
 櫻庭梅太郎  
 張江又八  
 村山十左衛門  
 田中九八  
 宮川半左衛門  
 中村九兵衛

名主 中村九兵衛

壹

御引船懸り支配役人

目谷元次郎

組合中 蠣崎彌次郎

谷梅小左衛門 木村熊之丈

明石軍七

外に手附足輕拾五人

貳

組合目谷歡平

櫻庭又兵衛 新井田與左衛門

數村崎司

外に手附足輕拾五人

參

組合數村熊四郎

大場傳左衛門 鹿野市之丈

針谷永八

外に手附足輕拾五人

澗口橋欄役沖口奉行

岡本時藏 藤田陸良  
 一御宿 松前修理様宅  
 二 新井田右膳様宅  
 三 太田孝司様宅

一同二十八日御三方様松前御出立江差之方は御通被爲成候  
 一同二十九日御召船三艘並上相濟申候其節松前御船懸目付役新井田百右衛門様其外町奉行下役神之口御役人御詰合被成候尤御物頭様御徒目付様足輕目付様御詰



合御下知被成候

一六月十一日御召船三艘共臺御仕候に付松前御船懸被相詰候御物頭様御徒目付様  
足輕目付様御詰合諸事御下知被成候

一同十三日御三方様御城下の熊石より御着に相成御歸懸御城下寺社に御參詣御濟  
之上御宿に被爲入候由

一御船臺上入用諸道具者不殘松前家自御出被成候

一右御臺上之節御召船水主者勿論御供船御荷物船御先船御飛脚船乗合何れも罷出  
相勤候尤松前自御人夫百八拾人程御加勢御座候隨而其之者に爲御祝儀金五百疋  
足輕目付様自松前御船懸御役人中迄工藤忠兵衛を以御遣被成候

一御船臺上之節御船頭並水主格別相勤候に付御船頭に爲御祝儀金貳百疋御水主に  
先例之通御酒貳斗身欠六羽被下置候に付御船頭に相渡申候

一御巡見様自船歌書付差上候様御頼合に付御船頭自相認差上候由

一御巡見使様御持せ之御挑燈等御歸帆之節御召船御供船共御用分御荷積之砌御足  
輕衆逸々御差圖御座候に付其通夫々船分積取申候

一御出帆に差懸御荷物積入方之義御物頭様自三御宿御役人様迄御取合被成候所御  
手遠之御荷物御積入可被成様被仰出候由御船頭に十八日被仰付御長持明荷竹馬御  
合羽之類御積入に付濱先に相揃松前御役人並私共立合船頭に相渡申候尤御巡見

様自御供廻之内夫々積入方御差圖被仰付候

一御旅籠拂之儀御伺申上御先例之通相拂申候則仕分左に奉申上候

御物頭様御三人

御醫者様御三人

御徒目付様御三人

御茶道様御三人

御臺所御役人様御三人

足輕目付様御壹人

右之御方

百五拾文積

御物頭様御家來

御醫者様御家來

御徒目付様御家來

御料理人様御家來

御茶道様御家來

足輕目付様御家來

板之間衆

青森町人

町料理人

三厩夫之者

右之分

百貳拾文積

一七月朔日未明順風之旨御船頭自申出御物頭様自御伺被成候處夫々御取支度之上  
晝四ツ時頃御出帆に相成則夜五ツ半頃一の御船青森御安着に相成申候引續貳三  
の御船並御供船共遣々御安着に相成申候尤も私共儀松前表御出帆之砌殘御荷物  
積入方差障御臺所御用品代並御旅籠等相拂其上御船中手配方等も有之旁心配仕  
候得共以御威光首尾能相勤申候

但重而御船申御扱被仰付節は賄方並家具方之外松前表取仕舞之者壹人別段被



仰付度御事に奉存候

一松前表御出帆白青森御安着迄御規式之義者三馬屋白御渡海之節同様に御座候尤格別結構之御順風に付御菓子可差上旨御物頭様白御伺之處御受難被遊旨御挨拶に付再三申上候得共強而御断に付取崩差上候處御受被遊御茶等數度被召上候猶能頃御見計ひ御酒可差上之旨御伺之處御丁寧之御断に而御受不被遊尙御膳之義も御伺之處御丁寧之御断に而松前表白御持參之御辨當被召上候尤御仲間衆御酒土瓶へ入差上候得共是以御断に而御用無御座候香之ものと申唱御重詰御肴差上候所被召上候

一二の御船之義御膳可差上旨奉申上候能頃御左右有之趣に而差扣居候所其後御給人様自御膳差出さへき旨被仰出候に付差上候處御上様に者不召上候得共御用人様自御供廻之義は不殘被召上御丁寧之御挨拶御座候尤御酒者堅御断に御座候得共御足輕及御仲間方々者内々に而土瓶に入茶碗相添御肴は紙包にて差上候處殊之外御悦に而御銘々御上被成候尙御菓子之義も御供廻之内御望之方も御座候に付被望次第盛分差出申候尙又御下部之方々者御膳貳度差上申候

一三の御船之儀御膳可差上旨御伺奉申上候處御供廻りに而御上り被成候其後時分にも相成候に付又々申上候處御上様には不召上候得共外御用人様自御供廻迄御上り被成候御酒之義申上候處矢張御断に御坐候得共御下通之衆御用に御座候

一御供船之義何れも御膳被召上御酒之義も御給人様之外大體御内々に而御用被遊候

一一の御船於御船中御給人様自御物頭様迄帶刀之分御姓名書上候様被仰付候由に付右相認候様御物頭様自被仰付候に付書上候御人數左に

- 武頭 蝦名彦藏 醫者 松本道榮
- 茶道 木村玄喜 料理人 石郷岡定吉
- 船頭 白取忠藏

右之通奉申上候

一三の御船御用人様自御船中一統乗合姓名奉申上候様被仰付候に付其段御物頭白御伺申上候處書出候様被仰付候左に

- 武頭 間宮求馬 醫者 廣瀬玄琢
- 茶道 福士壽仙 料理人 福田宇平太
- 船頭 安保喜平治 介添 野澤勘助
- 水主 二十人
- 賄方 瀧屋理兵衛 米澤屋 百次郎

右之通奉申上候

二の御船之義は御尋無御座に付書上不申候



一松前表御出帆自結構之御願風に付龍鼻崎並奥平部に御引船御備被置候所自夫々御引船漕出候得共御船奉行様御乘被遊候而已御船に取附御挨拶被遊候得共外御引船一艘も取付兼候所自一の御船内真部沖頃に相成暮に及候得共御引船無之に付青森迄御乗込御知せ申上候義出來不申無據為御案内御船表に松明燒立申候但追年御巡見使様御出帆御歸帆之節は内真部邊油川邊にも御通用船御備被仰付度御事に奉存候

一青森表一の御船御安着に相成候に付御物頭白為御使上陸仕御用承役様御手配之義御伺奉申上候處御腰懸け之御宿瀧屋善五郎方申付置候間御上陸被為成候而も宜趣に付其段御物頭様迄奉申上候處御物頭様自御用人様迄右之趣奉申上候處御三方様御揃迄御上陸難被為成筈候得共二三之御船御着船迄間合可有之に付御上陸可被遊候に付濱先御張御引取可被成候様御挨拶御座候様承知仕候

一青森表御召船並御供船共不殘御安着否御荷物夫々陸上方被仰付於松前表積入に相成候分私共立合仕夫々御荷物扱役に相渡申候

川内屋吉郎左衛門  
藤林屋源三郎  
瀧屋理兵衛

これより先き去二月を以て被仰付候次第並惣名主共自奉伺候左に

御巡見使に御答可申心得之覺

青森より

- 一糠檀山麓迄 三里 嶽迄 貳里
- 一吾妻山麓迄 貳里五丁 嶽迄 三十丁
- 一三馬屋迄 拾七里六丁五拾壹間五尺
- 一外ヶ濱入海 長拾四里 奥平部自淺蟲迄 幅八里
- 一外ヶ濱磯邊龍濱崎自鍵懸迄 拾九里
- 一青森町長貳拾四町拾三間五寸 安方町升方自提橋向迄
- 一淺蟲迄 三里二十一町三十六間
- 一野内迄 壹里拾四丁
- 一油川迄 壹里拾三町三拾壹間壹尺
- 一椿山迄
- 一青森人別 八千貳百拾九人
- 一同屋敷形居下役人足
- 但屋敷形米三百二十石九斗四升三合地子銀等差出候に付石盛不仕
- 一同馬數 五拾壹疋
- 一同漁師 九拾七人



一同船數 七拾六艘 五人乘貳人乘流船丸木船と  
一橋數 大小二十貳ヶ所

御巡見使御用掛 以下村林登記

青森御歸帆之節御使者 竹内本次郎 上下十四人

青森火之廻 太田兼吉

同 野呂良太郎

但御使番之内自被仰付

御用承役 上下五人つゝ 黒瀧藤太

同 同 百川文平

御引船奉行 同 後藤理門

同 同 高屋幸司

同 同 船水彦八

御傳馬奉行 上下四人つゝ 大沼又太郎

同 同 山崎甚四郎

外郡所役壹人御代官手代貳人

此度御巡見様御下向之旨被仰付候に付萬端御手配向に付諸伺之事並心得左に  
一造酒屋軒數 其造高之事

一両替屋 酒 細物 紙類 味噌 米 鹽之類店々之事

一餅菓子 素麵類之店

一御制札並右柵立屋根廻御手入之事 一青森町入口之木戸伺之事

一大町壹町目角壹里杭及博勞町一里杭之事 一牛馬之有數之事

一孝子 一飢人之有無

一金銀銅鉛山之事 一山林字名及有所之事

一大山大川之類 一去春自出火之有無

一青森拾六町と申上候事 一諸色直段之事

一善知鳥沼之事 一御宿割之事

一三御宿御入用炭薪渡方之事

一三御宿髮詰と元結髪附渡方之事並御雇賃一日三夕つゝ被下度伺之事

一三御宿札之義伺之事 御持參札御渡之札共何れも建札に無之由懸札に相成候に付折釘用意之事

一御紋付燈籠は御船及御船場に付可申事御宿所へ御持參之燈籠之外御下之燈籠は二ツ引之よし被仰付

一諸役人御宿札は作事渡之事

一料理人雇錢及前渡之事

一御用心向之事並夜廻之事夜番女差出不申様申付候事



- 一 犬を首計出し儀へ入置候事兼而自捕らへ置き候様木にても付置事
  - 一 御用意之加籠九挺計弘前自御下方伺之事
  - 一 御三宿兩隣向共三軒つゝ不寢之番可致候尤袴を着し小見せに罷出居事
  - 一 袴大小小帷子之類弘前自兼而拜借致置事
  - 一 紺貳拾枚 赤黒合羽四拾枚計
  - 一 右等ハ御差添物頭之供船運成候節之用意にも相成へく候
  - 一 諸組諸支配御手當之事
  - 一 御引船之事
- 先年は中天道と申七八人乗之船に而御用相勤候得共近年は右船一切仕立無之御引船拾五艘分不殘網舟計に御座候依而新規舟道具入用分伺申出候
- 一 明松は七人乗漁舟にて三艘用意仕候右漁船ハ餘り小舟に御座候而御引船御用には相成不申候
  - 一 船之儀は上磯通御用船三厩に貳拾壹艘被仰付候得共何れも五尋以上幅四尺五寸位之船に而御用相勤候間押々青森にても右に準格別御物入、不相成候様被仰付候に付又々取合候事
  - 一 明松入用柴四拾駄御船場かゝり御入用分
  - 一 同柴四拾駄右者御引船入用明松用意之事

但長四五尺ひしき候を能々干立小把に致し壹駄は百四拾四把位つ、

- 一 御船場並御引船にて入用之御燈提並蠟燭渡方之事
  - 一 御引船並御船頭水主御雇鏡之事
  - 一 一三之御宿より御船場迄間敷之事
  - 一 御引船拾五艘ハ賄米之内壹俵つゝも拜借之事
  - 一 善知鳥宮に而御巡見使御渡海安全御神樂及右御入用物之事
  - 一 但町奉行勤番目付出席有之候事
  - 一 御見送物頭御差添同斷御假屋物頭御醫者共堤の橋向ハ町奉行町年寄は橋之内
  - 一 御買上千魚類並肴注文之事
  - 一 蟹田三厩手傳並給仕人可相成は青森自差出不申様願之事不得止事被仰付候は
  - 一 往反御貸馬並御賄共一日分壹升つゝ被仰付度願之事
  - 一 料理人右同斷並御雇賃一日貳匁つゝ
  - 一 御下品之事
- 御扱に付御下り之諸役方御賄凡而御物入に而被仰付度事
- 凡而御用に付御下り之節者夜具家具より御入用物は御在番御同様御持參に而御下り被下候様伺之事
- 近年打續違作、付夜具家具其外諸道具まで連に賣拂候に付町方持合御借上御



用支は眼前に御座候間弘前より御下ヶ方願之事

一豆腐屋、八百屋、肴屋、荒物屋、心太屋、仕立屋、右弘前自御下被下度事

手配向心得

一壹之宿下知人之事

一御腰掛ヶ伺之事

一薪炭伺之事

一椀之手配方之事

一近善湯之事

一借上物之事

一壹之間屏風之事

一家具之事

一料理人之事

一御肴之事

一弘前より下候菓子之事

一青物屋豆腐屋之事

一折桶及水風呂之事

一街道手入之事

一按摩及髮結之事

一洗濯物之事

今般御巡見使様御下向、付其用意及伺書左に

乍恐口上之覺

當年御巡見使様御下向に付先規先格之通夫々此節自懸り合之者共及諸道具等迄萬端御用支に不相成候様被仰付奉畏候隨而ヶ條書を以御伺奉申上候間夫々御差圖被仰付被下置度奉仰候

一御巡見使様御用懸りに付御下り被遊候御役方様及懸り合に而御下り御人數御

入用干着、摺着其他昆布若め之類迄も此節自松前表に御注文に而御用意被成下候様御存被置候通昨今は船々入津少に御座候得者當所家業之者共一切持合之様子無御座候此節自御人數御考量を以御買入被下置候様御伺奉申上候當町諸品拂底にて御用向被仰付候ても御用辨無覺束奉存候隨而兼而此段御伺奉申上候

一御巡見使様に付御入用御床飾り付白御器物御家具御夜具等凡而御三宿之内二之御宿八ヶ成御用御支にも相成申間敷候得共一之御宿三之御宿之儀は一切所持無御座候間弘前表自御下被仰付候様當町有合之諸道具は如何共申付御用支に不相成候様仕度奉存候得共連年之違作續て是迄持合之者も追々賣拂相凌來候得者迎も御用に相立可申持合之者無御座候勿論夜具之義は適持合御座候とて七六年以來一切洗濯等も不仕候得者甚見苦敷迎も御用に可相成體に無御坐候

一御用にて御下り之御役人様御目見以上之御方様凡而御在番所に御下之思召入に而御夜具及御家具等迄御持參御下り被成下候様御伺奉申上候當町自御借上被仰付候而も迎も見苦敷品々計に而前奉申上候通に而御坐候得者御用に可相成體無御坐候此段も御伺奉申上候

一松前表より御歸帆御上陸之砌御船場より直に御宿付にては御供揃等之御間も



御坐候に付御小休所御用意如何可被仰付哉先年は三厩表に御上陸にて當青森  
の御通被遊候に付御腰懸之御宿御手配不仕候此度は青森表の御船直付に相成  
候得者何れ御腰懸御宿手配可被仰付候哉此段奉伺候

戌 二月

惣 名 主

乍恐口上之覺

御巡見使様御下向に付新規合船及御手船榮通丸御手入方に付大工手傳町人夫  
六百五拾人並右御用、付飯炊人夫百三拾五人差出候様被仰付奉畏候得共近年  
違作續にて當時殊之外困究に相成出人夫差出候者共より度々御免願之儀申出  
御座候處此度町々入口六ヶ所の御別段居方被仰付候に付右飯炊人夫晝夜詰に  
御座候得者一月三百六拾人宛入用其外御往來御役方様殊之外繁々御下、付町  
人夫不少出方に相成前日自嚴敷申付置候ても當日、至り儘御用支等も御坐候  
て當惑至極之處去十月種々御減方に相成格段御仕法立被仰付一統難有仕合奉  
存候然上は貧富に不抱持屋敷に隨ひ急度相勤罷有候處間も無く繁々之出人夫  
に被仰付候ては小者共日用自分之家内凌合兼相成兼難澁至極に奉存候間何卒  
格別以御憐愍過分之出人夫に相成不申候様奉願上候隨而奉願候義恐入奉存候  
得共此度御巡見使御用懸出人夫之義は岡在及近在へ山造人夫にて被仰付被下  
置候様奉願候左も無御坐候は、右御用柄計出人夫の御米五合つ、御手當被仰

付度奉願候御急速之御用向計、御坐候間小者共の繁々出人夫相當候而如何様  
嚴敷申付候而も前奉申上候通銘々自分日用家内凌方難相成迎も御急速之御用  
辨に相立可申體無御坐候御用支に相成候ては重々奉恐入候何卒以御憐愍願之  
通御間届被仰付被下置候様御執成奉仰候以上

戌 二月

惣 名 主

御巡見使御道筋町並御手入之義に付左に相伺

乍恐口上之覺

御當所之義の度々奉申上候通連年違作續にて船々交易等早敢々々敷無之候處  
自追々衰微仕候而御町並相勤候者も多く身上潰に相成近年一切手入不仕候に  
付御町並甚見苦敷相成奉恐入候別而此度御巡見使様御通筋之内左に

一堤町自入口諏訪前向角

博勞町

永 五 郎

一博勞町米町之堺橋詰向角

倉藏 傳之助

此所堺橋新規御懸渡し

一米町博勞町堺橋之橋詰向角

喜兵衛、文治郎

一御上陸之御通筋 福士角北側

米 町

庄

兵 衛

以上六軒御手入伺之事

外米町 永助

文珠院

是又二軒伺之事



戌 二月

青森町惣名主 以上村井舊記

(編者)曰く余曾て幕吏の虎よりも猛きを論せり而して幕府固より之れを羈束するの警戒禁令無きに非ず巡見使上官の菓子も取崩に非されば食はず酒は一切飲まず船中たりと雖携ふる所の行厨も非ざれば喫せず自から守る嚴乎たるに徴するも知るへき焉耳然とも藩公の接待丁寧を極む本文の如く藩吏の下僚に接するや酒は茶瓶肴は紙包一々逢迎籠絡以て其歡心を買ふを是れ務む故に上司は嚴乎と巍立を雖下僚は皆逢迎籠絡に沈酔して其爲を所を忘るゝものゝ如し果して巡察の功無きは知るへき也況んや天保は連年の凶歉にして小民生死の岐路に彷徨せしにも拘らざる一睫を交へず奔走するは姑らく置き僅か一日の渡航も二百餘金を費さんとは當時の二百金は今の貳千圓以上にも相當するよあらずや然らば即ち出入前後の藩費は幾數千金を以て算まべし然り而ふして何の爲を所無しとすれば幕府の爲めに徒に民怨を買ふに過ぎざるものなるに非ざるや

〔綱〕金澤屋忠兵衛佩刀を許さる 十日

〔目〕青森町金澤屋忠兵衛儀別段調達金被仰付候處早速皆納相立奇特之者に付帶刀御免申付候 御日記

〔綱〕大坂官次郎輸入米は免税となる 十二日

〔目〕青森湊目付申出候同所船問屋瀧屋善五郎客大坂之官次郎船米少々積入去月二十

八日入津之處同所小賣米差支難澁に付右米三斗入百九拾俵御役御免之上荷上被仰付度旨申出候に付湊目付に而與得詮義之處小者共難澁之趣不得止事申出之通無役に而陸上致せ候旨書面之趣難黙止相聞得候間此度限御聞届被仰付候様以來右様之儀者申立御差圖に隨ひ取扱候様被仰付候様附紙之通申付之 同上

〔綱〕俵物取締役より漁事下問あり 二十九日

津 輕 領 青 森 町

一惣家數千七百軒 本家並借家共

内漁師九拾七軒

一人數八千貳百拾人

内男三千九百四拾人  
女四千貳百七拾人

内百八拾五人漁師

- 一漁船七拾三艘 二人乗白四人乗迄
- 一生海鼠取揚候得共煎海鼠仕立請負人長内覺兵衛方賣上申候
- 一去々未年自當成年此節取揚高左之通
- 一未年煎海鼠 (編者)曰石數原書記さそ憾むへし
- 一申年同 同



一 酉年同  
一 當成年此節迄同 同

一 當濱之義 岸自貳拾間位沖深三尋位三里位沖合三拾尋位岩石一切無御座候

一 當濱岩石無御座候に付鮑一切無御坐候鯨漁無御坐候よ付鯨無御坐候

一 春正月下旬白二月中生海鼠並ほや金頭之類漁事仕候尤先年は生海鼠漁御坐候

得共近年に至り漁塲海中一圓藻生ひ茂り生海鼠漁甚不足に御座候

一 三月自五月中迄専金頭王餘魚漁業仕候

六月自七月中鯛、鯨、王餘魚漁業仕候

八月自十月中迄鱒、鰯漁相働申候

十一月自十二月中専鰹漁仕候其外年中雜魚小肴漁事仕候

右之通御尋に付奉申上候處相違無御座候以上

七月

青森町蛭貝町 名 主  
同 所安方町 名 主

〔綱〕八月、奥野屋庄藏以下十八人豫備調達米を命せらる 四 日

〔目〕本年不作に付貧民救助備置米として被仰付候人々左に尤其分限に應し差出候

一米拾俵 奥野屋庄藏 奥村吉左衛門 澤屋藤兵衛

和田屋仁左衛門 吉屋忠兵衛 南 丁益

村林平兵衛 淺野屋 宇兵衛 金澤忠兵衛

一米五俵 米屋久兵衛 高屋才助 錢屋五左衛門

瀧屋善五郎 村林平司

一米四俵 村林茂左衛門

一米六拾俵 松屋和助 藏入米

一米廿二俵 川合屋 金次郎 藏入米

一米八拾俵 山崎屋 長兵衛 奥村登記

〔綱〕失火者處分の修正あり 十一 日

〔目〕在町浦々之者共是迄失火に而類焼無之共村預入寺等にて慎被仰付候得共失火に而自分宅計焼失之節は以後村預入寺にて慎申付に不及候様被仰付候間尙以火之元等之儀者格別念入御締合相立候様被仰付候尤類焼等有之節は急度慎申付候様被仰付候 同上

〔綱〕町年寄村井新助以下五人に酒膳を賜ふ 二十八 日

〔目〕青森町年寄村井新助儀此度別紙調達金之儀者青森町之者ハ段々被仰付之趣引受上納向申諭抜群骨折出精に付爲御賞青森於町奉行所御湯漬御酒御吸物引肴御干菓子被下置之



一青森町和田屋仁左衛門、柿崎忠兵衛、金澤屋忠兵衛、澤屋藤兵衛、村林平兵衛儀此度別段調達金被仰付候處、厚差合金高早速上納相立御急速御入用金御都合に相成奇特に付爲御賞青森町奉行所に於て御酒御吸物引肴干菓子被下置之

一青森町瀧屋宇兵衛儀右同様早速上納相立調達金爲冥加差上御時合勘辨致し奇特に付爲御賞右同様被下置之 御日記

(編者)曰く天保七ヶ年の凶歉の人々皆能くこれを言ふ而して四年九年を最甚しとす栢原筆譚に徴し知るへきのみ九年の四年より比するに些の輕重あるか如くなるも畢竟巡見使の來臨する有り弘前より於ても百方彌縫し痕跡を掩ふの策を講ずるの結果あるべし然り而して其重責に任ずるものは中家以上與りて力有りと謂へし四年は錢屋五左衛門、澤屋藤兵衛、柿崎忠兵衛、近江屋善五郎を巨擘とし九年は和田屋仁左衛門、金澤屋忠兵衛、村林平兵衛に亦柿崎、澤屋の二家を加へて其功を奏せりと謂はざるべからず窃かに怪む此等の子孫として今日の多くは有や無やの間にあるか如し積善の家餘慶あるの言非なるを覺ふ或は其子孫たるもの、自作の業に出てしやも保まべからざるあり

〔綱〕十月、本灣鯨初めて厨用を命せらる

〔目〕青森表に而も鱈漁有之趣相聞得候に付當年自御買入可被仰付候間新鯨御登せ方相濟不申内は外賣御差留被仰付候様申出之通申付之 御日記

〔綱〕十一月、加州丸水嘉左衛門青森町奉行所に於て重き賞賜あり 十一日

〔目〕御元締勘定奉行申出候加州丸水嘉左衛門に御米貳千俵御拂付候所御米御渡方無御座候内御發駕御急速御入用前金五百兩上納相立吳様及頼談候處御太切御入用柄勘辨仕り早速上納相立候所より一入之御都合に相成奇特之者に御坐候間外船手爲響合御賞左之通被下置候様

- 一金千疋
- 一御酒御吸物引肴二種 但金貳朱
- 一千菓子 但金百疋

右之通青森町奉行所に於爲御賞被下置候様被仰付候様申出之通申付之 同上

〔綱〕給米は減口となる 十一日

〔目〕 覺

此度御家中渡面扶持被仰付候迄御當分之處四合積に而正米渡被仰付候に付右御手當向之儀差積左に申上候

- 一九浦御給人三人扶持自以下木波右以上三ヶ一渡被仰付候
- 一九浦同心警固並兩濱同心三ヶ一引渡被仰付候處依願四ヶ一渡被仰付之
- 一青森御印書被下方願に依り四ヶ一引渡被仰付之
- 一米拾五俵宛 漁師頭貳人



右者三ヶ一渡被仰付之

一浦々町年寄半渡御坐候得共青森町年寄之儀者知行取御坐候間弘前町年寄同様面  
扶持渡方被仰付候

一錢百目貳人扶持 青森總ヶ澤 升 取 之 者

右者半減渡被仰付候處依願三ヶ一引渡被仰付候

一貳人扶持 青森大工 福田久太郎

右者被下方無歩引被仰付候 同 上

〔綱〕瀧屋善五郎以下三人鹽問屋を命せらる 二十四日

〔目〕鹽御用懸御側役御小納戸役申出候今度以思召於小泊濱塩釜御取立被仰付候處此  
節に至り相應之出石、相成追々釜數相増候得者御盛産可相成に付鹽問屋被仰付候  
様尤御國無並下り鹽共御小納戸扱に被仰付候、付右問屋之外賣買之者有之候者問  
屋共、而吟味之上早速申出候様

一塩小賣之儀者問屋共に而所々見計ひ名前申出候様猶御側方取扱役、承合候様  
右之通被仰付候間向々支配頭に而早速申渡候様被仰付度儀申出之通申付之

瀧屋善五郎 奥村吉左衛門 河内屋吉郎左衛門 同 上

〔綱〕十二月、漁船出入の監督を嚴にすべし 十七日

〔目〕青森安方、舘貝兩町居鯖共並下磯久栗坂漁師南部地、泊漁に参り候趣に而出帆之

節糶米と名附沖合之米と看と取替且者賣拂致候儀是又不少有之趣申出候間御締合  
相拘候に付去る已年嚴重御差留被仰付候に付別段役に而見分之上見當次第御印札  
並漁船引上げ其段早速申出候様尚又漁師之儀者當年柄之儀に付銘々食料一日分宛  
握飯に而持參致候之様漁船出入之儀別而吟味致候之様被仰付候様 同 上

〔綱〕伊勢屋長左衛門、柿崎屋喜兵衛犯罪は大赦前あるを以て不問に付せらる 二十五日

〔目〕青森町 伊勢屋 長左衛門 柿崎屋 喜兵衛

右者長左衛門儀去冬下十川村藏助之頼合に依米三拾俵買入濱下之上喜兵衛に賣拂  
せ候旨申出殊に右同村申松堅司名久井館村彌惣儀其方頼合、寄り都合四拾俵附下  
候旨申出有之喜兵衛儀者其節都合四拾壹俵沖立之上賣拂候旨夫々申出然者其節米  
殺賣買御停止之場合右體之致方何れも不埒に付急度可被仰付候處此度被行候大赦  
以前之儀に付御慈悲を以御用捨被仰付候 同 上

〔綱〕大保十年己亥二月、町年寄佐藤理左衛門以下四人賞罰あり 十九日

〔目〕青森町年寄佐藤理左衛門、大町名主奥村吉左衛門儀常々勤向不宜最負之取扱有之  
殊町中繰合等之節不筋之誘方いたし一統歸服不致旨相聞得不届に付理左衛門儀慎  
吉左衛門儀者戸々申付之

右同村井新助、同所安方町名主錢屋五左衛門儀常々勤向實體出精相勤町中小者迄歸



細致候旨相聞得候之間其方共に而賞置候様被仰付之 同上  
〔綱〕三月、安方町火を失ふ 三日

〔目〕青森町奉行申出候今曉七ツ時頃安方町左助與申者出火に相成私共兩人組支配召連防方仕候得共風烈敷類焼武拾九軒潰家三軒明六時頃鎮火に相成申候尤怪我人者無御座候火之元御締之儀者兼而被仰付も御座候處右體出火不屈に付左助儀慎申付置候之旨申出之趣承届之 同上

〔綱〕金澤屋忠左衛門緊急用を帯ひ加賀よ出張を命せらる 七日

〔目〕小泊村川村仁兵衛儀重御用に付松前表は渡海被仰付青森金澤屋忠左衛門小泊村川村儀助儀右同様に付加州表は差登せ候に付留守中之儀手厚致世話候之様申遣之 同上

〔編者〕曰く重御用とは佗無し天保度は飢饉荐臻倉庫皆空虚し有司救恤策の施すべき無し蓋し仁兵衛以下豪商に命し買越米周旋に任せしものなるべしこれを古老に聞く忠左衛門善五郎の青森船問屋中の忠實よして船主の歡心を得しものなり而して忠左衛門は加州善五郎は大坂坂田と各自任する所ありしと云ふ

〔綱〕和田屋仁左衛門は買越米船揚取扱廣田由右衛門以下十一人は買越米船揚取扱加擔を命せらる 日 缺

〔目〕於詰座敷御椽津輕金藏申渡之覺

御元締 一 人  
勘定奉行 一 人  
青森町奉行 一 人

和田屋 仁左衛門

廣田由右衛門 村林平兵衛  
澤屋藤兵衛 奥村吉左衛門  
柿崎忠兵衛 境屋作兵衛  
能登屋勘左衛門 能登屋金左衛門  
米澤屋庄右衛門 柿崎宇兵衛  
阿保喜平司

和田屋仁左衛門此度御買越米船揚取扱被仰付五人扶持被下置猶又此場合厚差合精々差働何れも和熟之上御都合向相調候様被仰付之

廣田由左衛門阿保喜平司迄此度御買越米船揚取扱加擔被仰付由左衛門平兵衛吉左衛門藤兵衛三人扶持宛増忠兵衛より喜平司迄三人扶持宛被下置猶又此御場合厚差合精々差働何れも和熟之上御都合向相調候様被仰付之 同上

〔綱〕瀧屋貞助以下八人買越米船揚取扱を命せらる

御元締 一 人



勘定奉行	一	人
青森町奉行	一	人
瀧屋貞助		藤林源右衛門 金澤屋文助
竹屋傳次郎		鹽谷治左衛門 三國屋源左衛門
山本庄五郎		越後屋 庄兵衛

瀧屋貞助より越後屋庄兵衛迄此度御買越米船揚取扱被仰付此御場合柄厚差合精々差働御都合向相調候様被仰付之 同上

〔網〕練漁あり

〔目〕頃日快晴前濱、鯉漁有之 補略日記

〔網〕四月、瀧屋貞助以下五十八人賞賜せらる、各差あり

〔目〕青森町瀧屋善五郎並倅貞助儀平日實貞之者に而親子熟和之處より此度之御場合厚差合爲冥加御米五拾俵差上度旨相達御時合勘辨奇特之者共に付生涯之内貳人扶持宛被下置尙此上共精々差働俵數入米に相成候様申付之 朔 日

青森町年寄村井新助、佐藤理左衛門、御印紙書關源藏、町年寄見習村井新藏、佐藤準助儀此度青森居下物成急速上納被仰付候處被仰付之趣深差合取立向格別出精之處より早速皆納相成候よ付爲御賞於同所町奉行所御酒御吸物被下置之

青森博勢町名主吉屋忠兵衛儀常々實體出精相勤町内一統歸服其上御遠馬並御巡見

使御下向之節も引受け拔群骨折相勤候旨相達候間爲御賞於同所町奉行所御酒御吸物引肴二種干菓子被下置之

同所米町先名主河南屋勘六儀名主動中實貞出精相勤猶又御巡見使御下向之節火之元御締向拔群骨折相勤候旨相達候間於同所町奉行所御酒御吸物被下置之

青森町年寄見習村井新藏、佐藤準助、御印書小笠原勝彌、同見習關千藏儀去る巳年以來毎夜火之元爲御締廻方出精相勤候旨相達候之間其方共に而賞置候様被仰付之

青森町奥野屋庄藏儀御時合柄厚差合爲冥加御米八拾俵差上度旨相達奇特之者に付生涯三人扶持被下置之

同町瀧屋宇兵衛、淺野屋宇兵衛儀右同様御米五拾俵宛差上度旨相達奇特之者共に付生涯二人扶持宛被下置之

同町南了益、高屋治助儀右同様了益儀貳拾俵治助儀三拾俵差上度旨相達奇特之者共に付於同所町奉行所御酒御吸物引肴二種干菓子被下置之

別紙之者共此度青森町居下物成急速上納被仰付候處被仰付之趣深差合取立向格別出精之處より早速皆納に相成奇特之者共に付爲御賞於同所町奉行所頭書之通御下置之

覺

御酒一具 むしり肴



御印書兩人 町同心警固兩人 町同心九人

博勞町名主 吉屋忠兵衛 米町名主 近江屋 太作  
大工町名主 木下屋 傳吉 右同 久保屋 久七

青森町同心見聞役兼中村善助儀常々實貞出精相勤他所者入込諸見聞格別心を入骨折相勤候旨相違候間爲御賞御酒代鳥目五百文被下置之

青森町瀧屋善之助儀舊冬御買越米手配被仰付候節客船加州丸屋嘉左衛門の萬端頼談向差働殊に半金取延之上代錢渡方之儀も御時合相辨格別奇特之者に付爲御賞御上下被下置之 十五日

同町瀧屋利兵衛儀御買越米手配向に付格別御用辨に相成候旨相違候間爲御賞弘前織羽織地壹反被下置之

〔綱〕寺町蓮心寺子坊泰元坊火を失ふ延焼百八十戸

〔目〕蓮心寺境内番僧泰元火元にて蓮心寺角南側上之方淺利定次郎自常光寺角迄同下方蓮花寺角迄北側蓮花寺角竹内吉助自毘沙門角室屋宇兵衛迄米町蓮花寺角吹田太兵衛自上之方文珠院上隣自毘沙門角八田忠兵衛角迄同北側長内屋覺兵衛下店隣自中米町高嶋屋嘉兵衛迄大町伊藤權太郎自小濱屋永次郎迄北側小笠原勝彌自近江屋文吉迄不殘一圓に類焼翌二十二日明迄焼失に御座候本家百五拾軒借家二拾軒

奥村舊記

蓮心寺看主申出候伴僧諱玄儀境内住居爲致置候處去る二十一日之夜四ツ半時頃出火類焼數十軒恐入に候付禁足伺之通被仰付之  
青森表出火に付其方儀早速罷下跡御締合之儀見聞之上申出候様御目付松浦熊次郎の頼母自申遣之

御元締勘定奉行申出候青森町出火之節船手之者九屋嘉左衛門船乗合之内拾五人同治右衛門船乗合之内九人越後之喜左衛門船乗合之内四人大町裏通防方格別骨折候之旨相違候間後々爲懇合御酒貳斗壹樽交着代三貫文被下置候之様附紙之通申付之

以上御日記

〔綱〕五月、警火の訓令あり二日

〔目〕此節青森表用心向不宜度々出火等も有之先頃蓮心寺門前より出火之節防方人数も不足其上不働之者も有之處より大火に相成候之由相聞得不埒之至に候以來出火之節風下者格別其外何れも火元は相詰防專一に相心得候様能々申諭置候之様尤銘々に而無怠用心致候様被仰付之 同上

〔綱〕和田屋仁左衛門以下四人酒膳を賜はる八日

〔目〕青森和田屋仁左衛門、柿崎忠兵衛、奥村吉左衛門、澤屋藤兵衛右者此度御買越米取扱被仰付候處何れも御場合勘辨之上早速被仰付高上納相立奇特之者共に御座候之間外々爲廻合爲御賞頭書之通於青森町奉行所被下置之御酒御吸物引肴二種五百文積



を以被下置候様申出之通申付之 同上

〔綱〕六月、善知鳥神社以下四社に於て祈晴の自費神事を修行せり 七月より十二日に至る

〔目〕青森町奉行申出候去月より雨天續に而於四社自分物入を以爲冥加御祈禱仕度旨申出候に付先例之通私共より而聞届申候旨達之別紙左より

- 柿崎隼人
- 柿崎宮門
- 柿崎大炊
- 田川信濃

去月より雨天續に而私共於持宮職道爲冥加去る七日より十一日迄自分物入を以日和上並五穀成就御祈禱日に三度宛執行之旨申出達之 同上

〔綱〕河南屋平次以下十人酒膳を賜はる 日 缺

〔目〕別紙之者共此度御割付米上納方之儀御時合柄勘辨之上早速皆納之旨相達奇特之者共に付爲御賞頭書之通被下置之

於青森町奉行所壹人に付壹歩貳朱積を以二汗五菜御料理被下置之

- 河南屋 平次
- 近江屋 茂吉
- 豊田 太左衛門
- 右同金壹歩積を以御酒御吸物引肴二種被下置之
- 西澤屋 東七
- 右同金貳朱積を以御酒御吸物引肴二種被下置之
- 岩狹屋 金助
- 米澤屋 百次郎

村林平兵衛儀御買越米船揚取扱該仰付候處御場合厚く相辨自分難澁をも不厭四月

中上納並六月分上納と母抜群出精早速皆納相立候段格別奇特之者に付爲御賞於青森町奉行所二汗五菜御酒御吸物引肴二種御干菓子被下置之

青森町和田屋仁左衛門、柿崎忠兵衛儀御時合深相辨自分難澁をも不厭御買米割當高皆納相立奇特之者に付於青森町奉行所御酒御吸物引肴貳種御菓子被下置之  
青森町澤屋藤兵衛儀御時合深相辨自分難澁をも不厭御買越米割當高皆納相立奇特之者に付爲御賞於青森町奉行御酒御吸物引肴貳種干菓子被下置之 以上御日記

〔綱〕瀧屋善五郎黒石藩より終身五口を賜はる

〔目〕瀧屋善五郎儀近年黒石様御拂米取扱候之處此度永く五人扶持被下置候旨申出達之 同上

〔綱〕七月、漁事獎勵俵物普請役の訓令あり 二 日

〔目〕津輕出産干鮑之儀文化六巳年以來出方平均五百斤を目當に立右高以上出増之節者貳分より八分迄去戌年迄褒美被下置候處年限相濟當時長崎藏圃高相嵩候に付褒美相減一ヶ年稼目當高者是迄之通居置當亥年自丑年迄三ヶ年之間左之通被下置候積  
一千鮑五百斤以上千斤迄出高有之候得者惣引高に掛 貳分増  
一千斤以上貳千斤迄出高有之候得者同斷 三分増  
一貳千斤以上三千斤迄出高有之候者同斷 四分増  
三千斤以上出方有之候得者同斷 五分増



同斷煎海鼠之儀請負高壹萬五千斤之處出方相劣五ヶ年平均壹萬九百斤を目當に立  
天保八酉年以來壹斤に付貳分宛被下來未年限中に者候得共目當高是迄之通居置漁  
人共稼方爲勵合にも可相成に付褒美増當亥年自丑年迄三ヶ年之間左之通被下候積  
一煎海鼠壹萬九百斤出方有候得者惣引高に掛 貳分増  
一壹萬九百斤以上壹萬五千斤迄出方有之候得者同斷 三分増  
右之通同相濟申渡候間漁人共稼方出精俵物出増候様能々可申喻候

亥四月六日

田村五郎四郎  
大嶋東作  
岡田左市

〔綱〕伊丹、大山釀の賣買は嚴禁なる 四 日

〔目〕御元締勘定奉行申出候青森、鱒ヶ澤並諸湊に而酒荷上之儀前々自御停止之處當春  
米穀御買取之儀に付差障之儀有之候間前々之通荷上御停止被仰付聊之土産酒たり  
とも嚴敷御差留被仰付候様

下り酒之儀御締合差障之儀有之候之間商賣堅御差留被仰付候様萬一心違に而隱賣  
等仕候者有之候者役筋に而見當次第御取上被仰付候様申出之通申付之 御日記

〔綱〕加賀錢屋喜太郎手船沖船頭喜助以下四人酒膳を賜はる 十五日

〔目〕加州錢屋喜太郎手船沖船頭喜助儀青森間屋瀧屋善五郎客船之處加賀米四百俵積

込入津に付御買米之儀善五郎並親類理兵衛友々精々頼入候處早速承引之上當十月  
迄延貸可申旨然者從來之客船と乍申此御場合深相辨御用便致候段奇特之者に付爲  
御賞於青森町奉行所御酒御吸物御菓子被下置之

加州九屋傳四郎手船沖船頭次右衛門儀前書喜助懇意之處御時合相辨喜助に諭方宜  
敷より早速御入米に相成候之儀偏に次右衛門差働候處より之儀然者此御場合深相辨  
御爲方取計候段奇特之者に付爲御賞於青森町奉行所御酒御吸物御菓子被下置之  
越後之惣八と申もの越後米積入青森湊に入津に付問屋共より借米之儀頼談之處代  
金取延之旨申出奇特之者に付於青森町奉行所御酒御吸物御菓子被下置之

越後之喜左衛門手船上乘善吉儀越後米積入青森湊に入津に付問屋共より延借之儀  
頼談之處早速致承引陸上相成候段此御場合深相辨奇特之者に付爲御賞於青森町奉  
行所御酒御吸物御菓子被下置之 同上

〔綱〕八月、徳の字を用ゆるを禁す 日 缺

〔目〕去月十六日屋形様御隠居御願之通御養子左近將監様御家督無相違被爲蒙仰候由  
申來左近將監様御名乘順徳公と被遊御名乘候に付徳之字禁字被仰付候  
去月十九日左近將監様御名改御伺之通被爲蒙仰大隅守様と奉稱候此旨可被申觸候  
以上 以上吉村彦記

〔綱〕地震ふ八耕田山の初雪 二十二日



〔目〕今朝甲田山に初雪見ゆ堤口に米留の御代官小使浦町組手代參る新酒前造御差留米價落付四拾夕より三十八夕赤米三十貳夕餅米糯米四拾夕位鹽四拾二三夕晝四ツ過に地震 柿崎日記

〔綱〕瀧屋善五郎以下五人褒賞せらる、差あり 二十八日

〔目〕青森問屋瀧屋善五郎瀧屋善之助儀當御買入米申付候處御買上並延借差御急迫之御場合格別骨折候旨相達奇特之者共に付善五郎儀は帶刀御免申付善之助儀は年頭御目見之上帶刀御免申付之

右同瀧屋理兵衛儀前書御買入米之節瀧屋善五郎並善之助の心を合御入米之道格別差働夫々御都合に相成候旨相達奇特之者に付爲御賞御料理並御菓子被下置候

右同奥村吉左衛門、藤林源、右衛門、柿崎忠兵衛儀當御買入米手配方申付候之處御場合柄厚差合延借差働御急速之儀夫々御都合に相成格別奇特之者共に付爲御賞吉左衛門、源、右衛門儀者御酒御吸物御干菓子被下置忠兵衛は御吸物被下置之 以上御日記

〔編者〕曰く舊藩の制は平民を褒賞する帶刀御免御扶持方被下置御紋形御上下頂戴御目見得年頭御目見得は借令輕重有るもこれを賞典の第一等に置くこれに次くものは御料理御干菓子頂戴御酒御吸物御干菓子頂戴是なり最下は御酒御吸物にして柿崎舊記を案するに當年買越米を對し忠兵衛の割賦高は百六拾俵にして正錢に直し拾貫八百七拾七夕を納めたり巨額と謂はざるへからず而して其褒賞を問へば最下

級に居れりかの第一等を以て論せられし村林平兵衛瀧屋善五郎以下數十人の納米錢の皆忠兵衛の上に出るや徴せずして知るべきなり嗚呼此等の納米錢は粒々皆辛苦の乗除縉々悉く膏血の塗抹なるにも拘へらず如何に君治專制の時代なるよもせよ借令第一等の褒賞ありと雖これを以て無上の満足とせるは其情誠に悲むべきのみ但た土芥視せらるる農工商を以て一盃酒一豆羹も藩主より嘉賜せらるると云へば歡持措く能はせ亦已むを得ざるの情狀にして是を以て家を破り産を傾くも亦辞せざる所あるべし今よりこれを觀れば抑これを何と謂はんや

〔綱〕九月、公初て封に即く 四日

〔目〕侍從様御隠居被爲遊黒石様より御家督被仰付今日御入部御着城被遊候國中一方ならぬ祝候町中一統罷卸し休業 柿崎日記

〔綱〕窃盜竹松以下四人大赦に會し恩宥なる日 缺

青森町 竹松 民七

右之者共儀衣類等盜取候儀に付吟味之處相違無之旨及白狀候前書之及白狀不屈之者共に付夫々急度御刑法可被行候得共此度大赦之御慈悲を以不埒御免之上竹松へ出牢被仰付民七は揚屋出被仰付候様沙汰之通申付之

青森町 岩城屋喜左衛門



去る巳年無調法之儀有之出奔之旨に候得共大赦之以御慈悲不悖御容赦之上本所徘徊御免被仰付之

青森町 仁 次 郎

右御城附足輕石戸谷兵次郎頼を請北浮田村久太與博奕打合久太負に相成取巧候儀に付吟味之處相違無之旨申出然者博奕之儀者前々御制禁之處兵次郎頼合に寄右體手巧之上打合候段不届に付御刑法可被行候得共先頃被行候大赦以前之儀に付右御慈悲を以御用捨被仰付之間以來決而右體無之様町年寄に而急度申付候様 以上御日記

〔綱〕十一月、鯉の初漁あり 十五日

〔綱〕地震ふ 二十六日

〔目〕夜五ツ半頃地震あり終日甚しき風雪に有之 柿崎日記

〔綱〕地震ふ 二十二日

〔目〕夜九ツ時頃地震あり此日は天氣至て宜しく有之 同上

〔綱〕十二月、米價稍定まる猶未た復舊とす

〔目〕昨成年不作に付當正月自四月頃迄御國米百目餘に賣買五月自七月末頃迄上方船米積下り數艘入津八拾匁自七拾匁迄七月頃迄下り米に而小賣取續新穀九月自引續き三十四五匁自四拾匁迄此節格別之高下無し 同上

〔綱〕天保十一年庚子正月、俵物取扱長内屋覺兵衛は廩米の特貸あり 十五日

〔目〕青森町奉行申出候俵物買入方手配に付御米拜借之儀下附紙之通申上候得共此節御米賦御六ヶ敷迎も拜借之儀難申上奉存候間青森町奉行に而差略之上市中重立は割合致品能取計候様申上候處附紙仕直差上候様被仰付候に付與得評議仕候之處段々時節後に相成候上急速割合等申付候而者市中騒立候而已に而早敢取上納相立申間敷左候而者彌買入方差支に相成眼前御扱向相生候儀其儘に難被差置候間格別之御沙汰を以下附紙之通五百俵拜借被仰付候様尤上納之儀者町奉行に而引擔急度來三月中無欲目上納致候様被仰付候之様左候者町奉行御呼上之上右之趣嚴敷被仰付御取扱之儀不申出候様被仰付候様奉存候尤是迄俵物取扱長内屋覺兵衛儀近年手薄に相成候に付御免被仰付右代瀧屋善五郎金澤屋忠左衛門取扱被仰付度旨申出候得共右之儀者追而三奉行御沙汰被仰付候様附紙之通申付之 御日記

〔綱〕滞納租税は速に結納すへし質屋税は免除さる 晦 日

〔目〕青森町奉行申出候同町屋敷御物成諸工諸家業御役錢共是迄滞分急速取立上納被仰付左に申上候

一屋敷御物成之儀巳年以來違作續他散死絶之者も有之勿論小者共者助命方も漸之體故委細昨年も取調申上候通取束上納出來兼重立中家自二ヶ年分三ヶ年分取立漸都合壹ヶ年分奉納候儀に付巳年以來成年迄不納分者極究之者共計に而迎も



取立相成不申候間成年迄不納分者御免被仰付度

点羽此ヶ條御收納之儀に付御免之儀者難被仰付何れ精々論立上納相立候様被仰付候様

一 去亥年御物成之儀者舊冬申上候通取立之分者當所御藏に致上納殘者極究之者共に而不納に御座候得共何れ嚴重論立上納仕度

点羽舊冬も嚴重被仰付候通早速上納相立皆濟注進申出候様被仰付候様

一 諸工諸家業御役錢之儀去已年以來一統無商賣同様違作續之處自取立方相成兼夫自近年凶作續他散並死絶數多に相成當感罷在去申年壹貫九百四拾目上納去亥年三貫目上納又々嚴重被仰付精々取立候迄壹貫三拾文目此度上納仕候之間殘不納之分御免被仰付度

点羽申出之趣難被仰付他散並死絶之者有之候者家業御取上可被仰付候間人別書分申出候様其外之儀者本役上納相立候様此度致上納候壹貫百三拾目上納方御金奉行受取手形勘定奉行所へ差出引入受取候様

一 去酉年七月在町之者共は諸役出錢之内三ヶ一五ヶ年中御用捨被仰付尙是迄相滞候諸上納錢十ヶ年割合上納被仰付も御座候に付其砌夫々申付候共前書段々申上候通近年違作續入船交易も無御座寢喰同様重立中家も潰候體に御座候者亥年迄諸上納不納之分者不殘御免被仰付度

点羽去酉年七月諸御役錢五ヶ年之内三ヶ一御免被仰付候得共翌戌閏四月以前之通本役丸上納致候之様被仰付候様申出之趣難被仰付奉存候

一 質坐家業御役錢之儀者極究與申者に無御座候得共酉年七月質品返方被仰付質座一統相止居候間御役錢酉年以來御免被仰付度

点羽難默止相聞候間申出之通御役錢御免被仰付候様尤質坐開店次第御役錢無欲目上納候様

右之趣被仰付候様附紙之通申付之 同上  
[綱]二月、又々豪商履歷書を上る 日 缺

一 御用達拾人扶持 松代忠 左衛門

一 御元方御用達帶刀御免五拾俵六人扶持 村林平 兵衛

一 青森町年寄格諸郷役御免 上林屋 兵右衛門

一年頭御目見三人扶持 長内屋 覺兵衛

一年頭御目見六人扶持 澤屋 藤兵衛

一年頭御目見帶刀御免 南 了 益

一年頭御目見 安達 勇三

一年頭御目見六人扶持 奥村吉 左衛門

一年頭御目見 錢屋五 左衛門

一年頭御目見 藤林屋 源右衛門



- 一年頭御目見 二人扶持 帶刀御免 瀧屋善五郎
- 一年頭御目見 吹田次五兵衛
- 一年頭御目見 三人扶持 奥野屋庄藏
- 一年頭御目見 五人扶持 和田屋仁左衛門
- 一年頭御目見 三人扶持 吉屋忠兵衛
- 一年頭御目見 小嶋庄三郎
- 一年頭御目見 二人扶持 淺野屋宇兵衛
- 一年頭御目見 近江屋太作
- 一年頭御目見 河南屋勘六
- 一年頭御目見 覺兵衛 長内屋榮太郎
- 一年頭御目見 善五郎 河南屋平次
- 御通懸御目見 二人扶持 瀧屋善之助
- 善五郎 寺田屋三藏
- 帶刀御免 了益 南了淳
- 二人扶持 瀧屋宇兵衛
- 一諸郷役御免 二人扶持 高屋治助
- 一年頭御目見 三人扶持 柿崎忠兵衛

〔綱〕船問屋營業者は弘前に召喚せらる 二十三日

〔目〕勘定奉行申出候昨年兩濱にて佗邦船手自御借入米之分何れも御印紙相渡置候に付來月初旬自積取船着岸次第通相渡可申候得共御賦表過分之不足に付逆も渡方之御都合に至兼候間船手渡方取延之儀評議仕候所右之儀者御勝手方に而も是迄段々相盡候儀に而此上申向方無御坐候左候逆其儘被差置候者追々船手之者共直に弘前に罷上り種々御取扱も相生可申候間難申上筋に御座候得共兩濱問屋とも御呼上相成り私共出席之上御手前様方にて一應船手渡方御取延之儀御直談被成候様仕度奉存候則問屋名前書和添差上候間來二十二日迄に問屋共直に罷上候様左候は、右御呼上之儀兩濱町奉行に被仰付候様申出之通申付之 御日記

〔綱〕三月、青森常燈點火は怠たる勿れ 八日

〔目〕青森町奉行同湊目付申出候青森常燈相燈不申旨御僉議被仰付答書を以て申出之趣御聞届被仰付候様尤此末一際嚴重申付決而疎略無之様大目付に被仰付候様附紙之通申付之 同上

〔綱〕輸出入品臨檢は嚴重にすべし 十四日

〔目〕勘定奉行申出候近來諸湊御締方不宜御差留品隱荷上荷積致候旨他邦入酒御差留之節名目相違に而船上致其外絹布木綿類共名目相替御役錢相掠候趣も粗相聞得候殊に味噌醬油津出之儀三樽四樽乃至十樽自時々小口津出致樽數取隠姦計手段も有



之由尙又年々秋末に至り船々乘廻難相成其湊に於て園船に致翌年積返之節並當坐預荷物與號し勤番目付見届之上船上問屋藏入致重而便船次第積返之節荷物繰替等種々姦計有之由相聞得甚以不埒之至に候近年出入品不足與乍申右様之處白御役減に相成候儀も可有之必竟湊方諸役人吟味方不行届之處白右御締崩にも相成候間湊目付初勤番目付別段締役に精々吟味方心を用不締之儀無之様殿重被仰付候様尙當年之儀者酒荷上並津出之儀堅く御差留被仰付候間土産酒と號し荷上之儀も決而無之様被仰付候様右之趣不時見聞方被仰付度萬々一不締之儀於有之者後々爲御締無御用捨急度被仰付候様申出之通申付之 同上

綱類焼極貧者死亡出奔地租滞納は免除なる 七日

目青森町死絶他散之屋敷御物成上納之手段無御座候に付御檢地被仰付度儀者去秋申出候得共時節後に相成見分見合置候處此節に到り右之分迎も上納難相成候間御免被仰付度儀並去夏同所焼失之内極究に而家作等も不致罷有候分者壹ヶ年御物成御免被仰付度儀共私共迄申出與得評議仕候處死絶他散之分者勿論焼失之内極究之分共御免被仰付度儀五七軒之焼失與違同所之如大火之儀者弘前町も町役年季付之上御免被仰付候御例も御座候而申出之趣不得止事相聞得申候間格別之御沙汰を以右之分御免被仰付候附紙之通申付之 同上

綱五月地震ふ 七日

目夜九ツ時頃地震有之 梅崎日記

綱長内屋覺兵衛は俵物取扱役を免じ金澤忠左衛門命せらる 十一日

目青森町奉行申出候長崎俵物取扱長内屋覺兵衛竹野屋權四郎勤中公儀御預金引負分並同人引負分共千九百拾七兩餘有之此上身上潰に相成返納之手段無之不止得事御取扱に相成大金之儀に付跡問屋金澤屋忠左衛門引受之儀是又御受難相成旨然者公邊重御扱向等相生候而者不輕儀に付町年寄願出之儀者内点羽之通被仰付候様右点羽沙汰左に

一金澤屋忠左衛門俵物問屋覺兵衛跡御用相勤候に付拜借米五百俵之儀者御賦内之儀に付忠左衛門に拜借之儀者逆も難被仰付候當三月中には無問違上納可仕筈御座候處彼是遲滞に及今更御扱向等閑之取扱に御座候殊に御賦缺に相成候間嚴重上納向被仰付候様

一竹野屋權四郎長内屋覺兵衛引負分忠左衛門引受之儀之御請難相成旨難歇止相聞得共外に跡問屋可勤者無之候間是又無據奉存候に付御役錢高被下置候之間如何様共取扱御扱向不申出候様押而被仰付候様

一浦貸返納之儀殿重被仰付度旨申出權四郎儀者別紙之人別書之通向々殿敷返納致候之様被仰付候様覺兵衛人別書分申出之所に而可被仰付候間早速取調申出候様



一船手交易品賣人共自はね錢取立方並諸口錢壹步増之儀旅人氣向不宜御國元に相  
拘り難仰付奉存候乍去覺兵衛身上潰に及過分之引負逆も返納之見居無之旨公邊  
御扱向等相生候而者不輕儀に付御場合柄には御座候得共同所湊口出入御役錢之  
内年々一割宛當于年自十五ヶ年之内別段差除金澤屋忠左衛門に御預之上引負高  
之内に御差留返納被仰付候様左候者同所町奉行所に而引擔跡問屋相勤候忠左衛  
門惣引受之上此末御扱向不申出候様被仰付候様

一煎海鼠並白干鮑御役錢御免之儀者難被仰付當年自拾五ヶ年之内右兩品御役錢別  
段差除前同斷忠左衛門に御預之上引負高に御差向被仰付候様尙又跡問屋惣引受  
之儀是又前書之通忠左衛門に被仰付候様尙覺兵衛儀不少引負重に相成殊に當二  
月御貸付之五百兩是又爲繰合取潰候段公邊に對し不届之者に付此度御繰合可申  
上奉存候得共跡問屋讓合之儀未公邊御届相濟不申候間御締向之義者追而沙汰可  
申上旨附紙之通申付之 御日記

〔綱〕公參觀として弘前を發駕せらる 十二日

〔目〕屋形様江戸御發駕に付町中休日 榊崎日記

〔綱〕七月、蜷貝町火を失ふ 八日

〔目〕昨八日暮六ッ時半過頃蜷貝町福松方出火に付私共並名主共早速驅付制道仕候得共

風合不宜類燒二十五軒に相成奉恐入候尤人馬怪我無御座四ッ時前鎮火に相成申候  
隨而始末詮議仕候處蚊やり焚付候處風烈敷飛火に而失火に及候旨委細別紙之通同  
町名主自申出候吟味仕候處相違無御座候右に付火元福松儀寺落之上相慎罷有候旨  
共申出候間別紙相添此段御届申上候以上 村井舊記

〔綱〕長内屋覺兵衛家屋組織材輸出は特許さる 十九日

〔目〕青森町奉行申出候長内屋覺兵衛儀拜借米上納難相成に付家財並切組家佗拂之上  
右代金を以上納仕度候間湊口出御役錢御免被仰付度旨願出候得共御役御免之儀者  
難仰付尙切組家津出之儀者前々御差留候得共段々申出不得止事相聞得候間山奉  
行申出之通切組家津出之儀者御差留可申上部に候得共此度限津出被仰付候様左候  
得者木品面尺相改御役上納いたし候様武具之儀者御停止品に付佗拂難被仰付候尤  
惣荷造之處に而荒物御役錢目形拾貫目に付御役錢拾文目積を以上納致候之様右之  
趣青森湊目付並勤番目付被仰付之儀者大目付に被仰付候様別段役に者私共に而可  
申付之旨附紙之通申付之 御日記

〔綱〕武田屋定右衛門製線香營業を許さる輸入線香を禁す 二十八日

〔目〕勘定奉行申出候青森町武田屋定右衛門與申者大坂表に而線香製法傳授いたし候  
に付線香家業被仰付追々近國松前邊にも賣弘方被仰付度旨申出候得共定右衛門儀  
者先達而隱家業致候之旨線香師小坂屋保次郎自申出付諸道具引上之上御糺被仰



付候然處昨年御國産方へ願書差出爲試手本線香差上候節諸道具等も少し出來候旨申出候に付保次郎呼上詮議之所同人儀者先に線香師引負錢拾四貫目餘引受類家業不差出候様一手家業被仰付候間外方へ被仰付候之儀者御免被仰付度旨委細申出候右双方申出之趣を以與得算考仕候所保次郎引受錢拾四貫目餘已年以來不納之分は皆捨被仰付其後二百目上納に而者拾貫目餘之高に而五拾年無之候得者皆納相立不申定右衛門自申出には右年賦錢半分通引受申候間家業被仰付度旨申出に付精々詮議仕候處定右衛門儀者線香製法至極巧者之者に而下り線香同様之旨尤も青森町線香屋御座候得者入線香吟味方も行届候間爲御試願之通被仰付候様尤も保次郎引負錢半分通引請之儀も是迄姿より而者皆捨同様之儀に付右年賦錢不殘皆捨被仰付候様左候者爲御役錢壹軒に付壹々年百目つゝ年々無欲双方自上納いたし候様被仰付候様

〔綱〕八月、絹布を服けるを嚴禁候  
〔目〕口達

近來在町浦々之者共奢侈増長致分限不相應之美服等いたし候に付以來家内之者に

至迄絹類着可用可爲無用旨昨年被仰付候處兎角相緩心得違之者有之旨相聞得被仰出之間もなく及違反候義不悻之至に候間以來支配頭に而夫々嚴重に相糺心得違之者無之様申付候様被仰付候尤右に反候之者於有之者支配頭之可爲越度候之間其旨差心得急度可被申付候

〔綱〕大風 二十九日夜

〔目〕青森町奉行申出候青森湊潤懸船越後之梅松丸九人乗中物醬油味噌米積船自松前之四郎兵衛四人乗中物大根積船迄都合三艘去月二十九日之夜時化に而破船仕候得とも何れも乗合別條無之陸上いたし尙又濱仕舞之處より而可申上旨共申出之趣御聞届被仰付候様附紙之通申付之

青森湊目付申出候去月二十九日之夜大風波高に而越後梅松丸破船之節御手船豊久丸の當合候處豊久丸垣廻並外袖少々痛損に相成候旨御聞届被仰付候様尙又御手船役方よりも申出之通御手入被仰付候様附紙之通申付之 以上十月十日御日記

〔綱〕十一月、廢宅地の臨檢あり

〔目〕青森町奉行申出候同町死絶佗散之明屋敷昨年燒失家之内極究に而家取建等も難相成明家敷之分御檢地之上御物成御免被仰付度旨不得止事相聞得候間格段之御沙汰を以申出之通御檢地被仰付候様左候者浦町組御檢地人于今罷上不申候に付見分方之儀可申付與奉存候間同人手之立合目付に而直に立合致し候様被仰付候様御日記



御檢地衆昨日御下り惣町中一日にて相濟 柿崎日記

〔綱〕竊盜濱町左兵衛の子福松忠左衛門手代密輸出米松太郎以下三人の處刑あり

〔目〕於青森町端御徒目付申渡之覺

揚屋入之内

青森濱町左兵衛子の 福 松

我儀去亥年盗いたし入牢被仰付同十二月出牢之上途返被仰付候之處立戻り親方町西屋三太郎東長町米屋新八其外土手町橋近所之家右三ヶ所へ忍入衣類品々盗取賣拂又者宿傳吉方の差置候旨及白狀不屈之者に付鞭刑三鞭被行弘前御搦之上居町徘徊是迄之通被仰付之

於青森町端御徒目付申渡之覺

青森船問屋金澤屋忠左衛門濱手代

繩付之上五軒組合見繼之者

松 太 郎

我儀去月十三日越後之仁太郎船に酒五拾樽隠津出之旨相聞得吟味之處船頭仁太郎並濱町米吉頼合に寄世話料金壹兩申受隠積相談いたし候儀相違無之旨及白狀然者隠津出御緋向之儀前々嚴敷被仰付方も有之處右體荷擔之上世話料等申受候儀甚以不屈之者に付鞭刑拾貳鞭被行青森町拂被仰付之

繩付之上五軒組合見繼之者

濱丁持 三 郎 次

我儀去月十三日越後之仁太郎船に酒五拾樽隠津出之旨相聞得吟味之處船頭頼合に

寄宿元は酒預り置候得共手段は相加り不申旨申出候得共申譯難相立儀者隠津出御緋向之儀者前々嚴重被仰付方も有之處右體不少酒預り置候儀全隠津出之宿に無相違相聞得甚以不屈之者に付鞭刑拾貳鞭被行青森町拂被仰付之

濱丁持三郎次五軒組合之者共

右者其方共五軒組合三郎次越後之船頭仁太郎頼合に寄酒五拾樽相預去月十三日隠積いたし候旨申出有之然者全隠津出之宿に相違無之必竟前々被仰付之趣等閑に差心得友々不吟味之處自右體有之不埒に付爲過料錢五貫四百文日數三十日之内急度上納いたし候之様 以上御日記

〔綱〕越後の仁太郎舟は入港を禁せらる 同上

〔目〕越後之仁太郎船御領法を犯し隠津出手段取巧候儀不屈に付以來御當領入津御差留被仰付

濱町末吉儀見當次第召捕早速申出不取遊候 同上

〔綱〕十二月、俵物問屋金澤屋忠左衛門より粟米の特貸あり 十二日

〔目〕青森町奉行申出候俵物問屋金澤屋忠左衛門儀先問屋扱中引負高不少右之所は濠御役錢壹割並俵物御役錢共拾五ヶ年内御差向被仰付候得共三ヶ一にも足不申此末買續兼決算可仕様無御座候間御收納差續御印御米貳千俵拜借被仰付度旨申出然者御米金賦至極御六ヶ敷御場合拜借被仰付候様難申上奉存候得共自然公邊御扱向相



生候而者御太切儀に付多少拜借可被仰付哉來丑年四月中無欲目上納之儀同所町奉行引受証札相添申出之趣難默止相聞得候間格別之御沙汰を以て願高之内御印付無五百俵拜借被仰付候様上納之儀者來四月五月兩月分同所諸渡米引受之上忠左兵衛は同所御藏奉行より手形向次第急度無差支相渡候様右之趣同所町奉行引擔之上御扱向不申出急度上納相立候様被仰付候様附紙之通申付之 同上

〔綱〕天保十二年辛丑閏正月、諸職工稅滯納は三ヶ一を特免せらる 二 日

〔目〕青森町奉行申出候同所諸工諸家業御役錢滯納拾四貫目五百壹文日三分壹厘貳拾ヶ年賦上納被仰付度旨申出元來滯納高貳拾壹貫百六拾六文目七分五厘之分三ヶ一上納相立其餘殘分年賦上納申付候様昨年私共より而町奉行は嚴重申通候處滯納高之内貳貫六百六拾一文日四分貳厘上納相立又々願出然者多年之滯納御場合柄申出之趣逆も難被仰付候何れ滯納高之内此節三ヶ一相當上納相立候様右納濟申出之處に而殘分年賦上納向被仰付候様右之趣町奉行所は嚴重被仰付候様猶内点羽之通桶屋安方町與八百大工倉藏迄三拾壹軒申出之通御印札御引上之上御役錢不納分皆拾被仰付候様指物師濱町善兵衛より左官勘作迄八拾軒御印札紛失之者過料上納御定も有之候間申出之趣難被仰付筋御座候得共願出之趣難默止相聞候間此度限願出之通被仰付候様附紙之通申付之 同上

〔綱〕醬油の價騰る 二十一日

〔目〕町奉行青森町奉行申出候弘前並青森醬油屋共申出に、直段向引合兼候間直増被仰付度申出然者舊冬直段定被仰付候節本入諸懸割合之上被仰付候儀に付申出之趣難被仰付部より御座候得共段々申出之趣無餘儀相聞得候間當年限弘前之儀者諸白壹升貳匁並壹升壹匁八分青森表之儀者多分他邦賣出之儀より付當年限壹升貳文目六分直段被仰付候様左候者不實之商賣無之様被仰付候様 同上

〔綱〕二月、輸出入物品必ず上裁を經由へべきの嚴達あり 十八日

〔目〕勘定奉行申出候諸湊に而御印物者不及申願立之上出入品共御濟口無之内其場所により問屋共申出に隨ひ内々聞届積出荷上等有之趣粗相聞得御締合に相拘候間決而右體之儀無之様改而被仰付候様申出之通申付之 同上

〔綱〕三月、會津製蠟の外買ふを禁むるの幕令あり 朔日

〔目〕公義御書付之寫左之通

近來會津蠟出方少候に付途吟味之處拔蠟有之由相聞得候右體之儀有之間敷候向後會津隣國に而右拔蠟買受不致候様可被申付候  
右之通會津隣國御料者御代官私領者領主地頭より可被相觸候此以後拔蠟買受候者後日相聞得候者吟味之上急度曲事可申付候  
右之通寶曆二年享和三年相觸置候處其後年歴も相立候に付近來右觸書之趣等閑に相心得候向も有之哉相聞得候間彌先年相觸候趣堅可相守候若此已後等閑成風聞相



聞に於而者吟味之上急度可申付候  
右之趣會津隣國御領私領寺社領共不洩候様可被相觸候

閏 正 月

〔綱〕松前候本陣は村林平兵衛之轉命なる 十一日

〔目〕青森町奉行申出候松前志摩守様御入部に付當月五日江戸表御發駕之由隨而是迄御本陣相勤候八田屋六左衛門極難之付家屋敷賣拂迎も御本陣相勤難旨申出候間下米町村林平兵衛方は御本陣申付候之旨達之 御日記

〔編者曰く余これを地方老人に聞く八田世襲通稱は六左衛門にして寛永の頃より既に堤町を豪占し造酒を以て業とし博勞町にも亦支店を置く今の新博勞町北角より博勞町三町を擧げ皆其所有に係ると云ふ寛文の頃冥加の爲めとて自費を以て數回堤大橋を架成せしこともあり以て徵すべし或は其幾世の主人なるを知らず父母の葬式に撒錢花籠を飾ひ乞人に施惠せり堤より菩提寺常光寺に至るの途次其幾何百貫文を撒するも知るべからずと蓋し其心たる追善修行に出るなるべきも一方よりこれを觀れば驕奢浪費を極むと評せざるべからず故に時の諺に曰く堤川の水は涸るゝあるも八田の金は盡くること無かるべしと然りと雖古人不言乎創業の難きは天に登るよりも難く子孫のこれを失墜するや毛を燎よりも易しと試に思へ八田祖先の巨萬を致せしも妖術ありて以て然かすに非を必ずや塵を重ね毛を積み拮据艱

苦の末漸く以て其基礎を成立し金は金を呼ぶの結果に出でしものなるべし等倫其の比すべきに非ざるも夏商二聖の子孫に奢侈淫沃の榮紂あり八田破産の原因は得て詳よもべからざるも撒錢花籠の以て徵すれば瓊宮瑤臺と何ぞ撰はん今や極貧に陥り造酒家業を他人に典賣し其大厦巨屋倉庫を擧げてこれを販くに至りては亦これを八田の榮紂と謂はざるべからず或は云ふ後來吹田次五兵衛の衰へしも酷た八田と類を同ふすと其然るや否や然りと雖豪富の子孫たるもの宜く二家を以て殷鑑とみさいるべからず警懼は幸に以て其禍を免かるべし

〔綱〕濱町權兵衛巳之助安方町清助は鞭刑に處せらる 十三日

〔目〕於青森町端御徒目付申渡之覺

他出差留之上親類五軒組合見繼之者とも

青森濱町 權 兵 衛  
右同 巳 之 助  
安方町 清 助

我共儀金澤屋忠左衛門濱手代松太郎儀酒隠し積致手段吟味中五軒組合之者に預置候之處去十一月二十五日見繼之節取辻候儀に付吟味之處委細申出之趣も有之候得共必竟見繼方等閑之處 自右體取辻不届之者共は付鞭刑三鞭宛被行居町徘徊是迄之通

〔綱〕四月、公江戸より歸城せらる 十五日



〔目〕今日屋形様御着城に付町中休業 柿崎日記  
〔綱〕瘧患猖獗  
〔目〕先月より瘧病流行し此節何れの内にも一人二人と床に就ざるは無之何れも大難  
義致候 同上

〔綱〕五月、出奔死亡類焼極究者の廢宅地租は又々五ヶ年の加免となる 十八日

〔目〕成田嘉助申出候青森町去亥年類焼之内極究に而居宅取建兼候者並近年不熟作に而死絶他散之明屋敷共年々是迄御檢地被仰付居候分當年より十ヶ年之間御檢地無に而御物成御免被仰付度儀並町々野原同様之場所多見入不宜御外聞にも相成候得共早速家作之見居も無御座候間御手當筋被下置町並相立候様被仰付度旨共申出之趣與得評議仕候處同所之儀者場所柄に付永々野原同様にも相成間敷弘前町々に而も大火之分者年季付之上町並諸役御免被仰付候御例御座候間格段之御沙汰を以當年より五ヶ年之間前書明屋敷之分御物成御免被仰付候様左候は、昨年御檢地仕上方之成小役米拾九石四斗四合、御座候間當秋自年限中同町免目錄内高に而引落申出候様共被仰付候様御手當筋之儀者御時合柄に付難被仰付奉存候何れ町奉行に而町中成立候様仕向相成此上御取扱向決而不申出候様附紙之通申付之 御日記  
〔綱〕地震 十八日  
〔目〕暮六ツ時頃差したる事に無之も地震にて皆々外に、げ致候 柿崎日記

〔綱〕七月、船間屋稅滯納者石戸谷勘太郎以下三人戸を命せらる 朔日

〔目〕勘定奉行申出候青森船間屋石戸谷勘太郎、中村屋傳吉、小濱屋作兵衛儀湊出入御役錢數年來滯に付昨年も段々上納向論立之處不納分取疊不殘上納之手段無之旨申出之趣難默止相聞得候之間滯高之内三ヶ一上納相立せ其餘殘分は年賦申付候様私共に而同所町奉行に申通候得共一切上納相立不申不埒之者に付同所町年寄並取扱之者呼上申付候處年賦上納向申出候然者多年御用錢上納遲滯之上外、不鈞合之年賦願等申出候段必竟取扱之者等閑之處より御取扱申出重々不埒、付爲御締合當人家財封印之上取扱之者共急度御沙汰可申付候得共此度格段御憐愍を以左之通

- 三十日戸 石戸谷勘太郎
- 二十日戸 中村屋傳吉
- 十日戸 小濱屋治郎兵衛
- 十五日慎 取扱之者

右之通慎地戸被仰付年賦上納向申出之通被仰付候様左候者何れも成立之處に而年割相減上納致候様右之趣青森町奉行に被仰付候様向後右體御扱向申出候者於有之者當人者勿論取扱之者迄無御用捨急度被仰付候間心得違無之様被仰付候様申出之通申付之 御日記

〔綱〕農工商は諸士に失禮有るべからずの嚴達あり 十日



〔目〕 覺

近來町方之者並九浦之者共御家中之諸士に對慮外不法之事共問々有之候旨相聞  
得不悖之至に候前々被仰出候通惣町之者勿論之儀其外御用相達候者並御扶持被下  
置候諸職人共に至る迄御家中歴々者共不及申諸士に對慮外致候者有之候者詮議之  
上急度可申付候若法外之仕方於有之者致討捨不苦旨申渡置候間此旨堅相守諸事慫  
慫に候様

不論自佗帶刀之輩に失禮無之様相心得候様尤御家中歴々行逢候節者冠笠を脱ぎ五  
六間先自立止り罷在凡而諸士に行逢候者道脇を往來致不法無之様向後子弟之者並  
召使之小者共に至る迄相心得候様若此上不敬不法之者於有之者當人不及申其主  
人父兄之者迄殿敷御糺可被仰付此旨被申置候以上 同上

〔綱〕岩木山登賽者多し 二十五日より

〔目〕十七日は二十十日にてありしも無難にて上々天氣なり頃日は米直段深澤出米上  
にて二十夕黒石米十八夕自十六七夕迄豊年と取究候故に岩木山參詣は當年柄夥敷  
有之候 柿崎日記

〔綱〕八月、杉畑の杉伐採は芝居座の特許とある 二十八日

〔目〕青森町奉行申出候芝居舞臺再建爲助情同町仕立杉林之内自杉伐取願書面之通申  
出候間山奉行申出之通町役吟味之上見分書に丸星附之分伐取被仰付候様伐取濟之

處に而山中地拂兩御極印打入被仰付候様猶代小杉植付根付之處に而山方役人見分  
受候様被仰付候様 同上

〔綱〕九月、賭博具の商賣を嚴禁 五日

〔目〕博奕賭之儀前々御制禁に有之候處于今不相止心得違之者も有之趣相聞不屈之至  
に候以來見當次第擲捕候之様改而嚴重申付置候間心得違之者無之様其品に寄り五  
軒組合者勿論町役之者迄急度被仰付候間別而心を入吟味を加へ不締之儀無之様  
博奕御制禁之上はかるた賽雙六紙之類商賣いたし申間敷候之處在町浦々に而隱商  
賣之者有之旨不悖之至に候間此節右體之品持有之分早速町役に差出候様向後右  
體之品買致候は於ては當人は勿論町役之者共迄嚴重被仰付候間友々吟味を加へ  
右體之義無之様尤町之者共自差出候かるた之類町役に而者町年寄に差出候様町年  
寄に而者取潰候様

尙々かるた並賽雙六紙之類船揚並御關所入共殿敷御差留被仰付候尤名目を偽り砥  
石又者仕入墨杯と申紛し船揚等いたし候之旨相聞得候間疑敷分ハ一々切解嚴重相  
改堅入れ不申候様 村井舊記

〔編者〕曰く余聞く青森賭博は天保年間を最も甚しと謂はざるべからむ寺社縁日馬市  
等人々蟬集するに當りてハ晝夜を論せず道側に露坐し公然と勝負を事とせしもの  
也舊藩にありて由來賭博は嚴禁せしなれども往々默許に附せし如きの舉措は必ず



しも無しと謂ふべからず其流弊こゝに至れる所以からずや況んや當時青森町同心の手先なる者所謂目明役に長藏あるもの有り身の探偵の職なるも拘らる却てこれを利用し賄賂金銭を貪りこれを役錢と號する如きは太甚しき者と謂はざるべからず博徒よりしてこれを觀れば我輩は既ニ納税の勝負ならば何ぞ白日路傍に憚らん縁日も可なり祭禮も可なり一に加入徒多からざるをこれ恐ると公言せざるのみなるが如し蓋此等の事情に因り本條は痛く制裁を加へしものなるべく長藏は既に已に其職を剝奪せられたり爾後久しく賭博に關せしは舊記に見る少し眞ニ青森人の僥倖と謂はざるべからず

〔網〕地震 二十二日

〔目〕夜九ツ時頃地震此日朝は晴れ晝四ツ頃より大雨西風強し 榊崎日記

〔網〕十一月、鱒の初漁あり 八日

〔網〕地震 二十一日

〔目〕朝五ツ時過地震あり山瀬風にて終日吹雪大荒れ 榊崎日記

〔網〕米鹽價甚賤し

〔目〕本年は九月頃より新米拾八匁位大豆二十一匁小豆拾七八匁下落望人なき方十二月に至り米直段五分口引上米町口は拾六匁堤町口は拾六匁五分 同上

〔網〕天保十三年壬寅正月、制服定まる 十一日

〔目〕御制服御口達町内々申渡さる町同心山田嘉吉殿御出席 同上

〔網〕二月、正覺寺托鉢巡街 十日

〔目〕青森正覺寺申出候當寺本堂並觀音堂鎮守堂零落に付普請爲助情當二月自三ヶ年之間青森町中托鉢執行之儀申出之趣別に差障之筋相見得不申候間申出之通被仰付候様申出之通申付之 御日記

〔網〕三月、奥村吉左衛門拾人口を賜ひ用達を命せらる 七日

〔目〕青森町奉行申出候當町奥村吉左衛門儀拾人扶持被下置御用達被仰付候去七日申渡相濟勘定奉行へ差遣旨達之 同上

〔網〕梅華 さく 十三日

〔目〕此の日朝より快晴木藏脇の梅の花咲く 榊崎日記

〔編者曰く〕地方年々弘前は陰曆三月二十五日前後菅公祭には梅花を觀るも青森はこれに後るゝ概して十日はかり四月初旬を例とせり本年三月十三日を以て初めて開くとすれば例年に比し殆んど二十日内外を早ふせり特に日記に掲げし所以にあらずや蓋當時の老人過陽にして其時季を誤るは或は秋成如何を憂慮せるの筆あるべし果して夏季より彌不順にして僅か凶歉に陥らざるも年末本日記には出米一切



なし小賣米差支との結果を告ぐるに至れり

〔綱〕輸出入を嚴にし出張吏員を減ゆるの建議成る 十五日

〔目〕勘定奉行申出候湊口御締合之儀者諸役人計に而何程嚴重致候而も問屋船小宿之者に支配頭之嚴重申付萬一隠荷上荷積等有之節者其船扱候問屋者家業御引上外問屋者不吟味に相當候に付連坐之罰可被仰付候間友々吟味此末湊口御締合堅相守決而不埒之儀無之様町奉行に而問屋共の嚴重申渡連印証札差出候様被仰付候者諸役人多居方不被仰付候而も御締合相立可申與奉存候左も無御座候而者役人計多人數居置候而も矢張姦計不得止事可有之奉存候

船手の諸物荷上荷積いたし候節問屋並仲買手を放れ商人共船手の直懸合論買いたし候處より諸色高直にも相當候趣相聞得不埒に付以來決而右體之儀不致候様湊口御締合之儀者隨一間屋共に有之儀に付問屋共之内重立に而諸事行渡實貞ある人物之者兩人宛町奉行の見立頭取差立何儀も右頭取之者自外問屋とも取締致せ候様仕度儀に御座候間右之趣町奉行に被仰付候様申出之通申付之 以上御日記

〔綱〕四月、公參觀として弘前を發駕せらる 十三日

〔目〕屋形様參觀御交代として御發駕被遊候町中休業 柿崎日記

〔綱〕鰯漁多し 同上

〔綱〕滞納租税は十ヶ年賦とある

〔目〕青森町奉行申出候同町中西兩年分滞勘此節早速差出候之様被仰付候所御巡見使御用並御通行等に而町中之者共莫大出銀致其上小者共死絶他散等に而取立も不成候處口數年滞勘に相成候處一昨年自段々取究候得共前書兩年之儀者逆も取立相成り難く候間貳拾年賦上納被仰付度旨申出與得評議仕候處段々申出之趣相違無御座候此上押而論立方被仰付候而も上納之見居無御座候左候得者御扱向而已勘定も取究不申候間浦々滞納之分年賦被仰付候御振合を以當寅年自來亥年迄拾ヶ年割上納被仰付候様左候者右兩年勘定者御印手形を以相通候様並年賦米之儀者年々免目錄米都合之次に相立年々無缺目上納相立候様附紙之通申付之 御日記

〔綱〕地震一日兩回 十七日

〔目〕終日曇天あり晝四ツ時過地震九ツ時頃も又々地震 柿崎日記

〔綱〕六月、瘧患多し

〔目〕天氣不正町在共當年も春立より又々瘧病流行 同上

〔綱〕重罪柳町庄吉子丑藏人相書を以て嚴索せらる

〔目〕青森柳町庄吉子丑藏與申者同所新町酉藏を打擲致酉藏相果候旨相聞得候之間召捕方申付候處出奔之旨申出に付御郡御詮議被仰付右人相書左之通

一年齡貳拾六歲

一せい五尺位

一月代常體 但病後に付髪ざん切



- 一眼常より少し光る方
- 一齒並揃候方
- 一髭なし
- 一口鼻唇常體
- 一色白き方
- 一言舌常體

其節之衣類

- 一藍茶替り立縞半てん裏寸甫
- 一縹袴地白菊模様
- 一帯白小辨慶縞棧尺帶
- 一股引紺單
- 一手拭染分

右之通之者見當次第擗捕其段支配頭申出候様若隱置後日於相顯者無御用捨御糺明可被仰付候此旨可被申觸候

〔綱〕蓮華寺に蛙の合戦あり 日 缺

〔目〕番神堂周圍池の蛙と門前蓮池の蛙と大合戦あり其相叫ぶの聲は町中に響き渡る程にして來り觀る者甚夥し兩池より戦に先ち壹疋の大蛙出て、大聲に叫ぶ乃ち數十群の蛙隊出て來る門内の廣場にて攪み合噛み合ふ良久し其戦の盛あるに方りては人の之れを引き分けんとするも得べからざるなり戦の闌なるに及ぶや大蛙亦大に叫ぶこゝに於乎双方相引となる累々たる屍は互にこれを啣み收め去り一個を留めず翌日又此の如し此の如くする大凡一周間計にして頃其跡を歛めて寂然たり人々皆兵亂の前兆と謂へり 柏原筆記及住僧角田に質問する如此

〔綱〕七月、倭武多無し米價頓に賤し

〔目〕當年七夕祭は子供計にて町内よりはねふた一切不出 柿崎日記

〔綱〕米價頓に賤し

〔目〕米直段は大下落今摺にて十七匁 同上

〔綱〕村林平太郎以下四人貸借公訴は藩より決答となる

〔目〕三奉行申出候青森町之者共江戸佐賀町又兵衛自借用金滞候旨に而又兵衛自公訴に相成候儀に付別紙御達書並青森町之者共御僉議之答書共御渡に付吟味仕候處御達書之表に候得共御領分青森町專太郎外四人儀深川佐賀町又兵衛自去申年御救米買附代金奉行所返納可致分村林平太郎竹野屋權四郎同豊三郎與別紙証文專太郎覺兵衛音吉者沽券狀引當借受金子相滞候旨又兵衛申立に付平太郎權四郎豊三郎口書書面之通取立之專太郎外二人之沽券狀を以去成年より之屋賃をも見込三百七拾八兩貳步貳朱銘々呼出納方可申付處遠路罷出も難義之筋に付一同御領分役場呼出相糺又兵衛申立に相違無候者沽券狀証文共本紙者追而下渡可遣候間書面之金子早々取立自分方相糺若申口符合不致候者右之者共江戸表に差登其段可被申聞候依之証據物夫々相違候旨青森町奉行申立には右御達書面之者共並証文加印之者共一同呼上相糺候處何れも相違無之覺兵衛家屋敷之儀者元來去巳年七月松前箱館辰巳屋七郎兵衛方引當入金子貳百五拾兩借用之分七郎兵衛自米代金之内又兵衛



振向に相成去成年仙波太郎兵衛手代之正兵衛與申者罷下當役場に出訴に及然に覺兵衛難澁に付金繰出兼右家屋敷に而相渡出入相濟候由に而河南屋勘六名目を以出店借致候實者覺兵衛罷在候旨右屋賃並平太郎權四郎借用分何れも早速相渡可申候處近年凶荒打續渡世難澁之處自返濟延滞に及重き御扱に相成候之旨に付覺兵衛自勘六名目に而家賃四拾壹兩貳朱平太郎自五拾兩貳步權四郎自拾六兩壹步貳朱與六拾文取立候旨尤前書之内專太郎儀者五ヶ年以前死病致候旨共別紙當人共自書付取束申出有之然者覺兵衛家屋敷之儀者元來箱館辰巳屋七郎兵衛方より引當相成候を七郎兵衛より又兵衛の振向に相成候儀に而御買付代金又兵衛自借用致候儀に者無之然に去成年仙波太郎兵衛名代正兵衛與申者罷下候節金手配相成兼家賃引入に相成候儀別紙証據書之内証文寫之通相違無之出入相濟候得者右に而御仕向に相成候自外無之其外平太郎權四郎滯金並覺兵衛儀勘六名目に而店借屋賃共都合百八兩錢六十文取立上納に相成候間別紙申出書付共江戸表の御登せ之上御留守居の左之通被仰付候様

江戸佐賀町又兵衛自青森町之者共借金滯候儀に付又兵衛申立に寄御達書を以被仰付候内覺兵衛家屋敷之儀者元來去已年同町權四郎の家屋敷沽券狀用途之處專太郎仲立に而松前箱館辰巳屋七郎兵衛方より引當に入金子貳百五拾兩借受去午年七郎兵衛方自才促向候節權四郎の申向候得共一切相渡不申不得止事利足相渡專太郎名前

新券引當証文に相改差遣候處成年仙波太郎兵衛手代正兵衛與申者又兵衛名代に罷下七郎兵衛自米代金の振向に相成候由に而出訴に及候に付權四郎の渡方申付候得共出金相成兼覺兵衛迎も右同様に付元利三百三拾七兩貳步代の右家屋敷に而相渡出入相濟同町勘六儀新に右家屋敷正兵衛自借受家賃拾五兩に相定覺兵衛住居罷在儀に而發端者覺兵衛儀又兵衛自御救米買附金借用致候儀には無之何れに致候而も成年又兵衛方より引入濟に相成候に付御達書面三百七拾八兩貳步貳朱之内三百拾七兩貳步引落殘四拾壹兩貳朱者子丑兩年並當九月迄之見込家賃取立此度御登せ相成候尤右家屋敷出入相濟候儀に者候得共權四郎者勿論覺兵衛儀も難澁金繰出出來兼候に付何れ成年取究証文面を以御聞届相成候様品能取計候様

前書覺兵衛外又兵衛自借用滯金平太郎自五拾兩貳步權四郎自拾六兩壹步貳朱と六拾文是又御登せ相成候然に權四郎借用分元來三拾六兩壹步貳朱六拾文之處去亥十二月貳拾兩相渡殘拾六兩壹步貳朱六拾文者返濟取延に相成候間利足相添諸雜用勘定不致候得者利足何程相添可申哉不相分旨に付取立不申旨青森町年寄申出候之間其段差合取計候様被仰付候様

右申立書付の金子差登せ方の儀勘定奉行に而取扱候様青森之者共家賃並借受金相濟候處自重き御扱に相成候儀に付公邊向相濟候處に而何れ共可申上候間御聞届被仰付候様



右之通被仰付候様沙汰之通申付之 御日記

〔網〕黒石侯来る 二十七日

〔目〕青森町奉行申出候出雲守様平内爲見分二十七日瀧屋善五郎方に御着翌二十八日平内御出立被成候

堤町入口に町年寄並名主御宿亭主麻上下より御出迎並御見送に罷出候旨  
町同心兩人共先拂差出候旨御出立之節諏訪宮に御参詣被成候旨  
惣人數五十九人に御座候得共當所に而人馬繼立不申候旨 同上

〔網〕八月、輸出米税は特減となる

〔目〕勘定奉行申出候此節兩濱入津之船々米價引合不申積入兼候趣相聞得候然者此節二番船積出時節機會取失申候而者舊穀不少持越に相成新穀相場彌以引下可申與奉存候隨而津出御印米壹俵五文目大豆四文目小口御印者五分増被仰付候様申出之通申付之 同上

〔網〕殘暑甚酷 柿崎日記

〔網〕九月、米價日に賤し

〔目〕米直段日々下落新米は一切出米なし深澤今摺にて拾六匁五分位にて望人なし

〔網〕壹朱銀行使す 二十二日より

同上

〔目〕銀壹朱弘前表通用御差留之由に而町中騒立壹朱に而買物に店方に行き在之人も今日覺候様子よて追々壹朱持参勘定或は買物致し何となく騒立候程にて盡過に相成濱町瀧屋初め問屋中に而も受取不申彌通用差支に相成申候  
二十四日會所自九拾匁直段通用之觸相廻り取引方漸落付候壹朱銀九拾匁直段取引被仰付町中落付候得共御收納早敢取不申堤口に米留浦町組自假手代居る右に付出來一切おし差繼米も賣物もなし搗米差支候體に相成る 同上

〔網〕武田のやつり開場あり 二十三日

〔目〕人形芝居今度初めて當地にて興行致候 村井善記

〔網〕穀類酒類輸出印税の改正あり 二十八日曜日

〔目〕勘定奉行申出候兩濱米大豆津出當新御印米壹俵四文目大豆壹俵同様四文目立被仰付之様尤大豆之儀者米御印自例年下り候得共近年之處者米價自引立之勢に御座候間前書之通被仰付候様 二十八日御日記  
同申出候兩濱自津出物當十月自御印定之儀左之通

一小豆 壹俵 御役四文目

一糶 壹俵 右同斷

一味噌貳斗八 壹俵 同貳文目五分

一醬油半 壹俵 同壹文目五分



- 一酒貳斗入 壹樽 同壹文目五分
- 一白酒貳斗入 壹樽 同貳文目
- 一酢貳斗入 壹樽 同壹文目

右之通御役定被仰付候様願出次第私共に而可申付與奉存候申出之通申付之旨御日記

**綱**十月、米穀類小輸出増印税は免除とある 二日

**目**勘定奉行申出候青森町船問屋共小口津出御印代五步増御免之儀私共迄申出候然者小口御印代之儀者大口御拂御印代與違當月御預分翌月之上納と相成候處自前々五步増被仰付候儀にも御座候得共當時之處にて者御印代も即納に相成且船手問受も不宜趣に相聞得候間以來兩濱共五步増御免被仰付候様白米餅御印之儀壹文目開に被仰付度旨申出候得共玄米自白米者壹文目開夫自餅米者壹文目開之儀前々御定に付申出之趣難被仰付奉存候申出之通申付之 御日記

**綱**十一月、瀧屋善五郎用達金え廩米の皆辨償あり六千二百二俵 七日

**目**勘定奉行申出候青森瀧屋善五郎去冬御米金三千兩元利此節御用達同様御米渡被仰付度旨御勝手方申出候に付取調之處大都壹萬五千六百俵餘に而不少御米高に相成然者御米賦も莫大之御不足に而御行届難相成奉存候間右之分年割渡に仕度穿鑿致せ候得共金高之儀に付年賦渡と相成候而者既に家業方にも相拘且船手氣受も相損殆與難澁仕候間右御渡被仰付候得者年内貳千兩調達仕尙又明春に相成追々御用

辨之儀共申出、御坐候間評議仕候所右貳千兩を以御家中渡御買上米代に御差向被仰付候得者大都壹萬千俵餘御買上相立右を以御渡米御不足補と仕候得者御家中爲方にも相成双方都合にも相成可申與奉存候間此節元利三千三百六拾兩之處に青森舊穀積殘七千俵外に駄下米之内九千貳百三俵御渡被仰付候様舊穀之儀壹俵貳拾貳文目新穀之儀者壹俵貳拾四文目立を以御渡被仰付候之様 同上

**綱**十二月、高屋治助は醸造石特減となる 八日

**目**青森町奉行申出候青森町高屋治助儀造酒家部高百五拾石所持之處内通難澁に付酒藏並諸道具大破に相成候得共手入方行届兼迎も家部高造酒相成兼候間五拾石減石被仰付度旨申出之趣難被仰付筋に御座候得共段々添書申出之趣不得止事相聞得候間格別之御沙汰を以申出之内三ヶ年之内五拾石減石被仰付候様附紙之通申付之 同上

**綱**穀類價稍回復す鱈漁甚少し

- 目**出米二十一匁五分 餅米二十四五匁 大豆拾六匁位
- そば八匁 粟二十四五匁

當年は冬至後網さしに及びしも鱈漁事少にして當月に至りては皆無の姿に相成候

柿崎日記

**綱**外科醫高木啓太郎開業 日 缺